



2015 第68回

岩手芸術祭

記録集





ごあいさつ

第六十八回岩手芸術祭実行委員会
会長 柴田 和子

県民の芸術文化活動の祭典として定着しております岩手芸術祭も、多くの皆様に親しまれながらこれまで回を重ね、第六十八回を数えるに至りました。

岩手芸術祭は、戦後の混乱期に芸術文化活動の振興により人々の心に潤いを与えようと昭和二十二年に始まって以来、先人たちの努力により途絶えることなく毎年開催されてまいりました。さまざまな時代を経て今日まで長い歴史を刻んできたことを思いますと、誠に感慨深いものがございます。

さて、平成二十三年三月に発生した東日本大震災から、早いもので五年の月日が流れました。この間、私どもは文化芸術による心の復興を強く願いながら、岩手芸術祭の運営に力を注いで参りました。芸術祭の創設時の思いの深さを顧みるにつけ、この活動の重要性を再認識し、今後も灯火を絶やすことなく、次の世代に引き継いでいきたいと考えております。

ここに第六十八回岩手芸術祭の記録集をまとめ、刊行いたします。本誌を芸術文化活動の参考資料としてご活用いただければ幸いに存じます。

終わりに、岩手芸術祭の開催に当たりまして、御支援、御協力いただきました岩手県教育委員会をはじめとする各主催者団体並びに各市町村、関係団体、関係各位に感謝を申し上げます。ごあいさついたします。

ごあいさつ

第68回岩手芸術祭実行委員会会長 柴田和子

第68回岩手芸術祭の概要

開幕式典・フェスティバル……………5

美術展

……………8

日本画 洋画 版画 彫刻 工芸 書道 写真 デザイン 現代美術
水墨画

三賞受賞作品……………21

巡回美術展

……………30

小・中学校美術展

……………31

芸術祭受賞作品……………40

巡回小・中学校美術展

……………42

演劇

……………43

映像

……………48

伝統芸能

……………50

能楽 邦楽 茶道 華道 吟詠 剣詩舞道

音楽

……………70

合唱 声楽 弦楽 三曲 吹奏楽 ピアノ ギター

舞踊

……………88

洋舞 日舞

演芸

……………93

民謡 新舞踊

県民文芸作品集

……………99

文芸祭

……………101

小説大会 戯曲大会 文芸評論大会 随筆大会 児童文学大会 詩の大会

短歌大会 俳句大会 川柳大会

アートフェスタいわて2015—岩手芸術祭受賞作品・推薦作家展

……………112

テーマ募集

……………113

実行委員会名簿

……………114

収支予算書

……………116

事務局日誌抄

……………117

付録

……………154

開催要綱

……………153

実行委員会会則

……………150

岩手芸術祭運営組織

……………149

美術部門実行委員会運営規程

……………149

実行委員会感謝状贈呈に関する規程・選考基準

……………147

協賛事業の名義の使用承認事務手続要領

……………143

美術展公募要項

……………135

県民文芸作品集第四十六集公募要項

……………132

文芸祭開催要項

……………128

岩手県映像コンクール作品募集要項

……………128



第68回岩手芸術祭の概要

第六十八回岩手芸術祭は、平成二十七年十月三日土曜日、開幕式典・フェスティバルを岩手県民会館大ホールにて開催、その幕を開けた。

今年度も岩手芸術祭では、県民の優れた芸術文化活動の成果発表と鑑賞の機会を提供するため、合わせて東日本大震災からの心の復興を文化芸術で後押しするため、「未来へ紡ぐ、岩手の芸術 さつとつながる ずっときらめく」を総合テーマとし、盛岡市をはじめ県内各地で美術展、小・中学校美術展、演劇、伝統芸能、音楽、舞踊などの舞台公演等、さらには県民文芸作品集の刊行や文芸祭など多彩な事業を展開した。

作品の公募状況は震災以降の落ち込みからの改善の兆しは未だ感じられないが、若い方々の参加も目に付くようになり、明るい話題もある。各事業の入場者数については、目安としている三万人には届かなかったものの、多くの方にご参加いただいた。人口減少、趣味の多様化、様々な困難があるかと思うが、これからも長く続けていきたいものだ。

実行委員会事務局としては、これまでの伝統を踏まえながら、より多くの県民の皆様にご参加いただけるよう、時代に見合った事業運営を目指し、創意工夫をしていきたい。

今年度も予定された事業を滞りなく実施することができた。各部門の努力と熱意に敬意を表すものである。

声楽部門演奏会出演者公募要項	126
ピアノ演奏会出演者公募要項	125
小・中学校美術展作品募集要項	124
ポスターデザイン	119
編集後記	155
第68回岩手芸術祭市町村別応募状況一覧	
第68回岩手芸術祭開催状況一覧	

表紙デザイン 吉田 康男

第68回岩手芸術祭 実施状況の概要

部門等	実施内容等
実行委員会	開幕式典／表彰式／テーマ募集／記録集作成／実行委員会(3回)
開幕フェスティバル	「希望郷いわて～芸術・文化と体育の躍動」(鑑賞者800名)
美術展	公募展 日本画／洋画／版画／彫刻／工芸／書道／写真／デザイン／現代美術／水墨画 (応募840点、鑑賞者4,027名)
巡回美術展	美術展上位入賞者作品77点及び映像コンクール入賞作品5点を県内5会場で巡回展示・上映 (鑑賞者1,728名)
小・中学校美術展	児童・生徒の書写・美術作品の公募展 小学校絵画・書写／中学校美術・書写 (応募6,859点、鑑賞者2,206名)
巡回小・中学校美術展	小・中学校美術展全入賞作品及び入選作品の一部、合わせて310点を県内4会場で巡回展示 (鑑賞者210名)
演劇	5会場で5団体が公演 (鑑賞者868名)
映像	映像フェスティバル(映像コンクール入賞作品の上映発表等) (応募9点、参加者数9名、鑑賞者40名)
伝統芸能	茶会／吟詠剣詩舞道／謡と仕舞の会／華道展／邦楽のつどい (鑑賞者4,379名)
音楽	ソロと室内楽の調べ／ピアノ演奏会／三曲演奏会／声楽部門演奏会／ギター音楽の夕べ／吹奏楽演奏会／合唱祭 (鑑賞者3,134名)
舞踊	洋舞発表会／日本舞踊発表会 (鑑賞者2,985名)
演芸	新舞踊発表会／岩手民謡まつり (鑑賞者1,908名)
移動公演	新舞踊〔奥州市〕／新舞踊〔一戸町〕 (鑑賞者343名)
県民文芸作品集	公募による作品集の刊行 小説／戯曲・シナリオ／文芸評論／随筆／児童文学／詩／短歌／俳句／川柳 (応募496点)
文芸祭	小説大会／戯曲大会／文芸評論大会／随筆大会／児童文学大会／詩の大会／短歌大会／俳句大会／川柳大会 (参加者353名)

公募事業応募点(者)数一覧(第68回／第67回)

種目	応募点数	種目	応募点数	種目	応募点数
小・洋画	185/211	小・小説	15/20	小・書写	2590/2697
版画	36/39	戯曲・シナリオ	4/3	中・美術	382/289
彫刻	15/15	文芸評論	7/5	中・書写	645/810
工芸	49/58	随筆	57/53	合計	6859/7685
書道	184/206	児童文学	14/11	映像	9/14
写真	136/142	詩	70/70	ピアノ	19/18
デザイン	55/87	短歌	70/80	声楽	0/4
現代美術	25/35	俳句	181/171		
水墨画	123/133	川柳	78/65		
合計	840/972	合計	496/478		

開幕式典・フェスティバル

平成二十七年十月三日土曜日、岩手県民会館大ホールにおいて、第六十八回岩手芸術祭の開幕式典及びフェスティバルを開催した。

開幕式典では、柴田和子実行委員会会長の開幕宣言の後、長年岩手芸術祭の発展に貢献された十名の方々に対して感謝状と記念品を贈呈し感謝の意を表した。さらに、今年度の芸術祭テーマとして選定された「未来へ紡ぐ いわての芸術 きつとつながる、ずっときらめく」の作者である風張沙樹さんの表彰を行った。

式典に引き続き開幕を盛り上げるフェスティバルとして、来年度に開催を控えた「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」を盛り上げるため「希望郷いわて～芸術・文化と体育の躍動～」を開催した。構成・演出は関芳樹氏(盛プロ・岩手県芸術文化協会理事)、舞台監督に近藤英一氏、音楽コーディネーターとして安倍一洋氏(岩手県吹奏楽連盟)、合唱コーディネーターとして山田靖了氏(岩手県合唱連盟)、民俗芸能コーディネーターとして藤沢清美氏(岩手県民謡協会)、また出演は岩手県芸術文化協会加盟団体の協力を得た。

舞台は、第一部「祈りから希望へ」では、「奇跡の一本

松」(陸前高田市)の映像とともに東日本大震災の被災者への祈りと希望を込めた弦楽や太鼓の演奏を、第二部「『希望郷いわて国体・希望郷いわて大会』に向けて」では国体・オリンピック等で活躍の岩手県出身アスリートによるスペシャルトークが行われ、昭和四十五年「岩手国体」からの岩手県の歩みを振り返り、来年の国体に向けてエールを送った。さらに第三部「希望郷いわて～芸術・文化と体育の躍動～」では震災復興を合唱等により、全国・世界へ向けて発信した。

鑑賞者は八百名であった。

○功労者表彰(十名)

美術部門／富田喜平司(洋画)・吉田 稔(写真)
舞台等部門／佐藤 緑(デザイン)・関八代江(茶道)・
宮野哲美(合唱)・遠山玄一(三曲)・
新里よし子(日舞)・大宮恵子(民謡)
文芸部門／村上憲男(戯曲・シナリオ)・
佐藤 康(川柳)

○協力

さだまさし／映像提供 IBC岩手放送／記録撮影 岩手県写真連盟

美術展

県民の優れた芸術文化活動の成果発表と鑑賞の機会を広く県民に提供し、芸術文化の創造と発展に寄与することを目的として開催しているものである。

美術部門実行委員会の運営

五月十二日 第一回実行委員会

(部門役員の選出、開催計画、公募要項等について協議)

六月三日

事務局員会議
(展示日程、印刷物の配布計画等について協議)

八月二十一日 第二回実行委員会

(開催日程、作品搬入・審査等について協議)

二月十六日

第三回実行委員会
(実施状況の報告、次回の開催計画、公募要項等について協議)

作品搬入・受付

九月五日(土)、県民会館及び公会堂において行われた。応募点数は十種目で八四〇点であった。(昨年は九七二点)

作品審査

九月六日(日)、各搬入・受付会場において種目別に行われた。種目別の入賞・入選作品数は次のとおり。

- 日本画 三二一 (三二二) ○ 洋画 一八五 (一八五)
 - 版画 三六 (三六) ○ 彫刻 一五 (一五)
 - 工芸 四七 (四九) ○ 書道 一五八 (一八四)
 - 写真 一二六 (一二六) ○ デザイン 五五 (五五)
 - 現代美術 二五 (二五) ○ 水墨画 一一五 (一二三)
- ※ () 内は応募点数

展示会場及び会期

- 会場・岩手県民会館展示室
- 第一期 十月三日(土)～六日(火) (洋画・彫刻)
 - 第二期 十月九日(金)～十二日(月)・(祝) (工芸・書道)
 - 第三期 十月十五日(木)～十八日(日)
 - 第四期 十月二十二日(木)～二十五日(日) (日本画・版画・水墨画)

表彰

芸術祭賞、優秀賞、奨励賞及び部門賞受賞者の表彰式を十一月二十一日に行った。(会場・サンセール盛岡)

美術部門実行委員会委員

(日本画) 西川善有・片山道子 (洋画) 石川西三・日下信介 (版画) 日山登啓・鈴木和雄 (彫刻) 清武英司・曾根達

也 (工芸) 阿部裕之・佐々木秀次 (書道) 佐藤平泉・佐々木飛鴻 (写真) 太田信子・菊池克美 (デザイン) 井上美知子・竹村育貴 (現代美術) 小笠原卓雄・浅倉 伸 (水墨画) 鈴木孝男・北村義美

種目別の記録

日本画 芸術祭賞 〓 「盆の灯」花立ゆかり (矢巾町) 優秀賞 〓 「北上川」遠藤栗子 (盛岡市) 奨励賞 〓 「野薊」平松比紹 (盛岡市) / 「椿咲く」藤原妙子 (矢巾町) 部門賞 〓 「錦秋・五葉沼」阿部花子 (紫波町) / 「夏野」松田津多子 (盛岡市) / 「秋の芸術」柏原レイ子 (紫波町) / 「街道」佐野恭子 (盛岡市)

《講評》 会場には、花をテーマにした作品と、人物や静物、風景などが混じりながら明るく、やわらかな雰囲気をつくっていました。内容はちがっても画面に表れる絵の表情は、自己を主張していました。また、女性特有のきめ細かさ、筆使いも丹念にじっくり描かれている様子が見ええました。共通の意識をもち一緒に学び合うことができる幸を感じました。日本画の展望が明るさを取り戻したように思いました。

日本画審査



芸術祭賞 〓 (盆の灯) 花立ゆかりは、やや暗い背景に淡い円が連なり、ファンタジックな世界をつくらせている。希望や不安、そして、願望と果しない夢をどじ込めソフトな仕上がりになった。優秀賞 〓 (北上川) 遠藤栗子は、遠近感をやわらかに、やさしいタッチで、北上川への思いを込めて、淡い黄土系や明るいグレーを使っていねいに仕上げていました。奨励賞 〓 「野薊」平松比紹は、前景の薊を強調し、中景から遠景を淡い色調でぼかしながら、家、木立などを幻想の世界の中に引き込むように表現していました。奨励賞 〓 「椿咲く」藤原妙子は、画面いっぱいにあふれる花々が、思い思い競い合っていて、今を唄い上げています。

(西川善有)

審査員 西川 善有 (岩手県日本画協会会長)

片山 道子 (副会長)
豊間根久子 (顧問)

〔洋画〕 芸術祭賞 〔Epitaph〕高田松原 高澤俊郎 (福

島原) 優秀賞 〔とうほく〕藤原日菜子 (山形県) 奨励賞 〔手〕佐藤小子 (奥州市) 〔街・盛岡〕橋場恒弘 (矢中町) 部門賞 〔花物語〕前川ゆみ子 (宮古市) 〔2014イーハトーヴに帰す〕米内敏明 (盛岡市) 〔安家川から・松ケ沢〕工藤哲郎 (岩泉町) 〔津軽のしよいつこ (行商)〕大久保義雄 (奥州市) 〔鉱山跡15・II〕八木毅 (盛岡市) 〔あの日の残影III〕山根ノブ子 (山田町) 〔イーゼルと壺のある静物〕白石良基 (一関市) 〔大きく叫びたい〕三輪幸子 (滝沢市) 〔岬の番屋〕阿部和子 (滝沢市) 〔おくる〕伊藤真理子 (盛岡市) 〔湖畔の目覚め〕菊池 洋 (奥州市) 〔RANDOM〕泉山教道 (矢中町) 〔春待ち〕大矢忠信 (二戸町) 〔孫への贈りもの〕鈴木ミエ (盛岡市) 〔創・層・想・7〕菊池和弘 (宮古市) 〔家族の肖像〕老鳩砂泥 (盛岡市)

《講評》 応募点数はここ数年200点超で推移していたが、今年は200点に届かず、185点に留まった。数に

一喜一憂する訳ではないが、出品者の中核である60〜70代の減少が著しく年代の構造的な減少傾向が、今後危惧される。

全般に作品のレベルは高く、本当に(真に)描きたいものを率直に描き表わそうとしている作品が多かった。どの作品も真摯な創作姿勢が感じられ、好感を受けた。

芸術祭賞、高澤俊郎さんの『Epitaph』高田松原』は、震災後の故郷高田に取材し、津波で樹皮が剥がれ、骨のよなな枝や根だけに変容した松を、情緒を排しリアルに描写している。虚無の空間で残骸と化した松は、逆に造形的な魅力が増し、白の背景を相俟って、シユールな印象を与えている。優秀賞、藤原日菜子さんの『とうほく』は、落ち着いた色調の中、画面中央に大きく女性を浮び上げらせ、多様なイメージが膨らんでくる。岩手をはじめ、東北という故郷の繋がりを主題



▶洋画審査

に、包み込まれるような心象的作品にまとめている。奨励賞、佐藤小子さんの『手』は、自らの手に慈愛の気持ちで、画面一杯に手を幾つも描いた。そのどの手も表情豊かで、手の会話が聞こえてきそうな、独特の雰囲気とユーモアも感じられる作品である。同賞、橋場恒弘さんの『街・盛岡』は、教育会館最上階から菜園方面の街並を眺め、冬の淡い色調で丹念に描いている。重なり合っって林立する建物は絵に奥行きを与え、柔らかな色調と共に、表情豊かな盛岡が表現されている。

傾向として、半抽象の作品が多く、中には多面的な解釈ができる分、インパクトの弱い作品も散見した。また、CGを利用したと思われる作品は、多様な表現が可能であるが、オリジナリティの捉え方等、今後課題としたい。水彩作品では、テーマ性・描写力共に充実した完成度の高い作品が多く、今後更に飛躍されることを期待する。

(目下信介)

審査員 洋画部門理事

〔版画〕 芸術祭賞 〔はじまりとおわりについて〕岩渕俊

彦 (盛岡市) 優秀賞 〔樹影―夏―〕中村文子 (盛岡市) 奨励賞 〔たてものI〕〔たてものII〕阿部夏希 (盛岡市) 部門賞 〔始

まりの時季〕渡辺万里 (盛岡市) 〔老いて迷い、慈しむ〕金澤龍一 (釜石市) 〔I hope that wind blows I〕瀬川はるひ (奥州市) 〔雪化粧〕源新和子 (盛岡市)

《講評》 平成27年度の版画部門は、出品数36点・25名の出品者で前年よりも減少している。

全体的に木版・銅版はほぼ半々のなかで、紙版が気をついた。また、盛岡大学の学生が今年も木版画7点を出品しており、卒業後の制作活動につながっていくようエールを送りたい。今後、意欲ある方々へ事務局から出品を促すための細やかな配慮や呼びかけを期待したいところである。

芸術祭賞に輝いた岩渕俊彦さんは、盛岡市内に版画工房を営むベテラン作家で、宇宙をテーマにものごとの始まりと終わりの深層を表現して共感と呼んだ。暗黒の空間から



◀版画審査

生まれては消える得体の知れない「なにか」を見るものに想像させ、評価された。

優秀賞の中村文子さん「樹影―夏―」は、堅い銅から柔らかい陰影をつまみ出すように心地よい。ここ数年、探求し続けた技法が、完成度を増したと言えよう。

奨励賞の阿部夏希さんは、モチーフの建物が発熱したり揺れ動いたり、楽しい画面構成で自由な内面をみせた。一方、銅と木の混合によって表現した軽やかな連作「note」の伊藤由美子さんが奨励賞に選出されている。

部門賞では、銅版の渡辺万里さんがメゾチント技法で色彩を駆使し、魅力的な雰囲気表現。木の温もりを宿す薄い繊細な刷りで、金澤龍一さんは東日本大震災という重いテーマに挑戦しながらも、観る側に爽やかな印象を与えている。源新和子さんのパワーは、重量感のある樹氷の「雪花粧」として結実した。紙版画の瀬川はるひさんは、自由な空間にもっと奔放に遊んだらいい。

版画は、小さな蔵書票から巨大なものまで、凸版・凹版・孔版・CGなど各種技法を取り混ぜ制作できる。内なるエネルギーを大胆に駆使して頂きたいと思う。

審査員 田村 晴樹（画家）

阿部 陽子（版画家・国画会会員）

（阿部陽子）

られた。テーマも多様で、それぞれの作者の思いが見事に表現されていた。芸術祭賞の黒沼令さんの作品は、木彫の伝統的技法を踏襲しながらも、独自の現代的感性と高い造形力を融合させた個性豊かな作品である。センスの良い彩色により、抑制されたイメージが効果的に表現され、見る者を引きつける。優秀賞の佐藤芳宏さんの作品は、空間構成にやや難はあるものの、ユニークな感性が前面に出てくる力を感じる秀作である。奨励賞の村上涼香さんの作品は、若い感性が光る作品である。自らが表現したいものを丁寧に取り上げようという気持ち伝わってくる。同じく鈴木紳二さんの作品は、卓越した木彫技術による造形と素材が相まって心とむ表現となっている。部門賞の兒玉智江さんの作品は、粘土を焼成して作りあげた動きのある力強い形が魅力である。」

高校生や大学生の若い出品者が増えたことが、ここ数年の傾向としてあげられる。特に、高校生は2年連続で優秀賞を受賞するなど、ベテランの出品者の中でも、決して見劣りしない内容の作品をつくり上げ、存在感を示している。出品者一人ひとりを取り巻く制作環境はそれぞれ異なるが、彫刻に対する探求心には共通するものがある。彫刻への強い思いを持った方々が、世代を超えて切磋琢磨できるように場を提供するために、部門として一層の努力をし

【彫刻】 芸術祭賞 〓「うれう」黒沼 令（福島県） 優秀賞 〓「でくのぼうと山猫」佐藤芳宏（盛岡市） 奨励賞 〓「YU-HO」村上涼香（滝沢市） 〓「波と岩の上のミニミズク」鈴木紳二（奥州市） 部門賞 〓「古代の記憶」兒玉智江（北上市）

《講評》

出品数はここ数年横ばい状態が続いているが、今年度の初出品の方が6名であったのは、今後の出品数の増加に期待が持てる状況である。内容的に見ると、昨年度までは人物を題材とした作品が多く、全体の8割近くを占めた年もあったが、今年度はテーマ、素材とも幅広く、個性的で多様な表現が見られたのが特徴である。全体評を含め受賞作については、審査を担当していただいた佐藤淳一先生の講評を掲載する。

「石膏、木、大理石など、様々な素材による作品が見



▶彫刻審査

ていきたい。

審査員 佐藤 淳一（東北生活文化大学教授）

（清武英司）

【工芸】 芸術祭賞 〓「麻の葉透羽釜」石田 温（盛岡市） 優秀賞 〓「草木染「歳寒の三友」」工藤祐造（紫波町） 奨励賞 〓「青白磁「晶」」竹田康夫（盛岡市） 〓「風の星座」昆野明栄（遠野市） 部門賞 〓「無限の旋律」松ノ木好恵（遠野市） 〓「櫛拭漆盛器」大森 翼（宮古市） 〓「備前自然釉「しずく」」耕野静枝（花巻市） 〓「奏春の草原」佐々木京子（盛岡市） 〓「メモリー」橋本静子（紫波町） 〓「突風」南部歳時記、平笠女裸参り 〓「三達屋珂悦（盛岡市）」

《講評》

第68回岩手芸術祭工芸部門の総搬入数50点、昨年より数点の出展数減があった。芸術祭賞「麻



▶工芸審査

の葉透羽釜」石田温氏の作品は、南部の伝統に培われて来た鉄器の中に、現代的な独自の感性で表現した美しい形状の秀作である。優秀賞「歳寒の三友」工藤祐造氏の作品は細やかな熟練の絞りの技法が、豊かな表情を見せている草木染のタペストリーである。奨励賞青白磁「晶」竹田康夫氏の作品は、力強さと上・下のバランスの良さが評価され、奨励賞「風の星座」昆野明栄氏の作品についても白と紺がバランスよく、未来に向かって伸びやかに広がって行く表現の巧みを感じるタペストリーである。部門賞から、「無限の旋律」松ノ木好恵氏の作品は威圧感や無駄な色のない、素直な気持ちで響いて来る作品である。「樺拭漆盛器」大森翼氏の作品は樺の素材と木目を上手く見せながら、実際の処理が見事である。備前自然釉「しずく」耕野静枝氏の作品は、正面と後方に表現された質感の二面性が評価に結びつき、「奏春の草原」佐々木京子氏の作品は悠々としたフォルムと、下方の折り返しに作者の意図が感じられた。との言葉を審査員の高橋貞夫先生より頂いている。他橋本静子氏と三達屋珂悦氏が受賞している。次年度はより多くの出品を期待したい。

（阿部裕之）

審査員Ⅱ高橋 貞夫（日展会員）

菊池 房江（岩手工芸美術協会会長）

芸術祭賞は熊谷碓斗さん（盛岡市）の漢字作品。流動美溢れる筆致で鏝度の高さと安定感がある。優秀賞の山本杏春さん（盛岡市）の仮名作品は、二段構成で素晴らしいハーモニーを演出した。奨励賞の千葉寿幸さん（一関市）の篆刻作品は、技術の高さと鏝度の深さで、方寸の世界を存分に発揮している。同じく奨励賞の畠山素園さん（花巻市）の作は連綿が美しく、自在に躍動する行草体に仕上げた。

巡回展には、三賞作品に加え、上野東雲さん（盛岡市）の漢字作品、菅野迪子さん（陸前高田市）の漢字仮名交じり作品、金野翠苑さん（大船渡市）の漢字仮名交じり作品、田中遊雪さん（盛岡市）の仮名作品の四点が選出された。上野さんは古典美に立脚した多字数作品を見事に表現した。菅野さんは紙面構成に気を配りながら躍動感のある作品に仕上げた。金野さんの漢字仮名交じり書は、全体構成が見事で、潤渇、余白美



▶書道審査

書道

芸術祭賞Ⅱ「高青邸詩」熊谷碓斗（盛岡市）
 優秀賞Ⅱ「あきののに」山本杏春（盛岡市）
 奨励賞Ⅱ「老子語五句」千葉寿幸（一関市）
 部門賞Ⅱ「万葉集のうたを」餘目彩佳（盛岡市）
 「万葉集より」伊藤紫月（盛岡市）
 「李商隱詩二首」上野東雲（盛岡市）
 「鄭明選詩」兼平岱夔（盛岡市）
 「韓念詩」川下子鳳（紫波町）
 「夜」菅野迪子（陸前高田市）
 「吉田一穂の詩より」金野翠苑（大船渡市）
 「劉嗣紹詩」工藤明竹（滝沢市）
 「蔡楠詩」黒澤未歩（盛岡市）
 「良寛の歌（秋）」古守虹苑（盛岡市）
 「萌え出づる」田中遊雪（盛岡市）
 「王士禎詩」千葉桂華（紫波町）
 「徳富蘆花の詩」照井皓月（花巻市）
 「古今和歌集より」長谷川鶴舟（盛岡市）
 「小町集より」藤原春苑（花巻市）
 「思ひつつ」丸山篁香（滝沢市）
 「李商隱詩」丸若敬葉（二戸市）
 「古今和歌集より」八木橋宏苑（盛岡市）

《講評》

応募点数158点、入賞入選作品158点、展示作品は公募、招待、審査員合わせて184点。近年続く高齢化の影響等で、応募点数は減少したものの、出品作品には力作が多く、今後も各地区からの出品を大いに期待したい。

を追求した点が評価された。田中さんの仮名作品は、渴筆が大胆かつ魅力的に、大字仮名を縦形式に仕上げた。各書体の全貌が個性的な表現で彩られ、点と線の芸術とその奥深さを感じとれる。全体構成や、完成度の高さを味わっていただきたい。

（佐々木飛鴻）

審査員Ⅱ佐藤 平泉（岩手書道協会会長）

- | | | |
|-------|---|-----|
| 斎藤 溪石 | 〃 | 副会長 |
| 堀内 青巒 | 〃 | 副会長 |
| 野田 杏苑 | 〃 | 副会長 |
| 吉田 晨風 | 〃 | 副会長 |
| 澤藤 華星 | 〃 | 理事 |
| 玉澤 岑岩 | 〃 | 理事 |
| 鳴海 起鳳 | 〃 | 理事 |
| 山火 葉舟 | 〃 | 理事 |

写真

芸術祭賞Ⅱ「遠野物語」太田信子（盛岡市）
 優秀賞Ⅱ「書き初め」星 岩男（盛岡市）
 奨励賞Ⅱ「夏のおじょうさん」星 道子（盛岡市）
 部門賞Ⅱ「本州最東端開港400年の月」因幡繁之（宮古市）
 「凍霧幻想」高橋順吉（盛岡市）
 「水の世界へ」菅原章次（奥州市）
 「空へ」平賀徳子（花巻市）

／「灼熱」吉田瑞夫（盛岡市）／「幻想一本桜」工藤正典（盛岡市）／「かたらい」山田博彦（盛岡市）／「紙きれ」松本賀久也（盛岡市）／「ひ孫の出番前」杉本英雄（盛岡市）／「好奇心」松島嘉子（盛岡市）／「送り盆」盛田盛信（盛岡市）／「反抗期」町屋伸一（盛岡市）／「祭り祈願」平館 徹（盛岡市）／「闘魂」板垣弘清（花巻市）／「馬ゴの虹彩」及川茂輝（盛岡市）／「こどもの世界」藤村ひろ子（盛岡市）／「笑顔」藤井 齊（盛岡市）／「古木」高塩 稔（盛岡市）／「仕事場」小田健三（盛岡市）／「青春満開」鈴木道明（一関市）

《講評》 上手い下手の差があるかと思っただけですが、みんな平均的に上手くて悩みました。上位入賞は、みんな撮るものに対しての向かい方が素晴らしかった。ただ漠然とは撮っていない。目的を持って撮っている。特に組み写真、最初は始めから前もって組み立てを考えて撮られている。ただ撮って、後で組めばいいやと思っただけで撮っていない。似かよった写真は1つ残して、はぶかせていただきました。

芸術祭賞「遠野物語」太田信子＝遠野の代表的なイペントみたいなのを、切れ目のない上手い組み方でまとめている。4枚でまとめたのが成功、3枚でも5枚でもうまくいかなかった。

霧閉気のある作品。同賞「水の世界へ」菅原章次＝水中から捉えた不思議な写真、少女の足とか幽霊の足みたいに見える面白さ。少年は地球が何かに滑り込んでいく、そういう面白さのある作品。白黒で成功した。同賞「空へ」平賀徳子＝実に若々しい。みんな足を曲げてる、一人だけ足を伸ばしている。そういう面白さ。明るい生活態度が想像できる。

審査員＝清水 公代（日本写真家協会会員）
（清水公代）

【デザイン】自由芸術祭賞＝「久慈の琥珀」竹村育貴（盛岡市） 優秀賞＝「百鬼昼行・座敷童子」「百鬼昼行・鬼」のひとこえ 村野充弘（盛岡市）／「NO MORE WAR」吉田康男（盛岡市） 部門賞＝「再発、迷走病」蛇口慎治（大槌町）／「ちゃぶだいがえし」村野充弘（盛岡市）／「ストップ「いじめ」の信号」内村義夫（花巻市）／「銀河鉄道」加村なつえ（盛岡市）

【課題】金賞＝「これからどうする？」伊藤美喜（盛岡市） 銀賞＝「牛のせい」米沢彩乃（盛岡市） 銅賞＝「地球が沸騰中！」中田茉莉（盛岡市）

優秀賞「書き初め」星石男＝非常に愉快な想像作品。上の方は女性が靴下をはいて滑ってるような想像もできる。鴨の足跡がうまくいった。白黒的な仕上げも良かった。奨励賞「夏のおじょうさん」星道子＝少女のモノトーン的な表現が良かった。しゃれた作品。組み方も、自転車に乗っている人、歩いている人、少女の目もきっちり撮られている。できれば2番目3番目を逆にしてほしかった。同賞「兄弟」菊池賢一＝車の中、光がうまく回っている。いかにも愉快そうで、身内ならではの作品。他人ではこの表情は撮れない。

部門賞「本州最東端開港400年の月」因幡繁之＝光に照らし出されている船、広角で撮ったせいとか、細長く写りマンガチックで、それでいてしかも現代的。夜の風景としてうまく捉えている。同賞「凍霧幻想」高橋順吉＝寒々とした光景をモノクロ的な表現で、寒さを表現できた。東北らしい



▶写真審査

《講評》 震災からの復興は、まだまだ道半ばではあるが、次代へ向けての何かしらの希望や想いを胸に抱かせる。今年、ベテランのポスター作品に秀作が多い。

芸術祭賞・竹村さんの「久慈の琥珀」は、琥珀の原石を手にした体験を基に、太古との交換を通してインスパイアされた作品で、色彩の神秘性をグラデーションで表した。

優秀賞・佐々木さんの「百鬼昼行シリーズ」は、妖怪をモチーフに、古くから各地に伝わる説話への関心呼び覚めます。3連作の迫力が視界に刻まれる。

奨励賞・村野さんの「つるのひとこえ」は、権力を持つ者の意見への抑止の意で、鶴のクチバシへ有刺鉄線を巻いた。吉田さんの「NO MORE WAR」は、折り鶴を通して世界の恒久平和への祈りを託した。

部門賞・蛇口さんの「再発、迷走病」は、あくなき戦争反対への意思を迷彩模様で視覚化した。村野さんの「ちゃぶだいがえし」は、



▶デザイン審査

物事の判断がブレたり、朝令暮改が起きたりする責任の所在なき社会への風刺である。内村さんの「ストップ「いじめ」の信号」は、いじめへの警鐘をダイレクトなメッセージに込めた。加村さんの「銀河鉄道の夜」は、賢治のファンタジックな作品世界へのオマージュを表現した。

課題部門、金賞・伊藤さんの「これからどうする？」は、温暖化で生存の危機に瀕するシロクマと地球を積み木で危うく訴える。銀賞・米沢さんの「牛のせい」は、牛がゲップで放出するメタンガス以外にも、温暖化の要因があることを示唆している。銅賞・中田さんの「地球が沸騰中！」は、地球に見立てた鉄瓶の温度上昇を、身に迫る環境リスクとオーバーラップさせた。

コミュニケーションのメソッドとしてのデザインニングを原点に、今後も表現を高めて欲しい。

（村上由美子）

審査員 長谷川羊介（クリエイティブディレクター）

村上由美子（岩手デザイナー協会会長）

現代美術

芸術祭賞 2015年9月3日 鈴木研作

（滝沢市） 優秀賞 「つなぐ」しもかわらさとこ（盛岡市）
奨励賞 「波の環」田沼栄美（久慈市）／「失われた音楽」上野あづさ（盛岡市） 部門賞 「欲望」千葉準也（盛岡市）



◀現代美術審査

に照れくさい思いを起こさせるほどストリートに伝わってくる。加村なつえは、様々なモチーフを慈しむように箱の中に住ませ、箱の内側に描いた儂いイメージと共鳴させることで、現実と夢が共に暮らす家を生み出している。三河渉は、収集、保存、修復、提示という博物館的な方法論を模倣しながら、プリン石という個人的な興味に基づく概念が、広く共有されることを目論んでいる。高橋キサ子は、雑木と雑草をモチーフに、立体造形と色彩表現の両立に挑むことで、生命力と生の儂さ、そして、過ぎゆく時間にはせる思いを表現しているようだ。

テレビシーは通じない。願望だけでは作品はできない。アイデアや技術だけに頼らず、広い視野を持ちながら、自分にしか出来ない方法を模索してほしい。

（梅津 元）

／「明日見る夢は懐かしい」加村なつえ（盛岡市）／「プリン石」三河 渉（盛岡市）／「時の変容」高橋キサ子（盛岡市）

《講評》

「この分野は表現方法が多様であるため、審査も難しい。今年も力作揃いであったが、表現に向き合う動機と、見る人に思いを伝えるための具体的な方法が、感覚的な魅力に繋がっている作品を評価した。

芸術祭賞・鈴木研作は、ピンホールカメラがひきだす印画紙の魅力と、未知の惑星を探索するかのような高揚感と不安感をもたらす不思議なイメージを評価した。優秀賞・しもかわらさとこは、線香で和紙に残す物理的な痕跡を構成要素として、線、面へと表現を展開し、見るものをじわじわとひきこむ魅力的な画面を成立させている。

奨励賞・田沼栄美は、波という難しいモチーフを、立体的な構造を孕んだ円環状の形態として表現する秀逸な発想によって、飽くことなく見ることが出来る作品に仕上げている。上野あづさは、楽譜、記号、文字を想起させる線描を五線譜に描くことで、解説不能でありながら、見る者の心に深く響く無音の音楽を奏でようとしているようだ。

部門賞・千葉準也は、河原で気に入った形の石を見つけ、その場で線を描いているが、その衝動的な欲求は、見る者

審査員 梅津 元（埼玉県立近代美術館主任学芸員）

水墨画

芸術祭賞 「嚴冬の劔岳」菊池一政（紫波町）

優秀賞 「磐梯秋声」谷藤千嘉子（盛岡市） 奨励賞 「瀝原滔滔」阿部慶造（盛岡市）／「秋の思い出」中渚寿美子（宮古市） 部門賞 「雪嶺」奈良妙子（秋田県）／「原風景」森 愛子（盛岡市）／「樹海の入口」大野聖子（盛岡市）／「樵林」谷藤弘治（盛岡市）／「昼下がり」千葉勝歳（盛岡市）／「秋色」高橋清治（盛岡市）／「薫風」谷村キヌ子（盛岡市）／「流韻」村田紀美子（北上市）／「雪の菩提寺」村松與太郎（矢巾町）／「茂る溪流」金野淑夫（陸前高田市）／「終着―栗駒荒砥沢」工藤晴男（一関市）／「夏日」佐藤秀男（一関市）／「五月晴れ」猪股多枝子（一関市）

《講評》

第68回岩手芸術祭水墨画部門展は例年どおり、県民会館に於いて開催されました。今回も作品の減少化に歯止めを掛けることができませんでした。この問題は、どの団体でも大きな悩みとして今いろいろ対策を考えているところであります。

災害に依る人口の減少と、高齢化が進む中、「社会の趣味嗜好の多様化や、IT時代で非常に便利になって、あつ

という間に物事の結果が出せる世の中の仕組になってきているので、地道な積み重ねをして成果を得るような気持ちの余裕がなくなってきた」と、そんなことも大きな原因なのかも知れません。

今回の入選作品は、額装1118点、軸装5点で総数123点となりました。残念だったのは水墨画の原点でもある軸装画の出品点数が少なかったことです。大型作品から幾分小型化しているものの、作品自体力作揃いで審査に難渋いたしました。賞に入らなかった作品にも入賞作品と遜色ない良い作品が多く見られました。

芸術祭賞の「厳冬の剣岳」は大胆に山の雄大さを表し、水墨画的筆法でダイナミックに表現している素晴らしい作品です。優秀賞の「磐梯秋声」は爽やかな秋の風景を美しい墨調で仕上げ、静寂な雰囲気巧みな構成で生きています。奨励賞の「湿原滔滔」は、構図



▶水墨画審査

に安定感があり湿原の爽やかな空気を感じます。同じく奨励賞の「秋の思い出」は、色鮮やかな秋の情景が墨の濃淡と闊達な筆遣いで見事に表現された作品です。ほか部門賞13点もそれぞれ個性のある力作でありました。

表現方法は時代と共に変わってきておりますが、墨色の美しい作品に仕上げる為にも重ね描き、描き過ぎに注意し透明感の有る、心の中にしみ込む様な墨色を土台にし、自身自身の創作に楽しみたいものです。

(昆野墨舟)

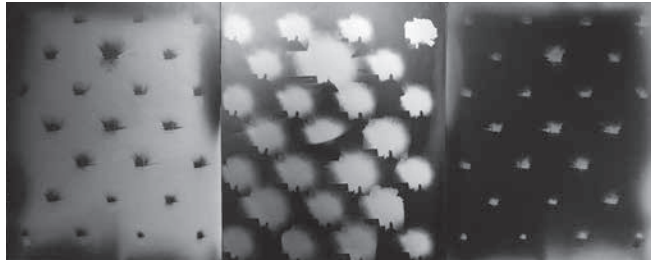
審査員 鈴木 孝男 (岩手県水墨画協会会長)

昆野スミ子 (副会長)

瀬川 博 (副会長)

土村 安 (監事)

美術展三賞受賞作品



▲現代美術「2015年9月3日」／鈴木 研作



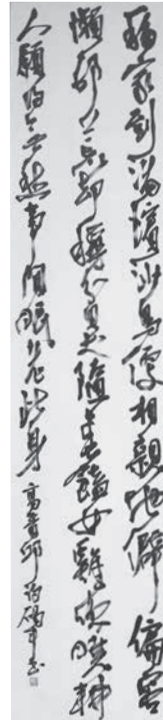
▲写真「遠野物語」／太田 信子



▲水墨画「厳冬の劔岳」／菊池 一政



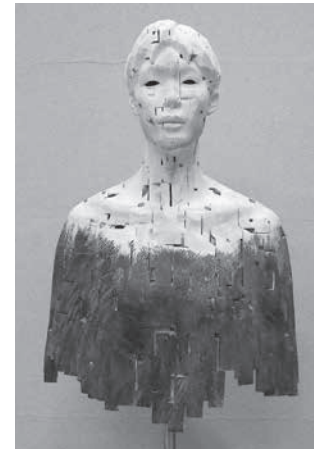
▲版画「はじまりとおわりについて」
／岩渕 俊彦



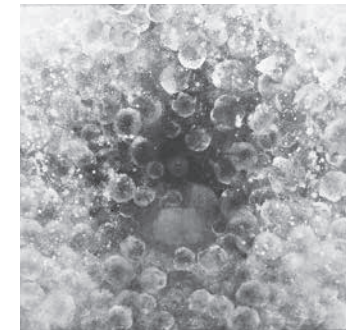
▲書道「高青邸詩」
／熊谷 碓斗



▲洋画
「Epitaph～高田松原」
／高澤 俊郎



▲彫刻「うれう」
／黒沼 令



▲日本画「盆の灯」
／花立ゆかり



▲デザイン「久慈の琥珀」
／竹村 育貴



▲工芸「麻の葉透羽釜」
／石田 温



▲洋画「とうほく」
／藤原日菜子



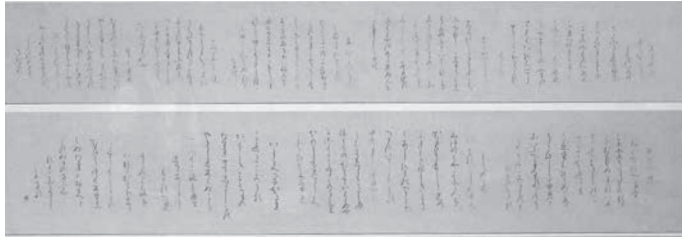
▲デザイン「百鬼昼行・座敷童子、鬼、河童」
／佐々木海太郎



▲日本画「北上川」／遠藤 栗子



▲写真「書き初め」
／星 岩男



▲書道「あきののに」／山本 杏春



▲版画「樹影-夏-」／中村 文子



▲工芸「草木染「歳寒の三友」」
／工藤 祐造



▲水墨画「磐梯秋声」／谷藤千嘉子



▲現代美術「つなぐ」
／しもかわらさとこ



▲彫刻「でくのぼうと山猫」
／佐藤 芳宏



▲写真「兄弟」／菊池 賢一



▲現代美術「失われた音楽」／上野あづさ



▲現代美術「波の環」／田沼 栄美



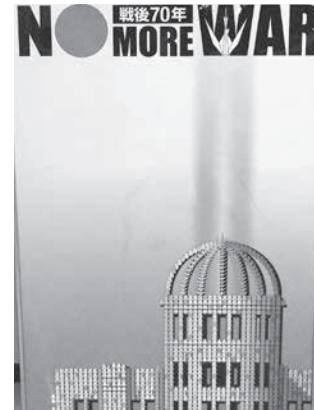
▲写真
「夏のおじょうさん」
／星 道子



▲書道「老子語五句」
／千葉 寿幸



▲デザイン「つるのひとこえ」
／村野 充弘



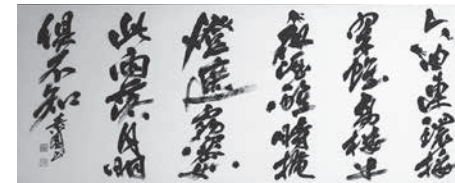
▲デザイン「NO MORE WAR」
／吉田 康男



▲工芸「風の星座」
／昆野 明栄



▲工芸「青白磁「晶」」
／竹田 康夫



▲書道「李商隱詩」／畠山 素園



▲水墨画「湿原滔滔」／阿部 慶造



▲水墨画「秋の思い出」／中済寿美子



▲日本画「野薊」
／平松 比絹



▲日本画「椿咲く」
／藤原 妙子



▲版画「たてもの I, II」／阿部 夏希



▲版画「note1, 2」／伊藤由美子



▲洋画「街・盛岡」
／橋場 恒弘



▲洋画「手」／佐藤 小子



▲彫刻
「波と岩の上のミミズク」
／鈴木 紳二



▲彫刻「YU-HO」
／村上 涼香

巡回美術展

巡回美術展は、美術展の優秀作品を県内市町村において巡回展示し、県民に芸術鑑賞の機会を提供するために実施しているものである。

今年度は県内六会場において美術展における芸術祭賞、優秀賞、奨励賞並びに部門賞のうち部門推薦作品（最大四点）、計を巡回展示した。うち、巡回展示することが困難な現代美術作品六点及び彫刻部門二点については、当該作品の写真パネルを展示した。合わせて映像コンクールにおける入賞作品五つも各会場で上映された。鑑賞者数は一七二八名であった。

▽巡回日程・会場（計十七日間・六会場）

11月14日（土）～15日（日） 久慈市文化会館
11月17日（火）～19日（木） 一戸町コミュニティセンター
11月21日（土）～23日（月） 岩泉町民会館
11月28日（土）～12月2日（水）*1日は休館日 奥州市文化会館
12月5日（土）～6日（日） 宮古市民文化会館
12月11日（金）～13日（日） 山田町中央公民館

小・中学校美術展

◆小学校絵画部門

芸術祭賞Ⅱ有原ゆうか（城北小二）谷口紅奈（城北小四）・勝政真優（羽場小六）

優秀賞Ⅱ高橋こころ（厨川小二）熊谷 椰（高松小二）

小沢花月（北山形小一）・小田島綾紀（山岸小二）・菊地康生（上田小二）・谷地敬快都（江釣子小二）・安藤健斗（城北小三）・金目静羽（下長山小三）・日向耕一朗（篠木小三）

工藤妃奈（盛岡・土淵小四）・柳本暖翔（北山形小四）・及川朋美（江釣子小四）・曾利幸季菜（大新小五）・柴田陵星（羽場小五）・細越七海（種市小五）・中村天音（盛岡・中野小六）・猪澤 碧（羽場小六）・藤原璃莉花（二本木小六）

奨励賞Ⅱ大森春来（山岸小二）・岩清水琢人（城北小二）

及川笑加（城北小二）・遊田なごみ（上田小二）・大村祈乃（北山形小二）・國丹悠斗（江釣子小二）・田村心愛（山岸小三）・布田暖花（盛岡・中野小三）・小澤一期（北山形小三）・細沼 輝（大新小四）・山火奈音（大新小四）・高橋蓮（江釣子小四）・高橋亜勇真（高松小五）・一戸美咲（津志田小五）・玉井しの（滝沢東小五）・大沼 凜（盛岡・中野小六）・小野歩夢（厨川小六）・村上眞晝（羽場小六）

▽出品作品数

日本画八点、洋画八点、版画八点、彫刻五点、工芸八点、書道八点、写真八点、デザイン八点、現代美術八点、水墨画八点／映像作品五点



▶一戸町コミュニティセンター



▶岩泉町民会館

〈審査評〉

今年度の審査は、盛岡市立羽場小学校を会場に二〇名の先生方によって行われました。審査の先生方から、応募された作品の特徴や審査しての感想等をお聞きしましたので、学年ごとに紹介します。

一年生、「元気（力）いっぱい作品が多かった。」「動物公園に行った時の絵と朝顔の絵が多く、全体の九割ほどあった。画一的になりがちなところは気になるので、いろんな題材の作品を応募してくれたらうれしい。」

二年生、「和風な感じの（墨絵のような輪郭の）絵や色つきシャボン玉を彩色に利用した作品、スタンピング（型押し）を使った作品など表現技法を工夫したものに良い作品がありました。」

三年生、「例年多かった」花の絵に加え、空想の絵とか生活の絵など題材が広がってきている。」「○○方式と言われるような、先生が指示したとおりに描く、パターン化された作品は少なくなった。个性的で創造的な作品づくりをするという意味でよい傾向で、図工科のねらいに合っている。」

四年生、「空想画にすぐれた作品が多かった。また、観察する眼も育っていて丁寧に詳しく対象を描いている作品が多かった。さらに、力強いタッチの作品も目立った。」

五年生、「題材がバラエティに富んでいた。相変わらず樹木の絵は多かったが、同じように樹木を描くにしても、細かくじっくり描いている作品もあれば、全体を大きくとらえた作品もあり、様々な工夫をして描かれている。」「毎年のことではあるが、『南部もぐり』などの地域題材を取り上げた作品に目をひく良い作品があった。」

気になることとして、「時間不足のように感じる絵が多かった」とのこと。「もう少しじっくりと対象や作品づくりに向き合ってほしい」とのこと、「選外となった作品には、ササツと仕上げたような、あつさりした彩色のものが多かった。」とのことです。「題材やテーマに基づいて、児童が『思い』をふくらませて描いた作品に良いものがあった。」とも話してくれました。

六年生、「細かなところまで丁寧に描いた作品が多かった。」「時間をかけてじっくり描いたと思われる作品からは、表現したい『思い』の強さを感じ、良さを感じた。」「校舎の絵などに、空間がありすぎてさみしいというか、描いているところは上手なのにもったいないと思わせる作品が多かった。何かを配置して画面構成を工夫したらよい作品になっただろう。」

次に、『芸術祭賞』に輝いた作品(三点)を紹介します。
「きりんの親子」城北小一年 有原ゆうかさん

よりそって立つキリンの親子。画面斜めにのびた長い首がたくましく目立ちます。キリンと出会った感動が人物の表情からも読み取れます。全体を統一する優しく緑がかつた色調がきれいです。

「はなやかな虹と木の音楽」城北小四年 谷口紅奈さん
強い色彩が印象的な虹と面白い形の枝が特徴の不思議な木が組み合わされた構想画です。枝の一本一本に工夫があり、様々な想像を楽しみながら意欲的に描きすすめられた楽しい絵です。

「わたし達の街を流れる かづま堰」

羽場小六年 勝政真優さん
身近な風景を独特の視点でとらえています。手前に描かれた植物の葉は、その形をよく見て描いています。画面構成も独創的で心ひかれる作品です。

終わりに、会場を提供してくれた羽場小学校と熱心に審査にあたってくれた先生方に厚く御礼申し上げますと共に、県内各地からたくさん素晴らしい作品を応募してくれた児童の皆さん、その指導にあられた先生方、そして、あたたかくご支援・ご協力いただいた保護者の皆様に厚く感謝いたします。

(矢巾町立德田小学校長 小松 太)

◆小学校書写部門

芸術祭賞Ⅱ伊藤桃子(岩大附属小二)・小原日菜(滝沢・滝沢小四)・佐藤 遥(福岡小六)

優秀賞Ⅱ中村紗瑛(向中野小二)・菅生紅恋葉(岩大附属小一)・柳谷咲希(鵜飼小一)・房崎しほ(岩大附属小二)・渡辺果歩(岩大附属小二)・柳原かほり(岩大附属小二)・小松立空(城南小三)・西川さくら(青山小三)・橋本侑羽(滝沢・滝沢小三)・熊谷 逞(太田東小四)・八木橋晃也(城北小四)・佐藤 希(福岡小四)・本宮大貴(北松園小五)・三浦柚葉(北松園小五)・玉井しの(滝沢東小五)・小松功英(城南小六)・佐々木麻奈(滝沢・滝沢小六)・山崎優花(津軽石小六)

奨励賞Ⅱ清水亮甫(岩大附属小一)・菅原詩菜(岩大附属小一)・玉井瞭平(滝沢東小一)・菅生結来(青山小二)・高橋みいな(山王小二)・長澤莉子(岩大附属小二)・浅利 かな(青山小三)・小莉米柚月(岩大附属小三)・遠藤美佑(石切所小三)・藤原 蘭(手代森小四)・山生菜月芽(滝沢・滝沢小四)・鈴木夢麻(藤原小四)・城内娃珈(北松園小五)・米澤亮太(岩大附属小五)・志田菜々美(御返地小五)・小嶋拓満(盛岡・土淵小六)・渡部まなか(青山小六)・中野碧衣(北松園小六)

〈審査評〉

〈一年生〉一生懸命最後まで字を書こうという気持ちが伝わってくる作品が多かったです。

・結びの書き方が難しかったようで、「よ」や「す」を書くのに苦労していたことが伝わりました。

・「とめ、はね、はらい」など、終筆の書き方をしっかりと区別すると作品が引き締まって見えます。フェルトペンに慣れず、線が震えている作品がありました。フェルトペンを使った線書きの練習をすると良いと思います。

・字が大き過ぎたり、線が太過ぎたりして、余白がなくなり、全体のバランスがとれない作品もありました。

〈二年生〉全体的に一字一字丁寧に書いている作品が多く見られました。また、マスのおおきに合わせて、基本点画の「とめ、はね、はらい」などを意識しながら伸び伸びと書いている作品も多く見られました。

・「色」「黄」「赤」の概形をとらえ、形を整えて書くために、画の長短や方向について気を付けるとよいです。

・「色」「黄」の縦画と横画の接し方について気を付けて書きましよう。

・「な」「ま」の結びの形に気を付けて書きましよう。
・句読点や濁点の大きさや位置等にも気を付けて書きましよう。

以上の指導も大切に扱ってほしいです。

〈三年生〉基本点画の縦画と横画の始筆終筆が、よくかけている作品が多く見られました。また、左はらいも方向に気を付けて書いている作品が多く見られました。

特に入賞入選した作品は、線質も充実していて、秀作がそろいました。

今後作品を書いていく上で気を付けてほしいのは、右上がりに見えるように横画を書くことと、右はらいです。右上がりに見えるようにするためには、横画の角度に気を付けることです。漢字の美しさを表現するためにも、気を付けてほしいと思います。

「木」の三画目まではよく書けていても、右はらいが上手く書けず、残念な作品もありました。

名前の練習も行うことで、よい作品になると思います。

〈四年生〉「土」と「地」とのバランスをとるのが難しいですが、中心を意識し、堂々と書き上げている作品が多く見られました。

・「とめ、はね、はらい、まがり」といった基本点画、始筆終筆を児童が意識化できるように基本を大切にした指導をお願いいたします。

・「地」の土へんの横画は、「とめ、はらい」をどちらもはらっている作品が見られました。

・「地」の文字の組み立てで、へんとつくりの譲り合い、高さのバランスに気を付けて指導をしてください。

・名前を書く場所や字配りなど、課題に合った書き方について指導をお願いいたします。

〈五年生〉画数が多く形も複雑で、半紙にまとめるのは難しい課題でしたが、時間をかけ何枚も練習したことが感じられる作品が多く見られました。

特に「飛」は筆づかいが難しい「そり」が2回も出てきますが、「横画、おれ、そり」の三つの基本点画をしっかりと組み合わせる書くことができていました。

また、入賞した作品は名前の出来栄も素晴らしいものが多かったです。

残念ながら入選できなかった作品の中には、「そり」が「まがり」になっているもの、「はらい、はね」などの筆づかいが正確でないものが見られました。

来年は、最高学年としてさらに質の高い作品に仕上がろう、練習に取り組んでください。

〈六年生〉六年生は、「左右のはらい、とめ、点」などあらゆる要素が入った「友情」が課題でした。

「友」は、「左はらい」と「右はらい」のバランスの取り方がやや難しかったようです。今一度「はらい」の方向の確認が必要です。また、一画目の横画の長さがやや足ら

ず、三画目の「おれ」が一画目より出てしまい、バランスの悪い作品になってしまったものもありました。

「情」は、へんとつくりの両方に問題がありました。りつしんべんの一画目と三画目の終筆は、止めるべきところなにはらっている作品もありました。書き方の確認をお願いします。つくりの「青」は、上下のバランスに苦労した様子が伺えました。上部の横画三本をなるべく詰めて書くこと、「月」の縦画が長くなることを指導してほしいです。

〔盛岡市立青山小学校長 山本 繁〕

◆中学校美術部門

芸術祭賞Ⅱ 鎌田千里 (岩大附属中二)・小原菜月 (岩大附属中三)

優秀賞Ⅱ 千葉菜月 (岩大附属中一)・吉田創一朗 (岩大附属中二)・菊池 怜 (北上中三)

奨励賞Ⅱ 白土沙耶 (下橋中一)・高橋歩華 (城西中二)・宮崎菜未 (乙部中三)

〔審査評〕

今年度は昨年度よりも多く、県内の中学校二十三校から三百八十二点のすばらしい生徒作品が寄せられました。

そのうち、入賞者は三賞が八点、入選数は、九十一名で

した。そのうち、二十二点が県内四会場を巡る巡回美術展に選ばれました。

出品された作品は、どれもが美術の時間に熱心に心を込めて取り組んだ作品であり、何より、対象と向き合い、思いを深めながらじっくり会話をしている姿勢を強く感じる作品が多かったと思います。

美術で培われる表現力や創造力そして表現に関わる様々な技法を身に付けながら、美術に対しての意欲をさらに向上させ、その成果として素晴らしい作品が数多く見られたことは大変嬉しく思います。

〔第一学年の傾向〕

美術の学習の時間を通して、正確に基礎・基本を習得し、それが豊かな表現につながっています。

特に、学校行事に位置づけた写生会での作品などの風景画には表現意図を大切にされた作品が多く見られたことは大変良かったと思います。

〔第二学年の傾向〕

一学年の既習事項をもとに、系統的に身に付けた成果がたくさん見られ、指導者の熱意も感じられました。今後さらにもさらに思いや表現意図を大切に、美術に楽しく親しんでいくことを期待します。

【第三学年の傾向】

最高学年として、美術を積み重ねてきた大きな成果が見られます。一人一人の作品への深い思いが生かされています。今後は、さらに自分らしさを追求しながら、表現意図を大切にしたい作品を目指してほしいと思います。

【芸術祭賞】

「春の緑に囲まれて」附属中二年 鎌田千里

岩手公園の亀ヶ池をよく観察し、じつくり描きこんでいます。木々の緑の工夫を施しながら、丁寧に表示しています。特に湖面の表現と木々の重なった奥行きが見事です。

「水と影」附属中三年 小原菜月

日が差し込んでいる水辺の様子を描いたすばらしい作品です。湖面に映し出された新緑の木々の美しさを丁寧に表現しています。作者の繊細な感受性が伝わり、見る者に感動を与えてくれます。

【優秀賞】

「新しい季節」附属中一年 千葉菜月

どっしりと根が張り、樹齢数十年の樹木。周囲の公園の木々や岩の表現と主役となる大木の表現とが共鳴しています。また、木々の緑がきれいに表現されています。

「昼の盛岡城跡公園」附属中二年 吉田創一朗

岩手公園の池から見上げた樹木を中心とした景色を描いた風景画です。ごつごつとした岩と遠くに見える建物が見事な表現となって空間を表現しています。

「大樹に想いを馳せて」北上中三年 菊池 怜

どっしりとした存在感のある木々の表現です。「題名」とおり今までの時代を生きてきたかの如く、堂々とした生命を感じる木々の表現に作者の感動の気持ちが伝わります。

【奨励賞】

「長い時と共に」下橋中一年 白土沙耶

堂々と天まで伸びるような力強い木が描かれています。その表現に作者自身の成長を重ね合わせているような表現を感じます。繊細で、かつ堂々とした表現です。

「オプアートの世界」城西中二年 高橋歩華

幾何学的な線による構成を根気強く行った平面構成で、青や赤を主調色とした色彩の変化を丁寧に表現した作品です。作者の根気強い制作姿勢は立派です。

「緑化ポスター 100年先に想いを」

乙部中三年 宮崎菜未

画面中央に表現された大木から生命力を感じる力作である。丁寧にもろなく描かれた作品には、作者のきめ細かく誠実に取り組む姿勢が伝わってきます。

(審査委員長 佐藤嘉彦)

◆中学校書写部門

毛筆条幅入賞

芸術祭賞Ⅱ 佐々木彩乃 (下小路中三)

優秀賞Ⅱ 大森風紗 (滝沢・滝沢中二)

奨励賞Ⅱ 川上花琉 (滝沢・滝沢中二)

毛筆半紙入賞

芸術祭賞Ⅱ 高橋なるみ (滝沢南中三)

優秀賞Ⅱ 熊谷志歩 (城東中二)・加藤安奈 (岩大附属中二)・

宮崎奈未 (乙部中三)

奨励賞Ⅱ 和田 晟 (北松園中二)・鎌田 恩 (岩大附属中

一)・北方美緒 (北松園中二)

〈審査評〉

平成二十七年年度の中学校書写部門の応募総数は、昨年より百五十点程少ない、六百四十五点でした。しかし、出品校数は昨年より多く新たに挑戦していただいた学校もあり、喜ばしいことです。新人戦や文化祭でお忙しい中、出品していただいた指導者の方々、熱心に取り組んでいただいた生徒の皆さんに感謝申し上げます。

審査会は十月十三日に、盛岡市立青山小学校で行われました。審査員一人一人が、作品の良さを十分に引きわめ、慎重に審査しました。

その中で、入賞・入選された皆さん、本当におめでとうございます。十二月には県民会館で、その後も各地区で巡回展が開催されますので、他の作品も眺め、色々な表現の仕方、書きぶりなども学んでいただければ幸いです。

現代は手書きの機会がどんどん減っていますが、手書きの文字の温かさ、文字に心をこめる気持ちは、いつの時代にも大切にされています。美しい文字を書けることの価値を胸にきざみ、これからも更に力を胸にきざみ、これからも更に力を伸ばしてくださることを期待しています。

さて、各学年の審査で気づいた点をまとめました。今後の参考にしていただければ幸いです。

〈一年・半紙〉

習ったばかりの行書に挑戦し、伸び伸びと書かれた作品が多く見られました。行書の特徴を理解しようとする努力し、筆脈もしっかり通っていました。本文に合わせて名前も行書で正しく書くようでした。さらに時間をかけて書き込めば筆勢が生きた作品になると思います。

〈一年・条幅〉

中学校に入り初めて条幅に挑戦した生徒も多いと思いますが、どの作品も大きく堂々と書かれていました。漢字と仮名のバランスや名前の大きさに気を配ると、さらに作品としての完成度が上がると思われます。

第68回岩手芸術祭小・中学校美術展 応募状況

部門 項目	小学校絵画	小学校書写	中学校美術	中学校書写	合計
応募点数	3,242	2,590	382	645	6,859
応募学校数	45	62	23	34	164
入賞者数	39	39	8	10	96
入選者数	445	506	91	150	1,192
入選のうち 巡回展出品数	36	96	14	58	204

〈二年・半紙〉

学年が進み、行書に挑戦した生徒が多かったです。名前も本文に調和するように行書で書かれていました。一年生よりも線質によどみがなく、さわやかな書きぶりが多く、上達を感じました。「海」のつくりの部分の横画の角度や空間のバランスにも工夫を感じました。雨かんむりの中の空間のとり方を工夫し、明るさを出すところよかったです。

〈二年・条幅〉

名前も本文の内容に合わせた力強い書きぶりで、配置、バランスも良くできていました。来年に大きな期待が持てると思います。

〈三年・半紙〉

本文にたいしての名前が大変立派に書かれた作品が多く、作品としてのまとまりがありました。三年生ともなると行書の筆遣いに留意し、筆脈の通った作品が多く、成長を感じました。ただ、漢字と仮名のバランスにももう少し工夫が必要だと思いました。

〈三年・条幅〉

三年の条幅は今回、十七点も応募をいただきました。これまでの応募数を大きく上回り、とても意欲を感じました。作品としてのまとまりがある、見応えのある作品が多かったと思います。

条幅の部で芸術祭賞を受賞した下小路中学校の佐々木彩乃さんの作品は、字の大小、文字の構成、強弱のバランスがとれ、躍動感があり、ダイナミックな作品です。

同じく、半紙の部の芸術祭賞、滝沢南中学校の高橋なるみさんの作品は、洗練されたなめらかで美しい線が魅力です。名前も調和しており、全体で優れた作品となっています。

力作に触れ、感動いたしました。次回も、県内多くの地区、学校から、たくさんのお待ちしております。

(北松園中教諭 小野寺弥生)

中学校美術部門・書写部門芸術祭賞



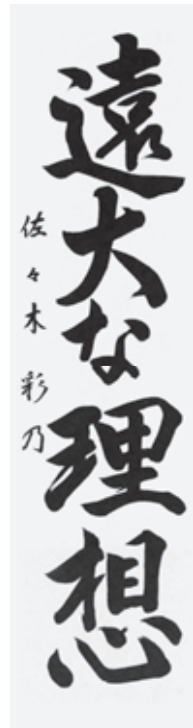
▲「水と影」
岩手大学教育学部附属中学校
三年 小原 菜月



◀「春の緑に囲まれて」
岩手大学教育学部附属中学校
二年 鎌田 千里



◀滝沢市立滝沢南中学校
三年 高橋なるみ

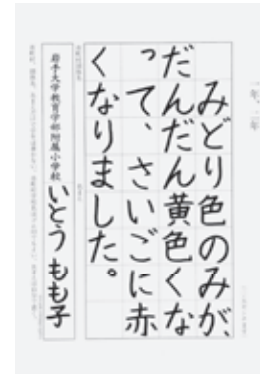


◀盛岡市立下小路中学校
三年 佐々木彩乃

小学校絵画部門・書写部門芸術祭賞



◀「きりんのおやこ」
盛岡市立城北小学校
一年 有原ゆうか



◀岩手大学教育学部附属小学校
二年 伊藤 桃子



◀「はなやかな虹と木の音楽」
盛岡市立城北小学校
四年 谷口 紅奈



◀滝沢市立滝沢小学校
四年 小原 日菜



▲「わたしたちの街を流れるかづま堰」
盛岡市立羽場小学校
六年 勝政 真優



◀二戸市立福岡小学校
六年 佐藤 遥

巡回小・中学校美術展

小・中学校美術展におけるすべての入賞作品と入選作品の中から巡回用に選定した作品を、県内各地で巡回展示した。県内の児童、生徒をはじめ、広く県民に鑑賞の機会を提供するとともに、児童・生徒の創作活動の向上に資するために実施しているもので、今回が三九回目になる。

小学校絵画七五点、小学校書写一三五点、中学校美術二二点、中学校書写六八点、合計三〇〇点を巡回展示した。期間は十二月二十三日(水)・初～平成二十八年二月二十一日(日)までの九日間、四市村で開催し、入場者は二百十名であった。

▽巡回日程・会場

12月23日(水)・初～25日(金) 宮古市民文化会館

平成28年

1月16日(土)～17日(日)

カメラアホール(大船渡市)

2月16日(火)～17日(水)

九戸村公民館

2月20日(土)～21日(日)

久慈市文化会館



▶宮古市民文化会館



▶カメラアホール

演劇

演劇部門の公演は、県内五か所で行われた。

〔盛岡地区〕

十一月二十一日(土)～二十二日(日)

もりおか町家物語館・浜藤ホール

劇団赤い風「森荘巳池劇場 雪明り／花どろぼう」

〔県央地区〕

十月十八日(日)

日本現代詩歌文学館(北上市)

北芸の会「影絵 花さき山／朗読 片目の神さま」

〔県南地区〕

十一月八日(日)

Zホール中ホール(奥州市)

劇団我夢「聖夜のラプソディ」

〔沿岸地区〕

十一月一日(日)

シープラザ遊(釜石市)

劇団青い海「まぼろしの海」

〔県北地区〕

十一月二十二日(日)

荒屋コミュニティセンター(八幡平市)

劇団ふるさと発信株式会社「エダニク」

《講評》

〈劇団赤い風〉

岩手県出身の作家、森荘巳池の小説「花どろぼう」と「雪明り」が「非戯曲作品の会話も情景描写もまるごとセリフ化する」という『物語る演劇』という手法で上演されたのが今回の舞台だ。

幕間を挟んだ二作品で明確に役者の力量差が観られたのが実感である。「花どろぼう」では生き生きと駆けまわり、賢治が誘う世界に目を輝かせる「森少年」を三名の役者が演じていた。彼らからは明朗快活さ、真つ直ぐさは伝わってきた。しかし物語られる舞台背景、人物の動向などが今ひとつ解しにくかった。セリフ自体が聞こえなかったわけではないから、テンポ



▶劇団赤い風

や間の取り方によると思われる。「森少年」の勢い、そして賢治を演じた菊池与志和の存在感が魅力に溢れていただけに少々もったいなかった。一転して「雪明り」ではそうした違和感を感じさせず、二宮彩乃扮する歌子の幻想的でグロテスクな夢に始まる冒頭から終盤まで、ひとつの世界観を手堅く見せてくれた。その軸は何ととっても歌子の父を演じた伊勢二郎であろう。ひとつひとつの演技に宿るいぶし銀の深みと歯切れの良さ。娘の死を覚悟して纏う軍服の重厚感。確実に氏にしか醸し出せない雰囲気や物語全体の静謐に通じていた。脇を固める役者陣も充実していて、隅々まで漲る緊張感を表現しきっていたと思う。

寡聞にして未知だった森荘巳池の世界観に触られた本公演だったが、次回もあるなら、是非二、三十代の若い層向けに向けた広告も一考していただきたい。観劇した私も、知らなかった魅力的な世界を少しだけでも見られた嬉しさがあるからこそ、より若い層にも見てほしいと感じた。若手の舞台では味わえない独自の世界観が魅力のひとつである「劇団赤い風」と森荘巳池作品の妙味を堪能しつつ、そんな野暮を考えた。

（安藤奈津美）

の神さま」の朗読、会場も日本現代詩歌文学館、一件落着である。会場変更には、北上芸術文化協会の事務局にお骨折りを頂き、難儀せずに変更出来て安堵する。

扱、本番である。

八十路目前にして初体験の演出を担った。

結果は惨敗（？）。既に三十年の経験を積み影絵を担当する会員は落ち着いて人形操作、機会展作と持ち場を全うする。

演出の未熟さが諸に出て惨敗の憂き目を見たのは朗読である。

観る（目に訴える）、聴く（耳に届ける）、心にシーンと滲み込む読みを目指して演出を試みた筈なのに…。

あら、残念！ 力不足をつくづく感じさせられたことである。稽古場解体、会員減少…云々。すべてが言い訳。

来年は新たな気持ちで取り組むことにしよう。志を一つにして残った会員共々に…幕

（田島俊子）

〈劇団我夢〉

劇団我夢は、第六十八回岩手芸術祭参加として「聖夜のラプソディ」を十一月八日(日)奥州市文化会館中ホールにおいて上演しました。午後二時開演、上演時間は一時間五十

〈北芸の会〉

「前を向いて…」

今年度早々に暗礁に乗り上げる。

諸々の理由で、二十年來稽古に励んできたその場所、稽古場解体に至ったことである。

そして、十数名の会員が、これ又、夫々の事情で退会する会員が続出、残ったのは八名である。

一年前に予約していた会場（文化交流センター）と公演日（十二月十三日）も変更の余儀なし…となる。

十二月の公演が二ヵ月も早まる十月になったこと…。

会員数が半減。今年度の公演をどうするか？ 残った会員で頭を痛め、思案を重ね、「公演決行！」との結論に達し、俄にその方向に動き出したのは七月中旬過ぎてから。

そして、影絵「花さき山」

と相澤史郎方言詩集「片目



▶北芸の会

分。観客数は三四八人でした。

わたしたちのまわりには目を覆いたくなるような、あるいは耳を塞ぎたくなるような事件や事故が日常茶飯事に起きていて心を痛めることがあまりにも多いような気がします。特に親が子の命を奪う事件には、その悲慘さ、凄惨さに誰しも辟易し暗澹たる思いをしているのではないのでしょうか。そんな気持ちでも晴らしたい、癒したいとの思いから母と子の愛情をテーマに、コミカルでちよつと心がホッコリするような芝居をつくりました。

主人公イサ子は、事業に成功した老資産家でわがままな性格。若かりし頃に借金を残して家を出て行ったいいかげんな夫のせいで、娘サチコを手離してしまつた過去に心を深く傷つけている。急病で入院したイサ子は自分の余命が僅かであることを知り、娘サチコを探し出すよう探偵に依頼する。いまさら何十年前



▶劇団我夢

に消息不明となった娘を捜し出すことなど不可能、しかし謝礼金狙いで偽の娘をしたて病院にのりこんでくる探偵たち。イサ子の心の傷を治そうとする医師。そして病院のクリスマス会を楽しいものにしようと準備に一生懸命の患者仲間たち。イサ子をとりまく人々との間で、娘サチコと幸せに暮らしていた過去と現在の病院での場面が交互しながら騒々しくもちょっぴりせつないストーリーが展開していく。

装置は、大きなクリスマスツリーをシンボリックなセットに全体をシンプルにし、照明もサスを多く使い全体をモノトーンの雰囲気だまじめ、現在と過去の場面がスムーズに流れる様にしました。

(古玉庸二)

〈劇団青い海〉

劇団青い海、第50回釜石公演を鑑賞して、感じたこと、考えたことを書いてみます。

この作品は、東日本大地震、大津波を契機に、今年で50回目を迎えました。

特長的なものは津波後4回、セッションホールでの発表でしたが、今年は50回ということで、副会場「シープラザ遊」での発表を鑑賞したのであります。「語り芸術」と

◀劇団青い海



して、問題点がありました。発表当日は、11月1日(日)午後二時から、45分の時間で行われて、それを鑑賞しました。

同じシープラザ遊のステージは、11月1日は初日とあって、午後1時から開会式が挙行されて、40分後に終了したもののお客さんの半分は、座席に残ったのです。

すぐに、15分を経過しないうちに、2時から「青い海」の公演「まほろしの海」が待っています。

前半、聞く耳を持たないで集中せず、私語ばかり大きな声で交わされます。

そして、後部では、パネル掲示の発表時間の展示と見学者でこったがえしです。

中間・後半、やっと静かになりました。

語りのテーマ「まほろしの海」は、津波の悲哀とそれを乗り越えようとする母親の心情について、何人の観客が理

解したか、疑問でなりません。

課題として(語り芸)、

①テントで、語りについて「発表」は問題があります。

②51回目の会場は、釜石ステーションホールで開催した方が、妥当であると思います。

(釜石市小川町在住 阿部正男)

〈ふるさと発信株式会社〉

公演団体である劇団「ふるさと発信株式会社」は、18回目の公演となる。

今回上演した「エダニク」は舞台の終わり間際に、ただ一度の暗転があるだけで、三人の俳優はほとんど出ずっぱりのまま、その絶妙の関係性を演じ続けた。

俳優の体力、適切な進行をとりまとめる脚本の力が、舞台の仕切り直しをほとんど不要なものにしており、三人の呼吸と間合いが「命」とは何か?という問いかけを、三人のキャストは舞台の上で表現していた。

「生」がたちまち「死」に、「生体」が次々と「物体」と化していく賭場という特殊な空間の中、目前で失われる生のエネルギーに抗うかのように、メンタル面でもフィジカル面でもひたすら力強くある職員たちを演じており、展開や会話のたくみさだけではなく、三人の関係性(三人がそ

れぞれ持っている思想、人生観)が物語を動かしていた。まったくタイプの異なる三人の登場人物のキャラクターと作品世界のディテールがしっかりしていて、終盤のヒーローアップのさせ方も、エピソードもまとまっていたようである。

そして、きちんとしたユーモアもある内容であった。

(立花 浩)



▶ふるさと発信株式会社

映像

映像フェスティバル

十月二十五日(日) 午後一時

もりおか町家物語館 浜藤ホール(盛岡市)

芸術祭賞 Ⅱ 「はさみ」 鳴海友絵(奥州市)

優秀賞 Ⅱ 「3色忍者」さらわれた姫を救い出すでござる」
成瀬真実(盛岡市)

奨励賞 Ⅱ 「伝承技芸『しめ縄づくり』」久保光雄(金ケ崎町)

「ゆたかな自然と、ともに生きる」梅内哲也(秋田県)

《講評》 昨年同様、映像部門の運営は演劇部門内の「映像部門担当」が代理で担当し、映像コンクールと映像フェスティバルを開催した。

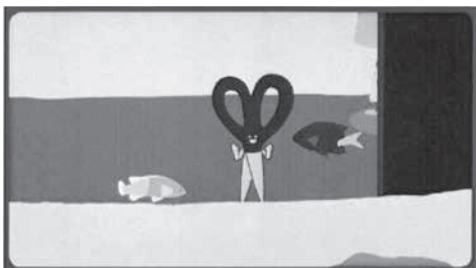
2年目とはいえ相変わらずの手探り状態、昨年の出品者や映像の愛好者から意見を聞き、今回のコンクールでは応募条件の作品の時間をそれまでの「15分以内」を「30分未満」へ間口を広げてみた。昨年、応募するメディアをブルーレイやUSBメモリーなども可能にしたことで若い世代の出品が出てきたことから、応募する側にとって出品しやすい条件とは、どんな形が良いか模索した結果である。

映像

すると出品点数こそ多くはなかったものの、これまでの応募のなかったショートムービーの作品も登場し、アニメーションやドキュメンタリーなどの作品とあわせて、とてもバラエティーに富んだ見応えのある作品ばかり集まった。

その中で芸術祭賞を射止めたのは、「はさみ」というアニメーションを出品した鳴海友絵さんの「3色忍者」さらわれた姫を救い出すでござる」成瀬真実さん。どちらも20代の若きクリエイターだった。そして奨励賞にはベテラン久保光雄さんのドキュメンタリー「伝承技芸『しめ縄づくり』」と、大学生の梅内哲也さん制作の映像詩「ゆたかな自然と、ともに生きる」の2点が受賞した。これらはいずれも完成度の高い作品。

そして映像フェスティバルは10月25日(日)午後1時より盛岡市鉦屋町のもりおか町家物語館・浜藤ホールで開催、入選作8点が上映された。新聞にアニメーション作品の写真



が掲載されたからか、昨年見られなかった子供の観客もいて上映中に笑いも起きるなど、楽しい雰囲気ของフェスティバルだった。今後、映像部門の運営を引き継いでくれる団体が現れることを強く期待したい。

(文責:映像部門担当 長内 努)

伝統芸能

能楽 謡と仕舞の会

十一月二十三日(月)・祝
午前十一時開演
岩手県民会館中ホール

番組

仕舞 (喜多流・大船渡)

高砂 千葉 太

(地)熊谷 良雄
廣澤 英男
佐藤 正雄
安田 直強
及川

仕舞 (喜多流・盛岡)

高砂 キンダーホームひまわり組
老松

駒之段 石垣 保一

(地)武田 秀彦
佐香 健一
武田 秀彦
佐山 保一
村山 健一
石垣 保一
牧原 登

素謡 (宝生流・盛岡)

鶴亀 シ佐藤 宏明
マ佐野 剛章

(地)菊地 新司
佐藤 哲夫
鈴木 勲

素謡 (観世流・盛岡)

遊行柳 シ金子 琢磨
マ岡田 仁

素謡 (喜多流・石鳥谷)

養老 シ澁石館 仁
マ大沼 道男

(地)木村 綱夫
佐藤 晃誠
高橋 真一

仕舞 (宝生流・宮古)

天鼓 佐香美穂子

(地)高橋 孝市
中村 儀郎
荒川 礼二
石垣 保一
村山 健一
佐香 秀彦

葵上 加藤美重子

武田 勤
牧原 登

仕舞 (喜多流・盛岡)

富士太鼓 下川原令子

(地)藤原 洋子
枋内 繁子
米澤 立

仕舞 (喜多流・盛岡)

玉葛 佐藤 曜 (杜陵小5年)

(地)金澤 禮子
鈴木 明美
工藤 曄子
高橋 千賀子
山口 寧子
佐々木 幸子

仕舞 (宝生流・盛岡)

枕慈童 松本 敏之

(地)工藤 典子
蜂谷 哲子
佐々木 加奈子
牧野 トモ子
藤澤 美和子

素謡 (観世流・盛岡)

蝉丸 シ菊池 幸子
シ玉川 律子
マ荒川 冴子

素謡 (喜多流・盛岡)

六浦 シ佐々木 幸子
マ本堂 信子
マ連金澤 禮子

素謡 (宝生流・盛岡)

杜若 シ佐々木 康勝
(地)浅沼 京子
箱澤 フミ子
山田 陽子

仕舞 (観世流・盛岡)

卷 絹 菊池 昭二
玉鬘 金子 琢磨
(地)海老澤 君夫
岡田 仁
古枝 良子
高橋 昭二
山坂 昭二

(地)湯川 明子
鈴木 新子
鈴木 明美
高橋 千賀子
山口 寧子
工藤 曄子
高橋 千賀子
山坂 昭二

素謡 (喜多流・盛岡)
シ善財 清
 三井寺 ヲ工藤 長彦

野田 宗義
 大櫻 正行
 (地) 神田 健幸
 藤野 興吉
 大石 仁也

柏葉 光利
 大光 昭
 菅原 岩夫
 中道 俊之

仕舞 (宝生流・盛岡)

牧野トモ子
 佐々木加奈子

笹之段 高橋美恵子

(地) 蜂谷 哲子
 栃内 不二
 上野喜代子

仕舞 (喜多流・盛岡)

本堂 信子
 渡辺 新子
 (地) 山口 寧子
 高橋千賀子
 鈴木 明美
 武内 公子

梅枝 ヲ工藤 瞳子

素謡 (宝生流・宮古)
シ佐香 秀彦

蟬丸 シ武田 勤 ヲ石垣 保一

仕舞 (観世流・盛岡)

松虫 ヲ菊池 幸子

阿漕 ヲ土川 律子

素謡 (喜多流・大船渡)
ヲ熊谷 良雄

紅葉狩 ヲ千葉 太

和野多喜男
 及川 精一
 廣澤 英男
 平山 正昭
 西條 誠

千葉 省三
 安田 強
 佐藤 正雄
 及川 直

仕舞 (宝生流・宮古)

鶉之段 村山 健一

(地) 加藤美重子
 佐香 秀彦
 牧原 登
 佐香美穂子

(地) 加藤美重子
 村山 健一
 牧原 登
 佐香美穂子

素謡 (観世流・盛岡)
ヲ山坂 昭二

高橋 八郎

山口 哲
 海老澤君夫
 新藤 威
 佐々木一夫
 小田島幸雄
 小野信太郎
 高橋 弘

附 祝 言

《講評》

岩手芸術祭の能楽部門「謡と仕舞の会」は十一月二十三日(月)・祝午前十一時より岩手県民会館中ホールにて開催された。折しもこの公演の二日前には盛岡市民文化ホール(マリオス)にて宝生流宗家宝生和英師、狂言方人間国宝の山本東次郎師一行による能楽公演が行われ、県内の能楽愛好者にとって質の高い芸術に触れる機会が多い今秋であった。

本公演は岩手県内の三流(宝生・観世・喜多)の持ち回りで運営されており、本年は宝生流が準備を担当した。

番組内容は仕舞十七番、素謡十番の計二十七番であった。出演者数は百二十六名、来場者数はおよそ二百名であった。

番組は喜多流の仕舞「高砂」と宝生流の素謡「鶴亀」と

岩手芸術祭は県内で活動する三流が一同に会するまたとない機会であり、会員の研鑽によるレベルの高い芸術発表の場は是非とも維持したいものである。

しかしながら会員の高齢化とともに番組数と出演者数は減少が続いており、盛岡以外の支部からは出演を辞退する傾向も見受けられる。新規会員の獲得、次世代への普及活動により能楽愛好者の裾野を広げる視点はどの流儀にも共通の課題と考える。

準備に当たった当流の反省点として、印刷物の準備



▶ 能楽

が遅く他流に迷惑を掛けてしまったことと、パンフレット記載の予定時刻と実際の進行のずれが大きく、出演者に負担を掛けたことが挙げられる。来年以降の準備の際にはよく注意するよう心がけたい。

(宝生流 佐藤宏明)

▽実行委員 佐野剛章・菊池昭二

邦楽 邦楽のつどい 十一月八日(日) 午後一時開演

岩手県民会館中ホール

○：タテ

演奏番組
寿二会
嘉声会
清櫻会
長唄 京鹿子 娘道成寺

舞台面 三味線

福士 幸雄
稀音家 六貞帆
○稀音家 六田嘉
稀音家 六貞鳳
山口 優子

新木 杏奈
唄 知子
藤村 知子
佐藤 礼奈
杵屋 勝由紀寿
○杵屋 寿二
杵屋 勝はる寿
杵屋 俊子
廣澤 もと子
谷地 もと子
鎌田 聡子
菊池 幸子
稀音家 六貞華
囃子
小鼓 鎌田 紗弓
小鼓 望月 清紫
小鼓 望月 太恵美
小鼓 望月 清時
小鼓 佐藤 虹太郎
○小鼓 望月 美恵
大鼓 望月 清宝
太鼓 望月 清峰

特別出演
杵家会釜石支所
長唄三味線親子教室
長唄 さくら変奏曲
長唄 娘道成寺より合方

三味線
作山 綾野
佐々木 瑞菜
大信田 亜美
上野 渚月
菅原 柚水
山崎 歩夏
菊池 櫻子
金澤 節子
鈴木 美海
佐藤 七海
浜田 真由香
杵家 弥多穂
佐藤 海輝人
沼崎 桜陽
露野 桜花
熊谷 幸

寿二会
寒行雪姿見(まかしよ)
清櫻会
嘉声会
長唄 勸進帳

八重樫 久美子
松坂 久美子
佐藤 節子
沼崎 祐子
露野 弥生
杵家 勝友可
○杵屋 勝由紀寿
杵屋 寿二
○杵屋 勝はる寿
佐藤 礼奈
藤村 知子
○稀音家 六貞帆
稀音家 六貞華
谷地 もと子

特別出演
杵家会釜石支所
長唄三味線親子教室
長唄 春雨変奏曲

大鼓 望月清宝
○小鼓 望月美恵
小鼓 望月清時
小鼓 望月太恵美
小鼓 望月清紫
小鼓 望月清峰
小鼓 鎌田紗弓
（上）囃子
稀音家 六田嘉
稀音家 六貞鳳
浜口哲夫
新木杏奈
山口優子
○福士幸雄
廣澤俊子
菊池幸子

長唄 やはらかに

菅原柚水
○杵家 弥多穂
山崎歩夏
大信田 亜美
低音
上野 渚 月
佐々木 瑠 菜
高音
杵家 弥多玲
杵家 弥多鈴
杵家 弥多寿
杵家 弥多裕
金澤 節子
中音
八重樫 久美子
佐藤 節子
松坂 久美子
熊谷 幸唄

寿二会
長唄 楠公

沼崎祐子
作山綾野
鈴木美海
菊池櫻
沼崎陽
浜田真由香
佐藤海輝人
佐藤七海
露野桜花
露野弥生
○杵屋勝重
杵屋寿慧
杵屋寿二
杵屋勝由紀
佐藤礼奈
○杵屋勝菊
杵屋勝友可

よくわかる三味線音楽Ⅷ

嘉声会 福士幸雄

嘉声会
長唄 都風流

○稀音家 六貞鳳
鎌田 聡子
菊池 幸子
谷地 もと子
三味線

○稀音家 六貞華
稀音家 六田嘉
福士 幸雄
稀音家 六貞帆

常磐津文字会

常磐津 積恋雪関扉 下

舞台面 三味線

常磐津 治衛

菓子器 新高麗桐紋 而妙斎箱 慶安 製作
菓子 みのり 宮沢 製作
茶 小倉山 山政小山園詰 茶 器 紛溜菊蒔絵
菓盆 溜塗鱗鶴透 茶 碗 赤 銘むらくも 冷泉為理箱
火入 織部 茶 替 吉祥草絵 澄子夫人の自画 理平 造
莫入 即中斎好切箱入 蓋 置 有隣斎作 銘和楽 共筒箱 理平 造
煙管 如心斎好 筋入 菓子 建水 武蔵野蒔絵 器 瀨戸釉 鉄鉢 大丸屋 製

二席 別館和室(書院の間)

武者小路千家岩手官休会

主 武田守榮

三席 聖風閣

煎茶道三彩流岩手支部彩茗会

主 菊谷愛秋

掛物 寄付 松花堂筆 菊凶 本席
床 不徹斎筆 明歴々伝々 共箱 赤松達明筆
花入 手付籠 ときのもの 家元 星悠 丈書
香合 青貝虫 真形 浄味造 大西清工門極 雲林院寶山
釜 風炉 琉球 官休庵好 独楽結果 太仙 窯
先 指 細雁の絵 茶心壺 錫 乾隆年製 唐物

茶合 黄檗山古材 第五十八代 奥田行朗作
茶合帛紗 家元好 未秀 織
急須 七宝山水 北村和善 花入 竹一重切 銘錦 淡々斎在判箱 正玄 造
茶碗 五彩鳳凰紋 加藤清昌 香合 古材 冷泉家伝来 伝衣箱 吉兵衛 製
茶托 錫 家元好 松下喜山 棚 敷 松重銀砂子 富士 浄寿極箱 安政年代 芳朗 造
水注 黄交趾 平安昭阿弥 窯 指 粉彩瓢耳付 清朝時代(同治年製)
巾筒 染付 和杉村密郎 水指 大棗 富有柿 寿輪象嵌 芳朗 造
落葉壺 瀬山窯 申 杉村密相 國代 薄器 又妙斎作 銘 千鳥 共筒箱 光右衛門 造
香合 青花白磁 時 申 相 國代 茶杓 又妙斎作 銘 千鳥 共筒箱 光右衛門 造
烏府 鷹 塗蒔絵柄 石 峰 代 茶碗 黒織部 鵬雲斎大宗匠箱 二代久宝 造
羽箒 鷹 塗蒔絵柄 峰 石 代 茶替 仁清写 銘 紅葉 鵬雲斎大宗匠箱
火箸 緑翠 昆野茶舗 茶替 斗々屋 鵬雲斎大宗匠箱 鳳翔 造
菓子 百代草 松田屋製 蓋置 雲華 松竹梅 宗元 造
菓子器 輪島塗 器 博多曲 萬象 造

四席 大会議室

裏千家淡交会岩手支部

主 津田宗友

立礼席 裏千家淡交会岩手支部
待合床 瑞巖宗碩筆 色紙 照古鑑今 火入 車軸 美濃伊賀 江戸初期 徳五郎 造
本席

五席 新館和室

江戸千家岩手不白会
主 乳井宗啓

お茶 星峰
菓子 山路の菊
器 菊絵 乾山作見込
星野園 山善 製

掛物 とんぼ画 名心庵筆
寄付

床 無事は貴人 川上不白筆
本席

花 季のもの
花入 伊賀耳付 道年作
香合 推黒

釜 真形釜 畠春斎造
風炉 四方鬼面風炉 一の瀬宗辰造

風炉先 時代物

棚 及台子 五世竹泉作
水指 染付紅彩葡萄紅 赤塚自得作

茶器 朱金彩花七宝紋

茶碗 桐鳳風染付 鶯の絵

替 赤絵 犬山焼
茶杓 銘よろこび 蓮鶴作

建水 信楽
蓋置 染付束紫

《講評》 二十四号、二十五号と立て続けにやってきた台風の余波を受けて、天候が非常に心配されていましたが、やはり前日は雨となり、準備も各流共大変な御苦労があったと思われまます。当日はなんと台風一過の秋晴れとなり、駐車場の確保のためと午前八時の開館と同時に多勢の人々の長い列が出来て、会席の時間までお待ち頂くのが大変でした。

各席共に一席、二席とお待ち頂くことが多く、各席の整理が大変でした。

お席主は、草木も色づき秋がいよいよ深くなって、茶の湯の世界では名残りの時節を迎えて取り合わせる道具組みもものさびて侘び茶の極みを思わせるとき、



▶茶道

季節に心を寄せ、いかにして季節感を表現しようかと心をくたき、多勢のお客様に短時間でおいしいお茶をたて、ど

れだけつくろいで一服のお茶を楽しんで戴けるかと充分の心を持って、水屋の一人にいたるまで、おいしいお茶をと心がけて居りました。お客様もご席主の心入れをくみとり、花の姿、道具の美、道具の持つ意味など感じとり、一服の茶の味を味わっておられ、凡そ七百八十名のお客様方、長い待時間にもかかわらず堪能されたご様子でした。

毎年のことですが、朝早くから駐車場確保のため出かける多勢の方を整理するのに頭を悩ませて居りますが、今年度は、盛岡市中央公民館のご協力により、市職員の方の駐車場を一部開放して頂き、又公民館迄のシャトル車を

出して頂き、会場迄ピストン輸送して下さいました。永年の不便が解決いたし、お客様始め岩手県茶道協会の担当者一同心から感謝致して居ります。今後共実施して頂

けますことを願って居ります。
(表千家同門会岩手県支部 平野宗憲)
▽実行委員 鈴木宗基・平野宗憲

岩手県民会館 第一展示室・第二展示室

▽前期

《青山流》 菊池紅雅 近藤光雅 昆 啓雅

《池坊》 石川昇月 小原紫芳 菊谷華光 佐藤春陽 高橋

佳光 高橋翠風 田口芳秀 谷藤桂芳 千葉幸園 野中泰

華 八戸春水 本間愛香 村井藤月 森田朋月 山崎政華

山下恵風 相田恵草 竹田美桜 山形喜香

《櫻花遠州流》 遠藤尚喜 澤田里律 高橋尚好

《小原流》 藤原枝光 藤澤豊榮 佐々木峯知 山本華抄

田中蒼晴 吉田和子 菊池瑛華 小笠原豊香 吉田華子

望月和華 武原竜波 スティーブン・コーラー 伊藤豊恵

竹林弘苑 柏原豊洋 鈴木豊貞 盛合幸恵 金野豊雅 小

田島奈華

《花芸安達流》 菊池水暉 須藤祐暉 橘那乃帆

《梶井宮御流》 菊池葉貞 西郷時峰 伊五澤由貴子

《古流松藤会》 藤田理華

《五明流》 北村貞恵 山岸貞香 若江貞盛

《松風花道会》 高橋京水 高橋稀水 梅村康水 鈴木穂水

藤原勝水 紺野芳水

《青山御流》 小原光衛 桂 静雅 伊山光雅 本川公雅

華道

華道展

(前期) 十一月六日(金)・七日(土)
(後期) 十一月八日(日)・九日(月)

小林友雅 守屋和雅 山口好雅

〔清泉古流〕 安倍一慶 及川一雄 菊地一洋

〔草月流〕 平野雅晶 横田交由 三浦紅雅 藤館夏奈 下

平晴千 広崎紫泉 菅原草昌 佐々木翠裕 山本雪苑 鈴

木秀哉 千田秀琴 岩田双琴 細川由葉 堀間恭華 遠藤

幸太 岩館紗織 大友月庭 小原瞳泉 寺坂照峰

〔龍生派〕 高橋華杏 鈴木一静 瀬川香寿 佐藤玲華 熊

谷紀光 畠山景華 千葉桂光 齋藤法美 出町蕉宝 大崎

蕉英 遠藤鏡秋 佐々木藍華

▽後期

〔青山流〕 吉田緒美奈 久保恵穂 吉田朋雅

〔池坊〕 及川清光 大澤加祥 小原信峰 小原華芳 小林

翠雲 千葉香春 田村尚子 川村紅苑 下館喜華 藤村寿

恵 田口富月 千葉窓翠 千葉松月 岸根稲子 中村直峰

藤島玉風 細田芳節 宮本幸草 氏家敬香

〔櫻花遠州流〕 熊谷尚玉 井上喜勝 山口尚輝

〔小原流〕 伊東文香 佐藤翠裕 藤村豊花 伊藤峰穂 小

野寺清香 田中芦舟 大越映青 山内玲子 梅村光子 一

井綾華 藤村一花 松田萌花 白崎美華 中村鴻洋 藤村

香雅 村山繚華 山内栄香 小山田光裕 大崎緑華

〔花芸安達流〕 高橋紀瞳 永野優瞳 吉田由紀子

〔梶井宮御流〕 伊五澤京弓 三浦京鈴 水谷京伽

〔古流松藤流〕 斎藤理光 渡邊理孝

〔五明流〕 川目貞波 村田貞陽

〔松風花道会〕 古館喜水 瀬川敏水 堂前鋭水 菊池颯水

佐々木重水 高橋桜水 佐藤悦水

〔青山御流〕 晴山怜雅 滝田晃雅 渡辺柳雅 堀井京雅

田添菊雅 袖林啓雅 桐田清子

〔清泉古流〕 千枝一翠 及川一好 金子一郁

〔草月流〕 駒ヶ嶺幸柳 千葉渚苑 中村菜由 佐藤華舟

佐々木春陽 二越馨鈴 猪又翠香 浅沼麗紅 鈴木利紅

水本香苑 米田枝有 佐藤巳幸華 藤原千幸 浅沼麗和

藤村留美子 吉田静暁 鶴田翅幸 吉田奇昭 村上秋仙

〔龍生派〕 伊藤良洋 佐々木薫涛 宮 鳳秀 山本碧風

大村真鏡 伊東華水 千葉麗沙 佐々木和鳳 三浦翠光

野澤素光 佐藤賀仙

《講評》 第六十八回岩手芸術祭華道展が、「未来へ紡ぐ

いわての芸術 きつとつながる ずっとさらめく」をテー

マに開催されました。

前期は十一月六日(金)・七日(土)、後期は十一月八日(日)・九日(月)の日程で岩手県民会館第一、第二展示室にて当会所属の十三流派の会員前・後期併せて二〇二点の個人作を展示致しました。入場者数は、一八〇〇名でした。今回は会場

のレイアウトを全面的に変

え、休憩できる場所(スペース)

を設け、ゆっくり作品

を鑑賞していただけるよう

に致しました。例年より、

より充実した作品が多く、

いけ花の楽しさを十分に伝

える事が出来たと思います。

入場者数には子供連れの方

が多く見受けられました。

又、岩手大学留学生十七

名が来場され、とても熱心

に作品を見て回る姿が印象

的でした。日本の伝統文化

が次世代ばかりでなく、海外の若い方達に伝えることがで

きた華道展となりました。会員一同今まで以上の技術研鑽

に励み、より良い作品を発表してまいりたいと思っております。

「いわて芸術文化復興エイド寄附金」箱を会場に設置して、五〇五八円を基金に寄附致しました。



◀華道

(小原宏華記)

吟詠剣詩舞道

吟詠剣詩舞道祭

十月四日(日) 午前十時開演
岩手県民会館大ホール

第一部(幼少年・青年)

1 月夜三又江に舟を泛ぶ 高野蘭亭

陸中岳風会 赤萩学童クラブ

2 常盤孤を抱くの図 梁川星巖

陸中岳風会 赤萩学童クラブ

3 平泉懐古 大槻磐溪

陸中岳風会 赤萩学童クラブ

4 九月十三夜 上杉謙信

岩手岳風会

5 九月十三夜 上杉謙信

岩手岳風会

6 雨ニモマケズ 宮沢賢治

陸中岳風会 油島小学校

7 第二部(一般合吟・剣詩舞)

徳川斉昭

大楠公 県総連

(舞) 吟舞道翠紫流稀翠会

33	花月吟	藤野君山	43	平泉懷古	大槻磐溪
	第五部 (連吟)				
32	秋思	朝翠流岩手朝翠会	42	静夜思	李白
31	潮頭	陸中岳風会	41	春望	杜甫
30	自ら肖像に題す	県総連	40	本能寺	岩手岳風会
29	焦心録後に題す	朝翠流源鵬吟詠会	39	桜花詞	作者不詳
28	環館口号	岩手岳風会	38	静御前(繰糸)	陸中岳風会
27	歸雁	県総連	37	山中の月	岩手岳風会
	第四部 (合吟)				
	華道吟	県総連河南教場	36	春望	杜甫
	太極拳吟	王 宗岳	35	意に可なり	朝翠流源鵬吟詠会
26	戌子の夏諸生と月を見て偶成る	陸中岳風会 佐藤磐岳	34	香炉峰下新たに山居を卜し草堂初めて成る偶東壁に題す	錦城会
	特別企画				
	華道吟	中江藤樹			白 居易
	陸中岳風会	県総連 菅原岳紘			陸中岳風会
	陸中岳風会				良寛
	陸中岳風会				朝翠流源鵬吟詠会
	陸中岳風会				杜甫
	陸中岳風会				県総連仙北教場
	陸中岳風会				真 山民
	陸中岳風会				岩手岳風会
	陸中岳風会				頼 山陽
	陸中岳風会				陸中岳風会
	陸中岳風会				作者不詳
	陸中岳風会				岩手朝翠会
	陸中岳風会				頼 山陽
	陸中岳風会				岩手岳風会
	陸中岳風会				杜甫
	陸中岳風会				県総連一関教場
	陸中岳風会				李白
	陸中岳風会				陸中岳風会 菅原宝山
	陸中岳風会				大槻磐溪
16	宝船	藤野君山	25	みちのく百人一首	川原左大臣
15	九月十三夜	岩手岳風会	24	酒に対す	白居易
14	不来方城懷古	朝翠流岩手朝翠会		第三部 (寿の部)	
13	名鎗日本号	(舞) 吟舞菊水流菊妙会	23	〔舞〕 瓮のうへ (テープ)	吟舞道翠紫流稀翠会
12	室根山に登る	陸中岳風会	22	〔舞〕 白雲の城 (テープ)	かずみ流かずみ会
11	宝船	藤野君山	21	〔舞〕 兜 (テープ)	吟舞道翠紫流稀翠会
10	富士山	石川丈山	20	「おくのほそ道」より「平泉」	(舞) 吟舞道翠紫流稀翠会
9	偶成	朱熹	19	祝賀の詞	河野天籟
8	城山	西 道仙	18	寒梅	新島 襄
		陸中岳風会	17	岩手八景	陸中岳風会
		(舞) 吟舞菊水流菊妙会			硯上阜成
		県総連			(舞) 吟舞道翠紫流稀翠会
		岩手岳風会			陸中岳風会
		(舞) 吟舞菊水流菊妙会			新島 襄
		芦 東山			県総連
		陸中岳風会			(舞) 吟舞道翠紫流稀翠会
		松口月城			河野天籟
		県総連			県総連
		(舞) 吟舞道翠紫流稀翠会			(舞) 吟舞菊水流菊妙会
		碩上阜成			芭蕉
		上杉謙信			県総連
		岩手岳風会			(舞) 吟舞道翠紫流稀翠会
		藤野君山			吟舞道翠紫流稀翠会

- 44 このごろ出雲崎にて 岩手岳風会 相澤弘山
良寛 陸中岳風会 武田希山
- 45 垓下の歌 項羽 岩手岳風会 萱場毬風
高啓 県総連 千葉紅岳
- 46 家書を得たり 草場佩川 朝翠流源鵬吟詠会 星 悦鵬
- 47 山行同志に示す 伊勢大輔 県総連 太田櫻岳
逸名
- 48 いにしへの 朝翠流岩手朝翠会 菅原清鵬
- 49 噫八甲田山 三島中洲 県総連 武田隆岳
- 50 磯浜望洋楼に登る 真 山民
県総連副理事長 立身岳元
- 51 山間の秋夜 王 昌齡
朝翠流源鵬吟詠会会長 安保榮鵬
- 52 出塞行 頼 山陽
詩吟朗詠錦城会盛岡支部長 紺野城盛
- 53 奉母遊嵐山

第七部（実行委員独吟）

- 54 詩吟 本宮三溪 陸中岳風会副会長 小山岳耕
津田岳養
- 55 幸せと吟詠 岩手岳風会会長 津田岳養
佐久間象山
- 56 漫述 朝翠流岩手朝翠会会長 伊藤語鵬
王維
- 57 鹿柴 陸中岳風会会長 佐藤岳伸
秋漳
- 58 秋日 県総連理事長 三澤岳欣

《講評》 第22回岩手県吟詠剣詩舞道祭は、平成27年10月4日（日曜日）、岩手県民会館大ホールにて入場者数916人（会員766人・幼少年50人・一般100人）で盛大に行われた。

午前10時の開会式は、国旗・芸術祭旗への修礼が始まり、会場全員の国家斉唱と開会の辞（佐藤岳伸副実行委員長）、主催者挨拶（三澤岳欣実行委員長）に引き続き、参加者全員により「朗詠」（岩手岳風会 岩淵岳洲先導）の大合吟がホールに響き、続いて今上天皇の御製謹詠（三澤岳欣実行委員長）が行われ、吟詠発表に入った。

第一部の幼少年の部では、陸中岳風会赤荻学童クラブの

「月夜三又江に舟を泛ぶ―高野蘭亭作」「常盤孤を抱くの囀―梁川星巖作」を先頭に、岩手岳風会の「九月十三夜―上杉謙信作」の独吟、油島小学校児童の「雨ニモマケズ―宮沢賢治作」「廬山の瀑布を望む―李白作」の合吟が続き将来吟詠界を担うであろう子供達の純真無垢な声が会場に響きわたった。

第二部の一般吟詠・詩舞では、吟詠4団体と詩舞3団体による共演14題とテープによる剣詩舞の3題は会場の話題をさらった。

第三部の寿の部では、各吟詠3団体より90歳を超えた会員が矍鑠とした声で吟じらた。

約1時間の休憩（昼食）後、**特別企画（吟と他ジャンルのコラボレーション）**。

華道吟 これは吟の調べをバックグラウンドにお花を

けるといふ優雅な雰囲気醸し出す瞬間でした。



◀吟詠剣舞道

太極拳吟 太極拳の基本技演舞と吟調との掛け合いは張り詰めた空気の中に真剣な調和を漂わしていた。

第四部では、吟詠5団体それぞれを代表しての合吟が披露された。

第五部では、連吟を称される、一つの詩文を複数人で分けて吟ずる形式が披露された。

第六部では、それぞれの団体より是非この人という方を推薦し吟を披露して頂いた。

第七部では、今回の実行委員の方々の独吟が披露された。そして、**閉会式**では、吟詠剣詩舞道祭副委員長の伊藤語鵬先生より閉会の辞、同じく副委員長菅原水成先生の万歳三唱で岩手沿岸被災の更なる復興と県民全ての発展とご健勝を願い来年の再会を誓い合った。

振り返って、今回の目玉としての特別企画、吟道、華道、武道のコラボレーションは、同じ舞台で共演することによりそれぞれの真随を分かち合うよい試みであった。また、100名近くの一般入場者が会場に来ていただいたことも喜ばしいことであった。

（運営役員 中野 記）

音楽

合唱

合唱祭 十二月十三日(日) 十二時半開演
花巻市文化会館

オープニングの合唱(出演者全員)

プログラム

混声合唱のための組曲「蔵王」から
指揮 山田 靖了
ピアノ 佐藤 文子
早春 曲 佐藤 眞
尾崎左永子 詞

1 岩手県立花巻北高等学校(花巻市・混声118名)

指揮 大菅 寛
安倍亮太郎
杉原 直将
ピアノ 松田 開地
岩渕 立
岡本 敏明
詞 岡本 敏明
曲 ドイツ民謡
大地の歌 詞 谷川 健
熊谷 賢一 曲

2 桜台コーラス(花巻市・混声23名)

手紙 詞/曲 アンジエラキ
編曲 赤尾 暁
混声三部合唱とピアノのための「近代日本名歌抄」から
ゴンドラの唄 詞 吉井 勇
曲 中山 晋平
編曲 信長 貴富
プレゼント 詞 Saori
曲 Nakajin
(SEKAI NO OWARI)
編曲 大田 桜子

3 混声合唱団 アミューズ(奥州市・混声26名)

指揮 高野 司
ピアノ 伊藤ゆりか
あんべ光俊アルバム「トビウオ」から
朝の月 詞 大越 桂
曲 安部 光俊
編曲 高野 司
「大瀧詠一を讃えて」から
夢で逢えたら 詞/曲 大瀧 詠一

4 男声合唱団 コールM(盛岡市・男声28名)

指揮 太田代政男
ピアノ 稲生 創
ドイツ民謡
編曲 源田俊一郎
詞/曲 河島 英五
編曲 源田俊一郎
日本全国酒飲み音頭 詞 岡本 圭司
曲 ベートーベン鈴木
編曲 源田俊一郎

5 Auranova(盛岡市・混声36名)

指揮 伊藤 哲也
ピアノ 名須川明子
混声合唱組曲「方舟」から
水底吹笛 詞 大岡 信
曲 木下 牧子

6 矢沢コールフファミリー(花巻市・女声14名)

指揮 多田 功

7 盛岡 comet 混声合唱団(盛岡市・混声26名)

指揮 大森 明久
ピアノ 齋藤久実子
混声合唱組曲「よかったなあ」から
小鳥たち 詞 まじ・みちお
曲 なかにしあかね
ケヤキ
松園シルバーダックス(盛岡市・男声20名)
指揮 滝沢 三郎
詞 北原 白秋
曲 達子 幸多
落葉松 詞 堀口 大学
男声合唱組曲「月とピエロ」から
月夜 詞 堀口 大学
曲 清水 脩

8 松園シルバーダックス(盛岡市・男声20名)

詞 北原 白秋
ちんちん千鳥 詞 北原 白秋

編曲 高野 司
詞 松本 隆
曲 大瀧 詠一
編曲 高野 司

ピアノ 金子しのぶ
詞 犬童 球溪
曲 オードウエイ
詞 西條 八十
曲 中山 晋平
詞 近藤 玲二
曲 「ブランド

編曲 高野 司

編曲 高野 司

編曲 高野 司

編曲 高野 司

編曲 高野 司

編曲 高野 司

編曲 高野 司

編曲 高野 司

9 混声合唱団 北声会(盛岡市・混声25名)
 編曲 近衛 秀磨
 林 雄一郎
 指揮 山田 靖了
 ピアノ 阿部真優香

混声合唱組曲「二度とない人生だから」から
 二度とない人生だから
 詞 坂村 真民
 曲 鈴木 憲夫
 詞 星野 富弘
 曲 なかにしあかね
 今日もひとし

10 女声合唱団 花野(花巻市・女声25名)
 北上・コーラスせせらぎ(北上市・女声18名)
 花巻ユネスコ・ペ・セルクル(花巻市・女声18名)

指 揮 松田 順子
 女声合唱のための 三つの聖母マリア賛歌
 1 Salve Regina 曲 鈴木 憲夫
 2 Ave Regina caelorum
 3 Regina caeli

11 アンサンブルガリーナ(宮古市・女声14名)
 指 揮 阿部 亮子
 ピアノ 金野 侑
 曲 Gabriel Faure
 AVE VERUM CORPUS

TANTUM ERGO
 恋のフーガ
 曲 Gabriel Faure
 なかにし礼
 編曲 すぎやまこういち
 曲 信長 貴富

12 混声合唱団 コール・エトセラ(北上市・混声25名)

指 揮 及川佐恵子
 ピアノ 名須川千博
 詞 深田じゅんこ
 曲 大田 桜子
 詞 いたうけいし
 曲 まつしたこう
 ほらね、

13 女声合唱団しらうめ(盛岡市・女声15名)

指 揮 小濱 和子
 無伴奏女声合唱曲集「種子はさへづる」から
 3 いのり 詞 山村 暮鳥
 5 春の河 曲 信長 貴富
 6 種子はさへづる

14 男声合唱団響流はなまき(花巻市・男声14名)

指 揮 尾形 英夫
 ピアノ 瀬川 康子
 詞/曲 小椋 佳
 詞 秋元 康
 川の流れのように
 愛燦燦

15 都南混声合唱団(盛岡市・混声52名)
 編曲 見岳 章
 滝野 豊
 指 揮 大橋文四郎
 ピアノ 昆野 志穂
 詞 岩谷 時子
 宮川 泰

恋のバカンス

混声合唱のための組曲「旅」から
 旅のあとに
 詞 田中 清光
 曲 佐藤 眞
 行こうふたたび

16 東和ハーモニー(花巻市・混声22名)

指 揮 村上 顕
 ピアノ 佐々木さつき
 ミサ ハ長調(聖三位一体の祝日のミサ)からK.167
 Kyrie 曲 W. A. Mozart
 Gloria

17 女声合唱団 コールパレッタ(盛岡市・女声25名)

指 揮 伊藤 哲也
 ピアノ 中村 安里
 二声でうたう「のはらうた」から
 よるのもり
 詞 工藤 直子
 曲 新実 徳英
 ひかるもの

聞こえる

18 岩手県立大学混声合唱団DOLBY(滝沢市・混声27名)

指 揮 高橋 信子
 混声合唱のための「どちりなきりしたん」から
 III 曲 千原 英喜

19 二日会(盛岡市・男声11名)

指 揮 宮野 哲美
 ピアノ 昆野 志穂
 男声合唱組曲「雪明りの路」から
 I 春を待つ

啄木短歌集から

詞 伊藤 整
 曲 多田 武彦
 やはらかに
 啄木
 詞 石川 啄木
 曲 加藤 學

20 合唱団 Believe(花巻市・混声21名)

指 揮 太田代政男
 ピアノ 池田 好典
 「無伴奏の四つの歌」から
 I わたりどり
 詞 北原 白秋
 曲 大中 恩
 混声合唱組曲「ぼくら・風の又三郎」から

Ⅲ 求めよさらば…

詞	片岡 輝
曲	平吉 毅州

指揮 太田代政男
ピアノ 佐藤 文子
詞 大木 惇夫
曲 佐藤 眞

ふるさと（会場のみなさまとともに）

《講評》 年の瀬も近い12月13日(日)、恒例の第68回岩手芸術祭「合唱祭」が花巻市文化会館において開催されました。地元花巻市をはじめ盛岡市、奥州市、北上市、宮古市、滝沢市から約600名の参加でした。

開幕に先立ち、長い間私たちをご指導くださり、今年三月にお亡くなりになった岩手県合唱連盟顧問の松田晃先生を追悼して、モーツァルト作曲「アヴェ ヴェルム コルプス」が演奏されました。

合唱祭は、出演者全員の「早春」の演奏で開幕です。プログラム一番は、花巻北高等学校一年音楽選択生による混声合唱。総勢111名の一体となった若々しい歌声に心が癒されました。一般の合唱団は、混声10団体、女声5団体、男声4団体で、宗教曲や邦人の合唱組曲、なつかしい

◀合唱



世界の民謡、最近のポピュラー曲など、それぞれの合唱団の持ち味を生かしたバラエティに富んだプログラムで会場を楽しませてくれました。ただ、歌謡曲やポピュラー曲などの演奏に際しては、曲の雰囲気に合わせて表情や動きを少し工夫してはどうかと思われる所もありました。一方、ベテランが中心になっている男声合唱団では、歌うことを楽しんでるのが良く伝わってきました。

フィナーレの「大地讃頌」はオープニングの「早春」にも増して力強くホール全体に響き渡り、最後は会場の皆さんも加わった「ふるさと」の大合唱で合唱祭の幕が閉じられました。

演奏会終了後の合評会では、各団体からの代表者が演奏の感想や今後の活動予定などを発表しあい、お互いの更なる

る向上を約して終了となりました。

（岩手声楽研究会副会長 阿部 佳代）

声楽 声楽部門演奏会

十一月七日(土) 午後一時半開演
岩手県民会館中ホール

1 Gabriel Faure (1845-1924) ガブリエル・フォーレ

- ・ Mai 五月（ユゴー作詩） Pf.櫻野 杏里
- ・ Lydia リディア（リール作詩） 小坂 博
- ・ Au bord de Teau 河のほとり（プリュドム作詩） 門脇 次郎
- ・ Automne 秋（シルヴェストル作詩） 花下 美起
- ・ Les berceaux ゆりかご（プリュドム作詩） 昆野 聡朗
- ・ Chanson d'amour 愛の歌（シルヴェストル作詩） 新田 順子
- ・ Clair de lune 月の光（ヴェルレーヌ作詩）池野 桂子

2 Goethe ゲーテの詩によるさまざまな歌曲

Pf.内堀 朋子

- ・ Das Veichen すみれ（ライヒャルト作曲） 駒木美和子
- ・ Kennst du das land ミニヨンの歌（ライヒャルト作曲） 飛澤のり子
- ・ Connais- tu le pays? 君よ知るや南の国（トーマ作曲） 丸岡千奈美
- ・ Erlönig 魔王（ライヒャルト作曲） 新田 順子
- ・ Erlönig 魔王（シューベルト作曲） 山口 剛
- ・ Schäfers Kangelied 羊飼いの嘆きの歌（シュルター作曲） 萩原美智子
- ・ Schäfers Kangelied 羊飼いの嘆きの歌（シューベルト作曲） 萩原美智子

3 高校生招待演奏

- ・ Sentu nel core 私の心にかんじる（モーツァルト作曲） オペラ「ドン・ジョバンニ」より Pf.三船 桂子
- ・ Batti, batti, o bel Masetto ぶってよ、マゼット Pf.小笠原宜子

4 日本歌曲をたどって その7

Pf.小笠原宜子

〔山田耕筰作品〕

- ・ からのちの花 北原白秋作詞
- ・ さくらさくら 近世箏曲

〔童謡百曲集〕より

- 青い小鳥 川路柳紅作詞
- 青蛙 三木露風作詩
- お友だちといっしょ 三木露風作詩
- ・ からのちの花Ⅱ 北原白秋作詞
- ・ 樹立 三木露風作詩
- ・ 六騎 北原白秋作詞
- ・ 鐘が鳴ります 北原白秋作詞
- ・ 秋風の歌 西条八十作詩
- ・ 秋の夜 長田秀雄作詞

- 奥崎由樹子
- 松山 裕子

- 平野 紅子
- 平野 紅子
- 飛澤のり子
- 駒木美和子
- 奥崎由樹子
- 昆野 聡朗
- 門脇 次郎
- 阿部 佳代
- 阿部 佳代
- 阿部 佳代

《講評》 今年度の声楽部門演奏会には、高校生招待演奏による出演者一名と声楽研究会会員十六名、計十七名が参加した。

第一部は「ガブリエル・フォーレ」のフランス歌曲、七曲を取り上げた。作曲者の気品ある表現や独唱と伴奏の交錯を十分に味わうことのできる演奏であった。フランス語の克服が課題である。

第二部は「ゲーテの詩によるさまざまな歌曲」である。

名誉会長であった故松田晃先生

は、生前、シューベルトやシューマンに代表されるドイツ歌曲を学ぶ前にドイツ古典歌曲で基礎を固めることの大切さを熱を込めて言い続けてくれた。今回ライヒャルト等の作品に取り組み、古典リートに対する理解を多少なりとも深めることができた。

第三部は高校生招待演奏で、不來方高等学校三年、東山桃子さんによる演奏である。東山さんは各種コンクールに出場、高く評価され好成績をおさめている。確かな学びに裏打ちされたみずみずしい歌声で、聴衆を魅了した。

第四部は「日本歌曲をたどって その7」である。今回は没後五十年にあたる山田耕筰の作品を馴染みのある曲から初めて耳にするような曲まで、十一曲を取り上げた。作曲者や演奏者の思いを日本語を通して伝えることの難しさに直面しつつも、発声方法や表現方法の学習を重ね、当日



◀ 声楽

はその成果を披露することができた。

ステージの最後に、故松田晃先生が、リサイタルの際にいつも取りあげておられた、シューベルト作曲の「楽に寄す」を会場と一体となり演奏し、感謝の気持ちを届けた。

今年度も今関由起子先生の熱意あふれる御指導や会員相互のあたたかくも厳しい勉強を重ねることにより、一歩前進することができた。しかし、勉強の仕方や演奏のつめ方等について、今後への課題も残る。

(藤原美智子)

弦楽

ソロと室内楽の調べ

十月四日(日) 午後二時開演
岩手県民会館中ホール

第一部 ヴァイオリン独奏

ヴァイオリン協奏曲第4番ニ長調K.218第一楽章……

モーツァルト

藤島 百花

ピアノ 伊藤 玲子

バレエの情景Op.100……ペリオ

村山 美羽

ピアノ 三神 樹美

第二部 弦楽合奏

ディヴェルティメントニ長調K.136 (125a)……モーツァルト

第一楽章 アレグロ

第二楽章 アンダンテ

第三楽章 プレスト

弦楽四重奏のための日本民謡組曲第一番…幸松 肇編曲

1 さんさ時雨

2 ソーラン節

ヴァイオリン協奏曲第5番イ短調Op.37

第一楽章 アレグロ ノン トロツポ……ヴェータン

福田 歩

ヴァイオリン協奏曲ホ短調Op.64 第一楽章 アレグロ

ピアノ 堀内 楽斗

モルト アパシヨナート……メンデルスゾーン

井原 梢

コントラバス独奏

ピアノ 鈴木 恵

カルメンファンタジーより「アラゴネーズ」……

ビゼー＝フランク・プロト

ピアノ

柴田誠太郎

3 五木の子守歌
4 茶切節

Vn 阿部 大司 亀谷由美子 菊池 昭子
 小林 亮子 畠山亜希子 馬場 雅美
 米倉 久美 渡辺めぐみ 藤澤 玲菜(ホ)
 浅沼 伽鈴(中) 山本 乙葉(中) 大森 響生(天)
 菊池 敏文(天) 盛合加奈子
 Va 伊藤千鶴子 熊谷 啓幸 成田 浩子
 林 彩貴(天) 藤田 真帆(天)
 Vc 加藤 眸 徳吉 敏江 埴 伸比古
 Cb 小林 照雄 白築 真夏(天)

《講評》 今年の「ソロと室内楽の調べ」は、第一部では中、高校生四名によるヴァイオリン独奏、大学生一名によるコントラバス独奏、第二部では、岩手県弦楽研究会会員、県内在住の学生、音楽愛好者による弦楽合奏だった。

第一部は、盛岡市立上田中学校二年藤島百花さんがモーツァルト作曲ヴァイオリン協奏曲第四番 二長調 第一楽章を、盛岡白百合学園中学校二年村山美羽さんがペリオ作曲バレエの情景を、紫波町立紫波第一中学校二年の福田歩君がヴェーターン作曲ヴァイオリン協奏曲第五番 イ短調第一楽章を、盛岡白百合学園高等学校二年井原梢さんがメ

◀弦楽



になっっていくことと期待している。

(田口博子)

三曲 三曲演奏会

十月十八日(日) 午後一時半開演
岩手県民会館大ホール

1 生田流佐藤叡子社中

イーハトーブ協奏曲 川村粹邦 作曲
 箏独奏部 遠田 敏子
 I 箏 佐藤 叡子 畠山知恵子
 II 箏 阿部 菊子 片岡 明美
 十七絃 吉田 こう

2 生田流菊池玉悦松社中・都山流

紅の魔方阵 水野利彦 作曲
 I 箏 菊池玉悦松 戸塚玉悦淑茂 平野玉悦光
 小松 寿子 武蔵 南美
 II 箏 藤原玉悦美 古山玉悦恵 川村玉悦周栄
 川村 佳子
 木村玉悦枝
 十七絃 伊藤 衡山 立野 呈山 菊池 捷山
 尺八 遠山 天山 村井 堆山

3 金石支部生田流高橋雅道社中

波の戯れ 吉崎克彦 作曲
 I 箏 阿部美和子 白澤 直子
 II 箏 佐々木ひろみ
 十七絃 高橋 雅道
 近江八景 福城可童 作詞
 山登万和 作曲

4 琴古流竹友社・山田流船越喜実乃社中

尺八 高橋 竹朋 佐藤 竹園
 箏 船越喜実乃 栗津佐紀枝 畑中 央子
 三絃 藤沼佐代邦
 関の秋風 福田蘭童 作曲

5 琴古流竹心会

I 部 高橋 法聖 鈴木 萬平
 II 部 石川 戡 渡瀬 典子
 III 部 佐藤 政孝 白石 文子 熊谷みき子
 萩の露 霞 紅園 作詞
 幾山検校 作曲

6 琴古流童門会・生田流細田雅邦社中

尺八 鈴木 星童 吉田 斗童 幾山検校 作曲
 三絃 細田 雅邦 田村 雅蕉 小瀬川雅恵
 箏 佐藤 雅陵

10 都山流 岩手県支部

本曲 湖上の月	流祖 中尾都山	作曲
I部	千葉 大山	地紙 鷺山 伊藤 衡山
	千田 聡山	立野 呈山 遠山 天山
	丑館 統山	村井 堆山 高橋 療山
II部	佐藤 榎山	佐々木大儿
	細川剣丈山	及川 政山 及川 武山
	菊池 穂山	菊池 捷山 照井 我山
	佐藤 秋山	工藤 盛山 佐々木旭山
	伊藤 大薬	

《講評》

第68回岩手芸術祭公演は、岩手三曲協会135回定期演奏会として、岩手県民会館大ホールで10月18日に11団体延べ92人の参加で10曲を演奏した。ひと頃は定期演奏会のマンネリ化という事がよく話題となったが、最近はい各団体とも各流派や各社中の個性を生かしながら選曲にも力を注ぎ、変化に富んだ内容のプログラム編成になっている。

日本の伝統音楽としての三曲は、当然の事ながら江戸時代から演奏されている古典曲を中心にしながらも、明治時代以降洋楽の影響を受けて和音を取り入れたり他の楽器と合奏を目的として作曲された曲や、リズムを大切にしたり

7 北上支部 山田流阿部修声社中・都山流

平和のひびき

I 箏	藤田修嘉声	内村 由樹	斉藤松声	作曲
II 箏	阿部 修声	佐藤 桃花		
尺八I部	及川 政山	佐藤 榎山		
尺八II部	門脇 晃山			

8 県南支部 生田流佐々木正子社中・都山流

末の契

箏	佐々木正子	小幡 徳子	佐藤 宏美	作曲
	篠原 綾乃			
三絃	加藤 睦	須藤はま子	菊地 和江	作曲
尺八	千田 聡山			

9 山田流 船越喜実乃社中・琴古流竹心会

白の声

箏	船越喜実乃	栗津佐紀枝	畑中 央子	作曲
	菊地佐代樹	熊谷佐代規	福士 史恵	作曲
三絃	藤沼佐代邦			
尺八	石川 戡	佐藤 政孝		

色々の技巧を取り入れた現代曲等、時代によって色々な作風の曲が作曲されている。そこでプログラムの各曲に作曲年代を入れてるので、この事もふまえながら鑑賞していただきたいと思っている。

今回の演奏曲目を見ると、江戸時代に作曲された「末の契」や「萩の露」、そしてこの流れを受け明治時代に作曲された「近江八景」「白の声」、これらの曲はいずれも三曲の原点である箏、三絃そして尺八の三つの楽器による合奏曲である。「近江八景」と「白の声」は、唄いながら箏を弾く、語り物音楽であり、「末の契」と「萩の露」は、長く技巧的な間奏を持つ手事物曲であるが、良くまとめ上げている。

また、明治以降の洋楽の影響を受け従来とは異なる手法で作曲された「イーハトーブ協奏曲」と「平和のひびき」は美しく軽



▲三曲

快なメロディーや和音を楽しむことが出来た。平成に作曲された「紅の魔方陣」と「波の戯れ」は色々なリズムや技巧を用いそれぞれの音を楽しむことが出来た。「関の秋風」と「湖上の月」は尺八だけの三重奏そして二重奏で秋の心象風景や実風景を思い浮かべながら鑑賞することができた。

邦楽は一般的に指揮者無しの演奏なので、練習を重ね演奏仲間とお互いの呼吸を感じながら「あうんの呼吸」で演奏しているの、演奏会までの練習が大変であるが、各曲ともよくまとめあげて演奏をしていると思われた。

日本の伝統芸能である三曲を愛好する者として、古典を学びつつも、時代の流れに伴う新たな曲に挑戦し、多くの方々に喜んでいただけるような幅広いプログラムの編成が出来よう努めていかなければならないものと思っている。(伊藤衛山記)

吹奏楽

吹奏楽演奏会 十一月二十一日(日) 午後五時開演
盛岡市民文化ホール大ホール

I 【第47回定期演奏会 もりすい「コンサート」】

Prelude and Fugue from The Spittfire William Walton 作曲

Canterbury Chorale	Jan Van der Roost	作曲
Two-Part Invention	Philp Spake	作曲
The Year of The Dragon	Philp Sparke	作曲

II

「明日への扉の向こう側」～心の瞳に映る虹～

スター・ウォーズ
M・ルグランの世界
風笛～あすかのテーマ
ガブリエルのオーボエ
夢―岩井直博先生の思い出に
アメリカン・グラフィティX

《講評》 今回の演奏会も例年通り盛り沢山の内容となりました。今年の盛岡吹奏楽団は、多くの皆様よりお声をかけて頂き依頼演奏やホールでのコンサートなど岩手国体の使用曲コンサートや録音、吹奏楽での第九の演奏等、多彩な行事の多い一年でしたが、演奏会のメニューは、ゲストプレーヤーに盛岡吹奏楽団のトレーナーでもあります弘瀬麻子（オーボエ奏者）さんにお手伝いただきました。また、第一部では吹奏楽のオリジナル曲を中心に団員のユーフォニアム

奏者2名でユーフォニアムをフューチャーした曲をお送り致しました。

第二部ではポップス曲を中心に岩井先生の曲を中心にこちら最新のスターウォーズからゲストプレーヤーの弘瀬さんのオーボエの透き通るような曲を2曲お届け致しました。

今回演奏会の開演時間が例年より諸事情のために遅い設定でしたので、多少集客の点でやや少なめでしたが、おいでいただきましたお客様皆様に満足していただけたのではないかと思います。



◀吹奏楽

少ない時間の中で完成度の高い演奏が今後もできまうに、日々精進を重ねていきます。

盛岡吹奏楽団は昭和43年に設立して今年48年になる吹奏楽団ですが、あと2年で活動を始めて半世紀となります。これからも毎年の定期演奏会では盛岡吹奏楽団だから出

来る事、盛岡吹奏楽団にしか出来ない事を常に目標としながら更なる精進を重ねて行きたいと思えます。これからも息の長い吹奏楽団として活動していきます。

(安倍一洋)

ピアノ

ピアノ演奏会 十月十七日(土)
ジュニアの部 午後三時開演
一般の部 午後五時開演
岩手県民会館中ホール

- ジュニアの部
- 1 ソナチネ ホ長調 テュルク 内藤 雪乃
 - 2 メヌエット ト短調 BWV Anh.115 J.S.バッハ
 - 3 インヴェンション第13番 イ短調 BWV784 J.S.バッハ
 - 4 ソナチネ 変ニ長調 Op.64-1 「子犬」 ショパン 佐々木響子
 - 5 インヴェンション13番 イ短調 BWV787 J.S.バッハ 千葉 心寧

- 1 インヴェンション No.1.2.4.5.8.9.11.14 J.S.バッハ 片倉 文子
 - 2 無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータより 「シヤロンス」ニ短調 バッハ＝ブゾーニ
 - 3 ワルツ 変ニ長調 Op.64-1 「子犬」 ショパン 佐々木響子
 - 4 ソナチネ 変ニ長調 Op.146-1 第一・第三楽章 ランゲ 千葉 心寧
 - 5 インヴェンション13番 イ短調 BWV787 J.S.バッハ
 - 6 ワルツ 第4番 変ニ長調 Op.34-3 ショパン 菅原 由唯
 - 7 ロンド・カプリチオーン ホ長調 Op.14 メンデルスゾーン 岩間 愛依
 - 8 ワルツ 変ニ長調 Op.18 「華麗なる大円舞曲」 矢野 真波
 - 9 ソナタ 変ニ長調 Hob.XVI/52 第一楽章 ハイドン 中野 晃希
 - 10 ファンタジーポロネーズ 変ニ長調 Op.61 ショパン 佐藤 陽十
 - 11 ハンガリー舞曲集より 第五番 イ長調 プラームス 矢野 真波
 - 12 ハンガリー舞曲集より 第八番 イ短調 プラームス 鈴木 照海
- 一般の部(審査制)

- 3 練習曲 変ト長調 Op.10-5 ショパン 千葉りりな
ソナタ第26番 変ホ長調 Op.81a 「告別」
第1楽章 ベートーヴェン
- 4 ソナタ第16番 イ短調Op.42第1楽章 シューベルト 中澤 唯
伊藤美也子
- 5 夜のガスパールより ラヴェル
2 絃首台 3 スカルボ 上田 菜緒
- 6 ソナタ第12番 変イ長調 Op.26 「葬送」 ベートーヴェン 荒屋敷杏花
佐藤 南美
- 7 映像第1集より ドビュッシー
Ⅰ水の反映 Ⅱラモー賛歌 Ⅲ運動 鈴木 幸也
- 8 6つの小品 Op.18より ブラームス
第1番 間奏曲 イ短調
第2番 間奏曲 イ長調
第3番 バラード ト短調
第6番 間奏曲 変ホ短調

高く、現役の学生のみしか出演しませんでした。主催者の狙いとしては、学生のみならずピアノ教師として活躍している方や、県内で演奏活動をしている方に広く出演していただいでこそ県の芸術祭だと思いい、思い切ってコンクールのネーミングを廃止し審査制の演奏会のみにした所、学生のみならず既に卒業されてピアノを教えている方も出演し、スタッフを喜ばせてくれました。

一般部門の出演資格は県内在住及び県内に戸籍のある方で18才以上の方にあります。今年はホームページにも掲載し8名のエントリーがありました。

表彰も芸術祭賞は従来通りですが、副賞として(一社)岩手県ピアノ音楽協会より賞金3万円及び翌年の芸術祭及び岩手県ピアノ音楽協会の支部コンサートに招待演奏の資格が与えられます。そして、優秀賞、奨励賞を廃止し、部門賞とし



▶ピアノ

第67回岩手芸術祭ピアノコンクール第1位「芸術祭賞」受賞者演奏

- ノクターン 変ニ長調 Po.272 ショパン
ドゥムカ ハ短調
「ロシアの農林風景」Op.59 チャイコフスキー
トッカータ ホ短調 BWV914 J.S.バッハ
小井土文哉

《講評》 出演者 ジュニア部門10名(連弾1ステージあり)、一般部門8名、計19名
招待演奏 第67回岩手芸術祭ピアノコンクール1位芸術祭賞 小井土文哉

審査員 林 苑子(ピアニスト)・松岡 淳(昭和音楽大学講師・ピアニスト)・赤松林太郎(ピアニスト)の三氏
ジュニア部門は県内の小中高生が、日頃の成果を発揮すべく熱演を繰り広げ非常にレヴェルが高く、個性あふれる演奏をするお子さんが目立ちました。

このジュニア部門は一般部門の審査員よりコメントを頂けることで年々定着しつつありますが、定期的にスポーツの大会とぶつかり出演したくても出来ないお子さんがいるのがとても残念です。

一般部門は昨年までは演奏部門及びコンクール部門に分かれていましたが、コンクールのネーミングが相当敷居が

て審査員のサイン入りの審査員特別賞を授与する事にしました。

厳正なる審査の結果、芸術祭賞・鈴木幸也さん、審査員特別賞に佐藤南美さんが決定いたしました。

聴衆の方々は、年々増え始めてはいますが、何しろ日時がスポーツなどと重なっているのではなかなか増えず、自分のお子さんの演奏が終わると帰ってしまう方が多いので、ジュニア部門の最後に写真撮影を行ったりしています。が、一般部門になるとたちまち客席が少なくなるのが悩みです。

どうやって客席を埋めるか思案のしどころだと思っております。

(滝沢昭子)

ギター | ギター音楽の夕べ

十一月二十一日(土) 午後五時三十分開演
岩手県民会館中ホール

第一部 独奏

森の熊さん……………アメリカ民謡 井上 寛永

- ある愛の歌……………F・レイ 畠中登紀子
- G線上のアリア……………J・S・バッハ 作山 裕子
- さくら変奏曲……………横尾幸弘 八重樫慎子
- アレグロモデラート……………F・ソル
- 鉄道員……………C・ルスティケリ 佐藤 優
- アベ・マリア……………G・カッチーニ 佐藤 典子
- 愛のロマンス……………スペイン民謡 阿部和佳奈
- 前奏曲第1番、練習曲第7番 H・ヴィラロボス 田村 一真
- フランメンコ研究会
- アレグリアス……………V・M・セラニート 工藤 進
- 二重奏
- ジョンゴ……………P・ベリナティエー 1st 勝又ゆつき
- 愛の夢NO3 ……………F・リスト 2nd 菅原 美紀
- 1st 齋藤 忠孝
- 2nd 三浦 晃可
- 第二部
- 合奏
- リベルタンゴ……………A・ピアソラ

- ハンガリー幻想曲……………J・K・メルツ 中嶋 亮三
- 大聖堂……………A・バリオス 樋口 知志
- ソナチネ1楽章……………M・トロバ 三浦 晃可
- ソナタ2番からフーガ……………J・S・バッハ 大森 圭一
- ソナタ ボツケリーニ賛歌からIV C・テデスコ 望月 麻千

《講評》 第六十八回岩手芸術祭参加「第三十九回ギター音楽の夕べ」は、独奏者十九名（うちフラメンコ一名）、二重奏二組、合奏六団体の参加の下、平成二十七年十一月二十一日、県民会館中ホールにて行われた。聴衆数は約二百名、出演者数は七十七名であった。

第一部は井上寛水の森のクマさんの独奏で幕を開け、フラメンコの独奏・二重奏と第二部のギター合奏をはさみ、第三部の望月麻千のソナタ（ボツケリーニ賛歌IV）の演奏で幕を閉じた。

今年のプログラム構



▶ギター

- ルナ・デ・フェゴ
- 山寺の和尚さん……………日本古謡 響
- アンダンテ・メヌエット・アダージョ・ロンド L・カル フォーラギターアンサンブル
- ポロネーズ・サラバンド・バディスリー J・S・バッハ プレイビズギターアンサンブル
- かもめが翔んだ日……………渡辺真知子
- CELEPS (ジープス)
- 組曲『仮面舞踏会』からワルツ A・ハチャトゥリアン 岩手大学ギターアンサンブル
- 指揮…竹下 千裕
- 第三部
- 独奏
- 11月のある日……………L・ブローウエル 滝沢 卓男
- アリアと変奏……………G・フレスコバルディ 菊池 静男
- 無伴奏チェロ組曲からガボットI・II G・S・バッハ 鈴木 大
- アルハンブラの思い出……………F・タレガ 上野 聖二
- アラビア風奇想曲……………F・タレガ 橋本 博行

成の中で、第一部佐藤典子のアベ・マリア（G・カッチーニ）、田村一真の前奏曲第1番と練習曲第7番（H・ヴィラロボス）の独奏、齋藤忠孝と三浦晃可の愛の第三番（F・リスト）の二重奏の他、第二部プレイビズギターアンサンブルのポロネーズ他二曲（J・S・バッハ）とジープスのかもめが翔んだ日（渡辺真知子）の合奏、そして第三部中嶋亮三のハンガリー幻想曲（J・K・メルツ）、大森圭一のソナタ2番・フーガ（J・S・バッハ）の演奏が印象に残った。

今回も小学生から老若男女の成人までの方々の独奏・合奏に加えて新進気鋭の中嶋亮三氏の参加で多彩かつ円熟味の増した演奏を聴くことが出来、楽しい一時を過ごさせて頂いた。

▽実行委員 佐藤勝政・橋本博行

（文責 佐藤 匡）

舞踊

洋舞

バレエ合同公演

平成二十七年十月十一日(日) 午後二時三十分開演
岩手県民会館大ホール

小柳玲子バレエ教室

パキータ

女性第一舞踊手

男声第一舞踊手

ソリスト 吉見 紗英

山田 美生

コールド 及川日花梨

高清水あいり

伊東 華

第Iヴァリエーション

第IIヴァリエーション

第IIIヴァリエーション

エトワールのヴァリエーション

男性ヴァリエーション

太田 巴菜

田村 幸弘

遠藤 葵

浅野 菖

根本 朋

関 レナ

遠藤 櫻

浅野 菖

松岡 愛

吉見 紗英

太田 巴菜

田村 幸弘

第Iヴァリエーション

第IIヴァリエーション

第IIIヴァリエーション

第IVヴァリエーション

第Vヴァリエーション

第VIヴァリエーション

藤本沙莉亜

幸田 真奈

司東 実音

澤木菜々子

司東 里菜

齊藤 実音

藤本沙莉亜

幸田 真奈

司東 実音

澤木菜々子

司東 実優

藤原めい子バレエ教室

白藤 彩絵

和田 夢唯

田中 梨美

齊藤 実音

司東 里菜

幸田 真奈

樋口 睦

齊藤 瑞季

司東 実優

澤木菜々子

藤本沙莉亜

パ・ド・フィアンセ

コンテンポラリーバレエ

Gallo クリスティーナ・ガルシア・フォンセッカ

振付……Bruno Roque

Dancing of Joy (モーツァルト曲)

阿部幸香 オルデップ・ロドリゲス・シャコン

振付……Ordep Rodriguez Chacon

黒沢智子バレエスタジオ

「眠れる森の美女」より

オーロラ姫の結婚(チャイコフスキー曲)

構成・演出・監修

振付指導

指導補

オーロラ姫

王子

国王

王妃

式典長

リラの精

フロリナ王女

青い鳥

宝石 ダイヤ

金

銀

白い猫

黒い猫

赤ずきん

狼

黒沢 智子

川村 真樹

山川 あや

小野 絢子

福岡 雄大

貝川 鐵夫

金子 昌末

吉田 健

村上 弘子

竹花 香

田村 幸弘

柳村 安泉

柴田千紗葵

池田 理子

森 奏子

松浦 咲

澤村 颯季

菅原 律生

上田 馨

村上 弘子

ポロネーズ

青沼 和泉

高橋 芽生

浅沼 珠央

佐藤 沙羅

前田 千佳

小谷 百香

安藤 水実

佐々木唯空

西國 菜

宮手瑚々音

佐々木結子

及川 彩花

山川 彩花

千葉 紅華

古澤 桃恵

野崎 麻美

前田 千佳

小谷 百香

安藤 水実

小沢 星花

千葉百合亜

菅原 瑠夏

江上りか子

村木 小晴

千田 薫子

飯島 凜花

太野 凜花

山田 心路

菊池ひまり

齋藤 樹里

佐藤 仁香

菊池 春香

矢澤志津香

長崎有希子

宍戸 悠莉

村木 小晴

千田 薫子

飯島 凜花

お小姓

貴婦人

《講評》

出演 小野 絢子(新国立バレエプリンシパル)

福岡 雄大（国立バレエプリンシパル）
 貝川 鐵夫（国立バレエファーストソリスト）
 阿部 幸香（藤原バレエ出身在ドイツ）
 オルデップ・ロドリゲス・シヤコン（在ドイツ）
 クリステイーナ・ガルシア・フォンセッカ
 （在フランス）

田村 幸弘（黒澤バレエ出身）

太田 巴葉（小柳バレエ出身在東京）

今回の芸術祭参加のバレエ合同公演は、黒沢智子バレエスタジオ、小柳玲子バレエ教室、藤原めい子バレエ教室の三団体合同公演でした。プログラム（演目）は小柳バレエ「パキータ」のプリンシパル、ソリスト、ゴールドバレエのクラシックバレエの様式美で幕開けとなり、藤原バレエ「ファンタジー」の力強さ、「パ・ド・フィアンセ」の優美さの小品の魅力、海外のダンサーによるコンテンポラリーバレエとネオ・クラシック作品で、現代の世界のバレエの一端をおみせしました。最後は、黒澤バレエによるグランド・バレエ「眠れる森の美女」の終幕「オーロラ姫の結婚」のストーリーバレエで現日本バレエ界の最高のダンサーによるグラン・パ・ド・ドウで締めくくりました。盛岡にしながら、日本、世界のバレエの「今」を皆様にご覧いただけたと思います。

この公演に出演していないダンサーも含めて各団体出身のプロフェッショナルダンサー、またダンサーから指導者になった若い才能の人材に岩手のバレエの将来への光が感じられます。

岩手県洋舞協会会長の柴内啓子先生の訃報がもたらされました。まだ、まだ、ご活躍をさせていただいて、私達協会員にたくさんのお事を教えて下さったはずの先生を失いました。ご冥福を心より祈ります。

（藤原めい子記）



▶洋舞

日舞

日本舞踊公演

十一月十五日(日) 午前十時三十分開演
 岩手県民会館大ホール

- 一、義太夫 萬歳……………水木 歌優
- 二、常磐津 屋敷娘……………五條寿美代
- 三、長 唄 鳥の千歳……………水木 聡楓
- 四、長 唄 近江のお兼……………若柳 孝綯
- 五、長 唄 伊勢参宮……………若柳 初弘
- 六、長 唄 桜絵巻……………水木 ま優
- 七、清 元 三社祭……………恵玉 力衛
- 八、長 唄 新一つとや……………善玉 若柳力十代
- 九、長 唄 雪傾城……………芸者 若柳 華裕
- 十、長 唄 梅の栄……………芸者 若柳 聖葉
- 十一、長 唄 八島官女……………半玉 若柳 聖鈴
- 十二、長 唄 八島官女……………若柳 衣妙
- 十三、長 唄 八島官女……………若柳 衣妙
- 十四、長 唄 八島官女……………水木優葵輔
- 十五、長 唄 八島官女……………水木優水碧
- 十六、長 唄 八島官女……………水木聖千優
- 十七、長 唄 八島官女……………水木 歌林
- 十八、長 唄 八島官女……………水木 春翠
- 十九、長 唄 八島官女……………坂東綾千穂

- 十二、長 唄 二人枕久……………松山 藤間利之進
- 十三、長 唄 風流船揃……………椀久 藤間純之進
- 十四、義太夫 葛の葉道行……………五條 峰路
- 十五、清 元 梅の春……………若柳 寿慧
- 十六、常磐津 神楽娘……………水木 歌董
- 十七、義太夫 狸々……………藤間亜祁之
- 十八、新邦楽 牡丹がさね……………若柳比呂恵
- 十九、長 唄 旅……………若柳 ゆり恵
- 二十、清 元 柱立萬歳……………若柳 優
- 二十一、長 唄 雨の四季……………若柳 力純
- 二十二、地 唄 八島……………若柳 力代
- 二十三、地 唄 八島……………若柳 朱宏
- 二十四、地 唄 八島……………若柳 かつみ
- 二十五、地 唄 八島……………若柳 衣江
- 二十六、地 唄 八島……………若柳 美寿晴
- 二十七、地 唄 八島……………若柳 美寿晴
- 二十八、地 唄 八島……………若柳 美寿晴
- 二十九、地 唄 八島……………若柳 美寿晴
- 三十、地 唄 八島……………若柳 美寿晴
- 三十一、地 唄 八島……………若柳 美寿晴
- 三十二、地 唄 八島……………若柳 美寿晴
- 三十三、地 唄 八島……………若柳 美寿晴
- 三十四、地 唄 八島……………若柳 美寿晴
- 三十五、地 唄 八島……………若柳 美寿晴
- 三十六、地 唄 八島……………若柳 美寿晴
- 三十七、地 唄 八島……………若柳 美寿晴
- 三十八、地 唄 八島……………若柳 美寿晴
- 三十九、地 唄 八島……………若柳 美寿晴
- 四十、地 唄 八島……………若柳 美寿晴
- 四十一、地 唄 八島……………若柳 美寿晴
- 四十二、地 唄 八島……………若柳 美寿晴
- 四十三、地 唄 八島……………若柳 美寿晴
- 四十四、地 唄 八島……………若柳 美寿晴
- 四十五、地 唄 八島……………若柳 美寿晴
- 四十六、地 唄 八島……………若柳 美寿晴
- 四十七、地 唄 八島……………若柳 美寿晴
- 四十八、地 唄 八島……………若柳 美寿晴
- 四十九、地 唄 八島……………若柳 美寿晴
- 五十、地 唄 八島……………若柳 美寿晴

《講評》 今年の公演は（公社）日本舞踊協会岩手県支部
 結成五十五周年記念第六十八回岩手芸術祭参加「日本舞踊

公演」として開催されました。今回は五年に一度の記念公演であり重要無形文化財保持者（人間国宝）又日本舞踊協会常任理事の井上八千代師をお迎え致し全二十二演目が上演され、出演者は六流派十九社中、三十六名、岩手芸術祭にふさわしく盛岡、花巻、釜石、北上、二戸、陸前高田と各地からの参加となりました。

序幕は岩手健支部長水木歌徳による気品ある「萬歳」で幕を開け、「屋敷娘」、「島の千歳」、「近江のお兼」と華やかに、伊勢参りの道中の様子を「伊勢参宮」、「桜花爛漫」の中で「桜絵巻」、躍動感をユーモラスな「三社祭」、芸者と舞妓が移り行く情景を楽しく「新一つとや」、降りしきる雪の廊を舞台に美しさと辛さ「雪傾城」、初春の気分豊かに五人立の「梅の栄」、前半の女振りと後半の長刀を振るう強さ「八島官女」、傾城桜山との仲を裂かれ狂い妄執に舞う「二人枕久」、船



▶日舞

にちなむ景色を「風流船揃」、信用の森の狐の化身「葛の葉道行」、莊重さと華やかさを備えた御祝儀曲の名曲「梅の春」、祭りに娘が五つの面を使い分けながら「神楽娘」、水中に住み酒を好む中国の伝説上の「狸々」、白、紫、紅の牡丹の様々な表情の「牡丹がさね」、東海道五十三次を旅する四人立の「旅」、太夫と才三の江戸と浪花の名所比べ「柱立萬歳」、江戸の風物を雨の情景に溶け込ませ詩情豊かに「雨の四季」、最後に特別出演五世井上八千代師の地唄「八島」が上演されました。例年にもまして各流充実した舞台で千八百余人にお客様は最後まで席を立たれる事もなく熱心にご覧いただき盛会のうちに幕を閉じました。今後とも日本舞踊を身近なものとして浸透させ、発展してゆけるよう力を合わせて参りたいと思っております。

（若柳 衣江）

演芸

民謡

岩手民謡まつり

平成二十七年十一月八日(日) 十一時開演

岩手県民会館大ホール

第1部 岩手芸術選奨対象部門

民謡風土記「牛方旅情」

- 牛方節 橋場昭喜治
- 南部牛追唄 中屋敷 晃
- 古調そんでこ節（素唄） 藤岡 祐衣
- そんでこ節 松内とり子
- 古調外山節（素唄） 井上 成美
- からめ節 二代目 吉田やす子
- 沢内甚句 川村 治穂
- 鹿角牛方節 川村 治穂

第2部 民謡民舞大賞決定戦

- 1 唄 北上川舟唄 作山 幸三
- 2 唄 南部木挽唄 玉川 光雄
- 3 唄 沢内甚句 鎌田千恵子
- 4 唄 南部酒屋流し唄 藤原 善美

第3部 紅葉織りなす民の唄

- OP 踊 花笠音頭 平原会社中 唄/中田 桂敏
- 2 唄 南部木挽唄 米澤 吉次
- 3 唄 チヤグチヤグ馬っこ 清水優花
- 4 唄 南部牛追唄 井上 正明
- 5 唄 そんでこ節 石垣 正雄
- 6 踊 ひでこ節 岩手もりおか会 唄/三上 紀子
- 7 唄 秋田酒屋配唄 田中 令子

新舞踊 新舞踊発表会 平成二十八年二月二十一日(日)

十時半開演
さくらホール(北上市)

白百合の里に舞う Part3

司会 伊藤 妙子

オープニング

南部俵積み唄
やよい舞姿
鬼剣舞

一	喜代節	北上支部	幸の会	15名	二三	無法松の一生	花巻支部	有扇会	5名
二	還暦祝い唄	北上支部	やよい会	3名	二四	凛として	釜石支部	満月会	10名
三	寿松竹梅	花巻支部	とし美会	3名	二五	人生みちづれ	花巻支部	とし美会	10名
四	相生の舞	北上支部	やよい会	7名	二六	古城	北上支部	幸の会	5名
五	みちのく節	北上支部	幸の会	1名	二七	お岩木山	北上支部	やよい会	8名
六	流れて津軽	花巻支部	裕康会	5名	二八	子午線の町	釜石支部	野の花会	7名
七	高尾山	花巻支部	有扇会	6名	二九	高瀬舟	花巻支部	崇扇会	5名
八	おりよう	北上支部	幸の会	1名	三〇	龍虎の舞	北上支部	幸の会	1名
九	ふる里の春	北上支部	やよい会	10名	三一	外山節	花巻支部	裕康会	7名
一〇	津軽タント節	花巻支部	洋子社中	6名	三二	キャラホー慕情	北上支部	やよい会	3名
一一	片瀬船	北上支部	幸の会	5名	三三	桜の花の散急(とく)	北上支部	幸の会	2名
一二	天城越え	釜石支部	満月会	8名	三四	あやめ雨情	北上支部	やよい会	3名

三五	梅川忠兵衛	釜石支部	藤舞会	2名
三六	旅鴉義侠伝	釜石支部	満月会	5名
三七	郡山餅つき唄	花巻支部	裕康会	7名
三八	輝く未来	北上支部	やよい会	会主
三九	花は咲く	北上支部	幸の会	5名
四〇	峠越え	花巻支部	泉会	7名
四一	はぐれコキリコ	花巻支部	藤洗会	4名
四二	さんさ時雨	北上支部	やよい会	2名
四三	ソーラン祭り唄	北上支部	幸の会	会主
四四	チャンキ恋唄	花巻支部	春陽会	9名
四五	あんなの花道(唄付)	北上支部	やよい会	7名
四六	津軽恋女	花巻支部	邦扇会	3名
四七	さんさ里うた	北上支部	幸の会	8名
四八	浪花川	北上支部	やよい会	4名
四九	独楽	花巻支部	有扇会	4名
五〇	峠越え	花巻支部	とし美会	5名
五一	安里屋ユンタ	北上支部	やよい会	15名
五二	幸藤サンバ	北上支部	幸の会	16名

フィナーレ

北上おでんせ

やよい会・幸の会

《講評》 第68回岩手芸術祭舞台等演芸部門「未来へ紡ぐ
いわての芸術 きつとつながる ずっときらめく」は 第
17回岩手県新舞踊協会芸術祭舞踊発表会「白百合の里に舞
う」Part3のタイトルで平成28年2月21日(日)北上市文化交
流センター「さくらホール」にて盛大に開催された。
今発表会は、本来であれば27年内に実施予定であった
が、会場等の都合で越年開催と
なった。

花北地方の2月は一年中で最
も降雪量の多い時季でもあり天
候が気がかりであったが、今年
は暖冬のお陰で道路には雪もな
く、朝の雨模様も時間が経つと
ともに来場者にはあまり支障が
ないような天気となり、会場に
は9時45分の開場を待たずに既
に長い行列ができるほどの様子
に心安心。

午前10時30分定刻通り開幕、
オープニングは開催地教室によ
る南部俵積み唄・やよい舞姿・
鬼剣舞で幕が開き、その後全52



▶新舞踊

曲を発表し、フィナーレは開催地やよい会・幸の会により「北上おでんせ」で幕となった。この間、来場者の大きな声援や拍手に励まされ、出演者一同には、大変有意義な発表会であった。

今回の発表会で特に感じたことは、中高年の方々が圧倒的に多いことは何時もの通りであるが、その中に意外と男性客も多く見受けられたことであった。

また、お客様は自分の知っている歌とか、好きな曲の時であろうか、自然とリズムをとりながら見ている方々が結構おられたように見受けられた。

近年、なんとなく殺伐とした世相であると言われる中、やはり日本人の心を捉えるのは何と言っても演歌、新舞踊であると、つくづく感じた次第である。

私たちは今後も、このことを大事にしながら日本文化の良さを継承していくため、更に精進を重ねていかねばと、つくづく感じられた日であった。

(事務局 鈴木 記)

県民文芸作品集

県民文芸作品集は、県民の文芸活動の振興を目的として、県民から広く文芸作品を公募し、その中の優秀作品を掲載し刊行しているものであり、今回は四十六集となる。

会議等の運営

五月十四日 文芸部門第一回実行委員会

(公募要項の決定等)

七月一日～八月三十一日 作品募集期間

九月一日～三十日 作品選考期間

(種目毎に審査会開催)

十月八日 県民文芸作品集選考結果発表

(入賞・入選者への通知、ホームページ上の公表、マスコミ報道解禁)

二月十七日 文芸部門第二回実行委員会

(文芸部門の運営状況の報告、次回の公募要項の決定等)

応募状況

小説、戯曲・シナリオ、文芸評論、随筆、児童文学、詩、短歌、俳句、川柳の九種目の作品を公募した。応募点数は四九六点であった。

作品審査

種目ごとに審査を行い芸術祭賞、優秀賞、奨励賞及び入選を決定。事務局では結果をとりまとめ、十月八日に入賞・入選者へ通知するとともに、岩手県文化振興事業団のホームページ上で公表した。また、十月八日に岩手日報、十月十一日には盛岡タイムス紙面に記事が掲載された。

表彰

芸術祭賞、優秀賞及び奨励賞受賞者三十一名の表彰式を十二月十二日に行った。(会場・サンセール盛岡)

刊行

受賞作品等を掲載した県民文芸作品集を十二月十二日に刊行した。



【受賞作品・作者及び選者】

種目	賞名	受賞作／作者	選者
小説	優秀賞 奨励賞	黄昏の散歩道／汐見 遙 グロツケンノ妖怪／小林重衣	柏葉 幸子 斎藤 純
戯曲・シナリオ	奨励賞	ラジオドラマ「ある夏の日の出来事」／長沢周子 赤い糸／広野岳史	昆 明男 中村 好子
文芸評論	優秀賞	文学と美術のあいだで、三つの美術館を巡る断想／赤崎 学 〔織物〕としての啄木日記―明治四十七未歳日誌の函館大火のエクリチュールを中心―／村松 善 〔夢導ナカノ〕との例／鈴木 守	望月 善次 牛崎 敏哉
随筆	奨励賞 優秀賞 芸術祭賞	丘に眠る牛／遠藤カオル 星の流れない夜／佐々木もなみ 母と椿油／鈴木正子 マグロ船／佐々木道長	須藤 宏明 野中 康行
児童文学	奨励賞 優秀賞 芸術祭賞	僕は漁師の子／佐々木道長 strawberry mail／藍沢 篠 草原のリフォーム屋さん／加藤典夫	高橋 昭 藤原 成子 齋藤 英明

文芸祭

小説大会

十一月一日(日)

岩手県民会館会議室・参加者十名

▽講師

柏葉幸子（作家・県明文芸作品集選者）

《講評》 今年度の小説大会は、岩手県民会館第4会議室を会場に、県明文芸作品集の応募者や一般の方々の参加を得て開催された。

小説大会は、県明文芸作品集の選者が講師を務め、応募作品の選評を主な内容としている。

最初に、講師から応募作品全般の傾向について触れていただいた。その中で、応募作品には、いわゆる私小説が多いとの指摘があった。自分の体験したことを書く私小説は文章にしやすい反面、読む側からすれば次の展開がわかっってしまうので、おもしろみに欠ける。よほどの筆力がなければ読者がついてこないことなどをお話いただいた。

また、応募書式の原稿用紙30枚というボリュームは短編の部類に入る。この限られた枚数で起承転結を全て盛り込もうとすると筋を追うだけになってしまうので、この場合

種目	賞名	受賞作／作者	選者
詩	芸術祭賞 優秀賞 奨励賞	ねこかぶり／佐々木もなみ 八月／中館公一 朝日に向けて／菊池ヤヨヒ 今はむかし／角田陽子	松崎みき子 上斗米隆夫 山下 正彦
短歌	芸術祭賞 優秀賞 奨励賞	母の手／羽藤 堯 みどり児／菊池悦子 日だまり／木下知子 隠国（こもりく）／山内義廣	柏崎 曉二 外館 克久 藤井 永裕 三田 信一
俳句	芸術祭賞 優秀賞 奨励賞	鬮牛／和城弘志 海施餓鬼／千葉任子 春の星／木関偕楽 天高し／岡崎郁子	小畑 柚流 小濱 白藤 伊藤 紫水 名久井 清流 橋本 韶子 小野寺 東子
川柳	芸術祭賞 優秀賞 奨励賞	雑詠／小田島花浪 雑詠／赤頓姥 雑詠／澤田文朋 雑詠／はざまみずき	宇部 功 塩釜 アツシ 佐藤 岳俊

は切り口に工夫をすると良いことなど、アドバイスをいただいた。
今回選考に残った作品は、その切り口がはっきりした作品であった。
何を書きたいのか散漫な文章は、読者にストレートに響かないし、受賞にも結びつかない。先に述べた自分なりの「切り口」を持ち味を出し、独自のスタイルを確立し、発信することを心がけたい。

個々の選評については、本人から作成意図を紹介していただきながら進めた。それぞれが「切り口」のヒントを見出したようであった。
書く楽しさに満足するのではなく、読者にいかに読ませるかを意識して書くことがステップアップの鍵となるだろう。

今回の参加者アンケートでは「参加者を増やして盛り上げてほしい」との声をいただいた。県内にどれだ



▶小説大会

け愛好者がいるのか把握できていないが、小説作品を発表する機会はそれほど多くないので、岩手芸術祭の作品公募や文芸祭などを活用していただきたいと思う。

(実行委員会事務局 鈴木宣子)

戯曲大会

平成二十八年一月十六日(土)
盛岡劇場タウンホール・参加者十五名

▽運営委員

昆 明男・倉持裕幸・高村明彦

《講評》 第68回岩手芸術祭戯曲大会は、戯曲と俳優のためのワークシヨップとして「カタヨセヒロシの即興で始める芝居づくり」を行った。

カタヨセ氏は、福島県いわき市出身。現在関東を中心に即興芝居で活躍するユニット「Gaim(ロクデイム)」の共同主催で、俳優、そしてダンサーである。

戯曲を構成する要素である台詞を執筆という形ではなく、即興で作成し、その場で生き生きと表現する作品を各地で上演している。その「即興」で芝居を立ち上げる手順を体験してみようというのが今回の趣旨である。

◀ 戯曲大会



まず、会場内にあるいろいろなものに触れ、その感触を確かめ、感じるところから始まり、次に、参加者同士が触れあう。徐々に相手に体重を預けるような形で、まるで人という文字のように背中合わせになる。さらに、自分の体重がどこにかかっているのかを意識させ、重力に対する感覚を目覚めさせた。

この作業は、それぞれ参加者同士が、お互いを感じ、関係を構築するのに役立った。初対面の参加者も多かったが、この一連のエクササイズによって、急速に緊張が解け、和やかなワークシヨップとなった。

その後は、実践的な即興演劇のワークシヨップとなった。椅子に座っている一人の人物。あくまでフラットに存在してもらい、相手役は、振り返って椅子の人を見る。そこで感じたシチュエーションを座っている人が、その設定を理解できる言葉で話しかけ、即興が始まるのである。

その際注意すべき点は、座っている人が理解できなかった場合は、相手役の言葉を無視していい、ということ。また、自分の思い描いたとおりにならない相手の反応もそのまま受け入れ、言葉を返してゆく。

小グループに分かれてそれぞれのチームが演じていたが、椅子に座っている人に話しかける、という設定は同じにも関わらず、かなりバラエティーに富んだ即興演劇ができた。

未だ日本でも端緒についたばかりの即興を今回初めて取り入れたが、実に実りのあるものになった。

(倉持裕幸)

文芸評論大会

十月十一日(日)
岩手大学農学部二号会議室・参加者十九名

▽運営委員

望月善次・牛崎敏哉

《講評》 おかげさまで岩手芸術祭文芸祭「文芸評論の部」は、今回で第十回目を迎えることができた。岩手大学農学部第一会議室を会場に、十月十一日(日)午後一時から開催さ

れ、参加者も十九名と、わずかではあるもののこれまでの最高となり、継続することの大切さを改めて確認することができた。

はじめに『県民文芸作品集』文芸評論選者であり、本文芸祭実行委員である望月善次より開会挨拶と、「啄木研究の現状」国際啄木学会・シドニー大会を中心として」と題してミニ講演があり、続いて同じく選者・牛崎敏哉「宮沢賢治研究の現状」のミニ講演があった。

次は『県民文芸作品集』文芸評論部門入賞者の研究発表で、まず鈴木守氏が「『涙ヲ流サナカッタ』ことの悔い」と題して宮沢賢治について、続いて村松善氏が「啄木日記をめぐって」、最後は赤崎学氏「文学と美術のあいだで・三つの美術館を巡る断想」が発表された。

最後は記念講演として、宮沢賢治記念館の席主任(学芸員)である宮澤明裕氏より、「宮沢賢治記念館り



▶ 文芸評論大会

ニユーアルのことなど」という演題にて、貴重な所蔵資料持参により、講演していただいた。各々の発表後のわずかな時間ではあったが、活発な質疑応答が展開された。

全体は予定通り午後五時前に終了、続いて会場を移して、希望者九名による懇親会が開かれた。引き続き佐伯研二氏による「人首文庫」資料の解説もあり、有意義な会となった。次回は更なる参加者を目指したい。

(牛崎敏哉)

随筆大会

十月三十一日(土)
日本現代詩歌文学館・参加者二十三名

▽講師

須藤宏明(県民文芸作品集選者)
野中康行(県民文芸作品集選者)

《講評》 今年度の随筆大会は、北上市にある日本現代詩歌文学館の会議室を会場に開催された。

随筆大会は盛岡と盛岡以外の地区を隔年で開催することとしており、昨年は盛岡市、一昨年は宮古市での開催であった。日本現代詩歌文学館は現代詩歌専門の総合文学館

として企画展示や資料収集などを行っている国内唯一の施設である。図書館機能も備えており、その充実した蔵書には大いに好奇心をかき立てられた。

講師は県民文芸作品集の選者である盛岡大学文学部教授の須藤宏明先生と、岩手日報随筆賞の受賞経験のある野中康行先生のお二人にお願いしている。

大会は、最初に講師のふたりから総評をお聞きして、その後は個々の作品について具体的な選評をいただいた。後半は参加者の意見交換を行った。

限られた時間の中で選評はせいぜい一人5分程度である。参加者は増やしたいが、増えれば、一人にかけられる時間が少なくなってしまう。2回に分けて開催したら、という立ち話が現実味を帯びてきた。

話題を共有できるよう、参加者の作品を資料として、事前に送付するやりかたも定着してきて、ほとんどの



▶随筆大会

方が良く読んでくださっている。また、新聞等への投稿欄で大会参加者の名前を見ることが多く、芸術祭への参加を足掛かりに、更に発表の場を広げていってもらいたい。人の心を動かす作品を書くためには、「書く」経験を積むことが大事であるが、同時に質の良い作品を「読む」ことも大切である。そういう意味でも、この大会で様々な作品に触れていただくことは有意義である。今後、なるべく多くの方が参加できるように、工夫していきたい。

(実行委員会事務局 鈴木宣子)

児童文学大会

十一月八日(日)
プラザおでつて・参加者二十八名

▽運営委員

高橋 昭 加藤典夫 千葉留里子

《講評》

児童文学大会は盛岡市のプラザおでつてを会場に一般の方々、「県民文芸作品集」の応募者、今年度四十年を迎えた岩手児童文学の会会員の参加を得て行われた。

○「県民文芸作品集」の応募作品についての選評と合評

選者の高橋昭氏より芸術祭賞を受けた川村節子さんの作品をはじめ入賞・入選九作品の選評、「読者を頭に置き、書くことが大切である」等との全体講評が述べられた。その後、応募作品の中から合評希望のあった次の二作品について、参加者より感想や意見が活発に出された。

「草原のリフォーム屋さん」加藤典夫(奨励賞)

「それでも猫は幸せと思う」細野美緒(佳作)

○講演「子育てと児童文学」本堂裕美子氏
本堂氏の講演では、自らの子育ての経験と児童文学との深い関わりをテーマとし、興味深い内容だった。特に、同じように絵本の読み聞かせを行って育てた姉弟でも、上の二人は本好きになり、末の子は本ではなく、マンガに興味を持ったというエピソードは、聴衆にとっても共感しながら聞くことができたのではないだろうか。本堂氏はマンガ好きを肯定的にとらえ、一緒に読むことで子どもと向き合い、子どもへの理解を深めていったという。子どもの個性を



▶児童文学大会

尊重し、伸ばす意味でも貴重な提言であった。

○講演と創作物語の朗読「奇跡の一本松」やえがしこうぞう氏、朗読 荒田正信氏

やえがし氏の講演では、大震災後に「奇跡の一本松」という物語を書いた経緯やシベリウスが作曲した「交響詩フィンランディア」について話された後、物語が荒田氏によって情感豊かに朗読された。

震災で仲間を失い、ひとりぼっちになった松ノ木が風やお月さまの励ましを受け、自分が一人でないこと、そして自分を見て生きる希望を持つ人たちがいることに気づき、力強く歩もうとする感動的な物語である。

朗読後に、「交響詩フィンランディア」の終曲を聞きながら三・一一のことを思い浮かべてほしいとやえがし氏の促しがあった。その力強い旋律には、「復興に向けて立ち上がっていこう」というやえがし氏の思いが感じられた。

(千葉留里子)

詩の大会

十月十八日(日)

花巻市定住交流センター二階
第一会議室・参加者十二名

化財を言語化し得た作品であり、圧倒的な臨場感で読み手をとらえる迫力がある。

佳作「去りゆく夏」(藤野なほ子) 少年期の夏休みは誰にも忘れ難い思い出と共にある。もうそれは、ここにはないのだが、折々に現前する。豊かで、しみじみとした作品である。

佳作「つばめの詩」(千葉祐子) 作者の鋭い感性が滲む。「あの日のつばめの詩を探しに行かないか」が共感を伴って読者の胸に響く。佳作「余生」(今野清人) 辿ってきた辛い過去を受容と受け入れ、これから進む道を見つめる目に強い覚悟と、澄んだ優しさが滲む。

佳作「春花の折り」(兒玉智江) 作者とアッパは異なる思いがあった。終行に亡き人への思いが凝縮。人物の対比に少し工夫がほしい。

佳作「穴」(北原陽子) 理知的な観念の世界(現実の比



◀詩の大会

▽選者

松崎みき子・上斗米隆夫・山下正彦

▽運営委員

東野 正・かしわばらくみこ・伊藤諒子

《講評》

文芸祭賞「金の卵」(照井良平) かつて、わが国の高度成長を支える若者達を都会に送り出した駅、そこで見送った母たちが抱いた不安は、数十年の時を経て難民とまで呼ばれる今日の状況に至ったことへの痛烈な批判。故郷の人々の切ない思いが鮮烈。

優秀賞「物音」(我妻 薫) 作者によって紡ぎ出される世界は、作者だけのイメージとして停留してしまいがちだが、この世界では個性的な心象を、読者とも共有出来る表現で提示され完成度が高い。

奨励賞「昆虫記」(佐藤岳俊) 三種の昆虫をそれぞれ一編の作品としながら、童謡のような優しい言葉で親しみ安く表現し、反復によるリズム感によって作品に引き込まれる。三編とも、終連にそれぞれ老人の死がさりげなく提示され、読み手はそこで、「はっ」と我に返ることになる。対比表現が絶妙。

奨励賞「夜の鬼剣舞群舞」(齋藤駿一郎) 題材が既に読み手を惹きつけ、情景が強い憧れを誘う。郷土の貴重な文

喻世界)を個性的に描いている。「落ちる」が示す世界や、後段の「のぼる」への転換の契機がやや安易では？

佳作「雲を追い」(ルディア・ひろこ) 雲は単に気象現象としても、見る者の心的表象としても常に傍らにある。雲に仮託された、折々の情景が多様で、豊かな人間性を感じる。やや羅列的な点が惜しまれる。

第一回岩手県詩人クラブ新人賞「飛行機雲」(小田島周子) 孫たちとの飛行機雲を見ながらの様子が飾らない言葉で温かく表出されている。やや観念的な部分が気になる。

多くの作品に触れ、学ぶことが多かった。詩もまた、技術ではなく感動だと強く思う。

(上斗米隆夫)

短歌大会

十月十日(土)

盛岡市勤労福祉会館(盛岡市)・
出詠者百一名・参加者八十七名

▽選

者 赤澤 篤司・伊藤 幸子・鈴木八重子・
鷹崎真智子・八重 嶋勲

▽運営委員

赤澤 篤司・外館 克裕・山本 豊

《講評》

文芸祭賞

吹く風にさやく稲穂のなかに立ちたゆたふごとし裊抜
くわれは 伊藤淑子（北上市）

折から吹いてくる風に稲穂が揺れている田んぼ中で、作
者は除草作業をしている。揺れている稲穂の中にいて、ま
るで自分が揺蕩っているように感じている。これは作者の
実感であるが、歌会参加者の多くが共感した。高点歌の順
位でも一位であることが、それを証明している。

優秀賞

家流れ草繁りたる原の果て夕日に光る海が見えをり

中村とき（山田町）

東日本大震災によって発生した、大津波による被害の復
興は思ったようには進まない。今でも遮る家々もなく、草
が繁り原となった向こうには、夕日に光る美しい海が見え
る。作者は風景を描写しているだけであるが、歌は静かに
語りかけてくる。高点歌の順位も四位である。

奨励賞

世界地図ひろげし床を幼子は這ひ這ひしてアメリカ
に行く 折居路子（盛岡市）

この歌は詠草集の中でも輝いていた。広げた地図の上の
幼子を、作者独自の視点で切り取り、新鮮に詠い上げた。

また、素材の扱い方について示唆に富んでいる。高点歌の
順位も六位であり、歌会参加者納得の一首である。

選者賞

赤澤篤司選

手話交わす二人のおみな夕映えの路上にありて笑顔が
やく 森田 隆（宮古市）

伊藤幸子選

夏休みなれば蝶々を連れて来る二年二組の生きものの係
は 三船武子（久慈市）

鈴木八重子選

刈り取りの間近き稲田いま暫し荒ぶる風の無きを祈り
ぬ 菊池トキ子（奥州市）

鷹鷲真智子選

再興のふるさとへ直に向ふ道数多の橋を越えてゆくな
り 田澤和子（盛岡市）

八重嶋勲選

ふたたびは歩みかなわぬ夫の足の爪切りやれば固き音
たつ 古館幸子（宮古市）

短歌部門の出詠者は、年月を経るほどに右肩下がりに
なって減ってゆく。新規の参加者がなければそうならざる
を得ない。しかし、その速度を緩めることはできる。短歌
作者には健康で長命を保ち、詠みつづけていただきたい。

そして、高齢者の創る短歌に一つの新しいジャンルを拓い
て欲しいものである。

（赤澤篤司記）



▶短歌大会

俳句大会

十月十七日(土)

岩手県公会堂（盛岡市）・出席者七十九名

▽選

者 小畑 柚流・小菅 白藤・白濱 一羊・

伊藤 紫水・名久井清流・橋本 韶子・

小野寺東子

▽運営委員

北田 祥子・古川 公子・長谷川かよ子・

舞田 公子・山火 律子・佐々木昌子

《講評》

今年度の芸術祭
俳句大会は十月十七日、県
公会堂に於いて十時より開
催された。当日は県内各地
より七十九名の参加であつ
た。一人三句の投句（選者
は不可）で二百十六句。七
名の選者により熱心な審議
が続いた。その結果全員一
で三賞決定。その後各選者
より選者賞の発表がなされ
た。



▶俳句大会

「文芸祭賞」

マニキュアの指を翳してゐる花野

奥州市 中村セイ子

若さがあり新しい感覚で捉えている所が新鮮との評であつた。

「優秀賞」

草紅葉石ひとつ置く境界線 八幡平市 円子 涼子

都会では考えられない事で、石ひとつ置く境界線に大らかな響きを感じられた。草紅葉の季語も良かった。

「奨励賞」

鮭のぼる津波の海を生き抜いて 花巻市 畠山 濁水

津波のあつた海から無事生きて帰ってきた鮭の逞しさと、力強さを見事に表現しているとの評価がなされた。

何れも賞に相応しい俳句である。

その他、それぞれの選者より選者賞が授与された。

「小畑袖流選」

過疎止まぬ村に留まり稲架を組む 下館 幸男

「小菅白藤選」

鬮牛の傷にむらがる秋の蠅 内藤 照子

「白濱一羊選」

農協に尼の来てゐる野分あと 川村 哲夫

「伊藤紫水選」

されたが、ほぼ例年通りでホッとさせられた。

今年の試みとして、席題では一部印象吟を取り入れた。これは既に全国各地の大会や句会で行われているもので、例えば、絵を鑑賞したり、音楽を聴いたりして、イメージを広げ作句するものである。発想力を鍛えるのにはとてもいいのではないかと思つた。

例年通り、各選者が推す特選句七句を県川柳連盟役員が第二次選考に当たり、三賞を決定した。

文芸祭賞

洋野町 野口 一滴

土になる我も地球のひとつ欠片

自分も地球に生をうけたことに、今更ながら気付いたのである。命を頂いたことへの感謝が募る。

優秀賞

岩手町 馬淵 草

反骨の意地が踵に見え隠れ

歴史的にも風土的にも厳しい環境の中で生きて来た。踏んばらねばならぬ足に意地が見え隠れする。

奨励賞

紫波町 鷹齋 関雄

母のように笑えば澄んだ空になる

苦しくとも笑つていればと、母が教えてくれたのである。

長病みの母の髪梳く菊日和

久根崎久子

「名久井清流選」

挙げた手が吸ひ込まれゆく秋の空

工藤 好子

「橋本留子選」

紅白の餅飛んでくる在祭

古川 公子

「小野寺束子選」

父祖の地は家号で呼ばれ稲を刈る

津志田 武

(北田祥子)

川柳大会

十月二十六日(月)

いわて県民情報交流センター・

アイーナ五〇一号(盛岡市)・

参加者六十六名

▽選

者 富岡 敦子・佐藤 康・佐々木七草・

柳清水広作・佐藤 岳俊・熊谷 岳朗・

照井鈍太郎

《講評》

毎年、日曜日に開催している文芸祭川柳大会であるが、今年は、いつも利用している会場の都合により、異例の月曜日開催となつてしまった。参加者の減少が危惧であつた。

その他の特選句

表現の自由命を主張する

一関市 佐藤 康

底の底這つて再起の神と逢う

洋野町 野口 一滴

俯瞰図にはさんだままの父の夢

盛岡市 徳田ひろ子

戦争を語るジャカジャカなるギター

盛岡市 徳田ひろ子

常に新鮮でありたい、そんな思いをみんなが持った大会であつた。

(熊谷岳朗)



▶川柳大会

アートフェスタいわて2015

―岩手芸術祭受賞作品・推薦作家展―

岩手県立美術館と岩手芸術祭実行委員会共催事業岩手県立美術館企画展「アートフェスタ2015―岩手芸術祭受賞作品・推薦作家展―」は、平成二十八年二月二十七日(土)～三月二十七日(日)まで、岩手県立美術館で開催された。

この展覧会は岩手芸術祭に集う美術家たちの作品を広く県民に紹介する場として、平成十五年度から開催しており、今回十三年目を迎えた。

今年度は、岩手芸術祭美術展の受賞（芸術祭賞、優秀賞、奨励賞）作品に加え、日本画、洋画、版画、彫刻、工芸、書道、写真、デザイン、現代美術、水墨画の10部門それぞれから推薦された美術家たちの作品約100点を展示した。

会期中には部門別のギャラリートーク（作品解説会）が行われ、参加者が作品への理解を深めた、鑑賞者数は三三九人であった。

▽出品点数（芸術祭関係）

日本画 七点
洋画 十七点
版画 七点

彫刻 七点

工芸 九点

書道 十七点

写真 十二点

デザイン 七点

現代美術 六点

水墨画 十一點

合計 百点

▽部門別ギャラリートーク

二月二十七日(土) 版画・洋画

二月二十八日(日) 書道・水墨画

三月 五日(土) 現代美術・デザイン・写真

三月 六日(日) 工芸・彫刻・日本画

▽企画・運営委員

西川善有（日本画）・石川西三（洋画）・鈴木和雄（版画）・清武英司（彫刻）・阿部裕之（工芸）・吉田晨風（書道）・菊池克美（写真）・竹村育貴（デザイン）・小笠原卓雄（現代美術）・鈴木孝男（水墨画）・加藤俊明・根本亮子（以上美術館）

テーマ募集

第六十八回岩手芸術祭を開催するに当たり、芸術文化の創造と発展をイメージさせ、また震災からの復興を応援し芸術祭を盛り上げるテーマを懸賞募集した。

風張沙樹さん（盛岡市）

○佳作「見上げれば 億千の星 岩手の文化」

「文化がつなく 復興岩手の 未来地図」 佐藤ひよりさん（北上市）

「咲かせよう 岩手の文化と 復興の花」 加藤美津男さん（一関市）

「復興と 未来を担う 岩手の文化」 佐藤 暢さん（奥州市）

「復興と 未来を担う 岩手の文化」 有原すみれさん（花巻市）

一 応募期間

平成二十七年四月～五月三十一日

二 応募総数

二七八点（九一人）

三 選定方法

六月二十三日に選定委員会を開催し、選定を行った。

〔委員〕鈴木 宗基（実行委員会副会長・茶道）

太田 信子（美術部門実行委員長・写真）

小濱 和子（合唱）

須藤 功（新舞踊）

千葉留里子（児童文学）

山本 豊（短歌）

四 選定結果

◎優秀作【岩手芸術祭テーマ】

「未来に紡ぐ いわての芸術

きみ 未来に紡ぐ いわての芸術

実行委員会名簿

【実行委員会】

会長 柴田和子
副会長 鈴木宗基
監事 竹村育貴

千田尚順
立野呈山

区分		委員名		所属	
音楽	安倍一洋	立野呈山	菊池昭子	山口剛	猿子滋苑
	鈴木宗基	坂田裕一	竹村育貴	太田信子	鈴木孝男
伝統芸能	坂田裕一	竹村育貴	太田信子	鈴木孝男	柴田和子
	菅野洋樹	岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課総括課長 岩手県文化振興事業団 理事長	岩手県芸術文化協会会長	岩手県芸術文化協会副会長	岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課総括課長 岩手県文化振興事業団 理事長
演劇	坂田裕一	竹村育貴	太田信子	鈴木孝男	柴田和子
	菅野洋樹	岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課総括課長 岩手県文化振興事業団 理事長	岩手県芸術文化協会会長	岩手県芸術文化協会副会長	岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課総括課長 岩手県文化振興事業団 理事長
美術	坂田裕一	竹村育貴	太田信子	鈴木孝男	柴田和子
	菅野洋樹	岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課総括課長 岩手県文化振興事業団 理事長	岩手県芸術文化協会会長	岩手県芸術文化協会副会長	岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課総括課長 岩手県文化振興事業団 理事長
主催者	坂田裕一	竹村育貴	太田信子	鈴木孝男	柴田和子
	菅野洋樹	岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課総括課長 岩手県文化振興事業団 理事長	岩手県芸術文化協会会長	岩手県芸術文化協会副会長	岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課総括課長 岩手県文化振興事業団 理事長

【舞台等部門実行委員会】

部門		委員名		所属	
演劇(映像)	坂田裕一	澤田綾香	長内努	菊池昭二	佐野剛章
	福士幸雄	室岡提子	鈴木宗基	平野宗薫	猿子慈苑
邦楽	福士幸雄	室岡提子	鈴木宗基	平野宗薫	猿子慈苑
	猿子慈苑	小原宏華	三澤岳欣	村上岳星	山田靖了
華道	猿子慈苑	小原宏華	三澤岳欣	村上岳星	山田靖了
	三澤岳欣	村上岳星	山田靖了	小濱和子	山口剛
吟詠剣	三澤岳欣	村上岳星	山田靖了	小濱和子	山口剛
	村上岳星	山田靖了	小濱和子	山口剛	丸岡千奈美
詩舞道	村上岳星	山田靖了	小濱和子	山口剛	丸岡千奈美
	山田靖了	小濱和子	山口剛	丸岡千奈美	
音楽	丸岡千奈美				
部門		委員名		所属	
弦楽	菊池昭子	増田真紀子	伊藤衡山	立野呈山	安倍一洋
	安倍一洋	立野呈山	伊藤衡山	立野呈山	安倍一洋
三曲	安倍一洋	立野呈山	伊藤衡山	立野呈山	安倍一洋
	立野呈山	伊藤衡山	伊藤衡山	立野呈山	安倍一洋
吹奏楽	立野呈山	伊藤衡山	伊藤衡山	立野呈山	安倍一洋
	伊藤衡山	伊藤衡山	伊藤衡山	立野呈山	安倍一洋
ピアノ	伊藤衡山	伊藤衡山	伊藤衡山	立野呈山	安倍一洋
	伊藤衡山	伊藤衡山	伊藤衡山	立野呈山	安倍一洋
ギター	伊藤衡山	伊藤衡山	伊藤衡山	立野呈山	安倍一洋
	伊藤衡山	伊藤衡山	伊藤衡山	立野呈山	安倍一洋
踊	伊藤衡山	伊藤衡山	伊藤衡山	立野呈山	安倍一洋
	伊藤衡山	伊藤衡山	伊藤衡山	立野呈山	安倍一洋
舞	伊藤衡山	伊藤衡山	伊藤衡山	立野呈山	安倍一洋
	伊藤衡山	伊藤衡山	伊藤衡山	立野呈山	安倍一洋
民謡	伊藤衡山	伊藤衡山	伊藤衡山	立野呈山	安倍一洋
	伊藤衡山	伊藤衡山	伊藤衡山	立野呈山	安倍一洋
新舞踊	伊藤衡山	伊藤衡山	伊藤衡山	立野呈山	安倍一洋
	伊藤衡山	伊藤衡山	伊藤衡山	立野呈山	安倍一洋

【美術部門実行委員会】

部門		委員名		部門		委員名	
舞踊	柴内啓子	水木歌優	須藤功	倉持裕幸	北田祥子	加藤均	菊池一政
	須藤功	倉持裕幸	北田祥子	加藤均	菊池一政	千田尚順	大船渡市芸術文化協会
演芸	須藤功	倉持裕幸	北田祥子	加藤均	菊池一政	千田尚順	大船渡市芸術文化協会
	倉持裕幸	北田祥子	加藤均	菊池一政	千田尚順	大船渡市芸術文化協会	
文芸	倉持裕幸	北田祥子	加藤均	菊池一政	千田尚順	大船渡市芸術文化協会	
	北田祥子	加藤均	菊池一政	千田尚順	大船渡市芸術文化協会		
小・中美術展	北田祥子	加藤均	菊池一政	千田尚順	大船渡市芸術文化協会		
	加藤均	菊池一政	千田尚順	大船渡市芸術文化協会			
地域	加藤均	菊池一政	千田尚順	大船渡市芸術文化協会			
	菊池一政	千田尚順	大船渡市芸術文化協会				
日本画	西川善有	片山道子	石川西三	日下信介	日山登啓	鈴木和雄	清武英司
	日下信介	日山登啓	鈴木和雄	清武英司	曾根達也	阿部裕之	佐々木秀次
洋画	日下信介	日山登啓	鈴木和雄	清武英司	曾根達也	阿部裕之	佐々木秀次
	曾根達也	阿部裕之	佐々木秀次				
版画	曾根達也	阿部裕之	佐々木秀次				
	阿部裕之	佐々木秀次					
彫刻	阿部裕之	佐々木秀次					
	佐々木秀次						
工芸	佐々木秀次						
部門		委員名		部門		委員名	
書道	佐藤平泉	佐々木飛鴻	太田信子	菊池克美	井上美知子	竹村育貴	小笠原卓雄
	太田信子	菊池克美	井上美知子	竹村育貴	小笠原卓雄	浅倉伸	鈴木孝男
写真	太田信子	菊池克美	井上美知子	竹村育貴	小笠原卓雄	浅倉伸	鈴木孝男
	井上美知子	竹村育貴	小笠原卓雄	浅倉伸	鈴木孝男	北村義美	
デザイン	井上美知子	竹村育貴	小笠原卓雄	浅倉伸	鈴木孝男	北村義美	
	竹村育貴	小笠原卓雄	浅倉伸	鈴木孝男	北村義美		
現代美術	竹村育貴	小笠原卓雄	浅倉伸	鈴木孝男	北村義美		
	小笠原卓雄	浅倉伸	鈴木孝男	北村義美			
水墨画	小笠原卓雄	浅倉伸	鈴木孝男	北村義美			
	浅倉伸	鈴木孝男	北村義美				

【文芸部門実行委員会】

部門		委員名		部門		委員名	
戯曲・シナリオ	昆明男	倉持裕幸	望月善次	牛崎敏哉	野中康行	高橋昭	加藤典夫
	倉持裕幸	望月善次	牛崎敏哉	野中康行	高橋昭	加藤典夫	千葉留里子
文芸評論	望月善次	牛崎敏哉	野中康行	高橋昭	加藤典夫	千葉留里子	東野正
	野中康行	高橋昭	加藤典夫	千葉留里子	東野正	伊藤諒子	かしわばらくみこ
随筆	野中康行	高橋昭	加藤典夫	千葉留里子	東野正	伊藤諒子	かしわばらくみこ
	高橋昭	加藤典夫	千葉留里子	東野正	伊藤諒子	かしわばらくみこ	
児童文学	高橋昭	加藤典夫	千葉留里子	東野正	伊藤諒子	かしわばらくみこ	
	加藤典夫	千葉留里子	東野正	伊藤諒子	かしわばらくみこ		
詩	加藤典夫	千葉留里子	東野正	伊藤諒子	かしわばらくみこ		
	千葉留里子	東野正	伊藤諒子	かしわばらくみこ			

◇実行委員会事務局

事務局長 佐々木一成 (県文化振興事業団事務局長)

事務局次長 阿部富美雄 (県芸術文化協会事務局長)

花坂 正彦

(県文化振興事業団総務部総務課長)

事務局員 竹原久美子 (県教委事務局生涯学習文化課)

千葉 達也・中島 賢一・鈴木 宣子

(県文化振興事業団総務部)

岩崎 桂子 (県芸術文化協会)

第68回岩手芸術祭実行委員会 収支予算書（最終予算）

1 収入の部

（単位：千円）

科 目	予算額	主 な 内 容
負担金	10,830	主催団体、巡回美術展開催市町
入場料	1,005	美術展入場料
諸収入	321	広告料、預金利子
繰越金	1,068	第67回会計より
計	13,224	

2 支出の部

（単位：千円）

科 目	予算額	主 な 内 容
実行委員会	1,667	功労者表彰、新聞広告、印刷物製作
美術展	2,798	印刷物製作、会場使用料、部門負担金
巡回美術展	1,745	写真パネル製作、作品輸送、印刷物製作
小・中学校美術展	353	小中学校美術展協会負担金
巡回小・中学校美術展	31	〃
演劇	526	部門負担金
映像	149	賞金、部門負担金
伝統芸能	738	部門負担金
音楽	934	〃
舞踊	720	〃
演芸	362	〃
移動公演	369	〃
県民文芸作品集	1,022	選者謝金、賞金、作品集買上
文芸祭	374	部門負担金
予備費	1,436	
合計	13,224	

事務局日誌抄

〈四月〉

一日 テーマ作品募集開始（応募締切五月三十一日）

〈五月〉

十二日 美術部門第1回実行委員会

十三日 舞台等部门第1回実行委員会

十四日 文芸部門第1回実行委員会

二十六日 第1回実行委員会

【議題】第六十七回収支決算、テーマ募集、第六十八回開催要綱、実行委員会会則等、実施計画、収支予算、役員の選出についてほか

〈六月〉

三日 美術部門事務局員会議

二十三日 テーマ選定委員会（テーマ決定）

〈七月〉

一日 作品等の公募要項配布（美術展、県民文芸作品集、ビデオコンクール、声楽演奏会、ピアノ演奏会、小・中学校美術展）

二十三日 アートフェスタいわて2015第1回企画・運営委員会

〈八月〉

二十日 舞台等部门事務局員会議

二十一日 美術部門第2回実行委員会

〈九月〉

三日 第2回実行委員会

【議題】開幕式典の実施、感謝状贈呈候補者について

五日 美術展作品受付

六日 美術展作品審査（三賞決定）

〈十月〉

三日 開幕式典・功労者表彰

美術展開催

（四期に分けて展示。〓十月二十五日）

〈十一月〉

十四日 巡回美術展開催（六市町。〓十二月十三日）

二十一日 美術部門・映像部門表彰式・祝賀会

〈十二月〉

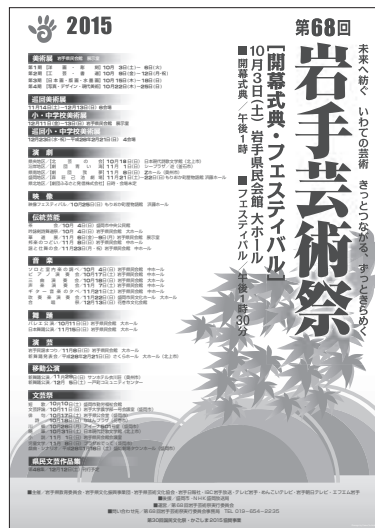
十一日 小・中学校美術展開催（〓十三日）

十二日 県民文芸作品集第四十六集刊行

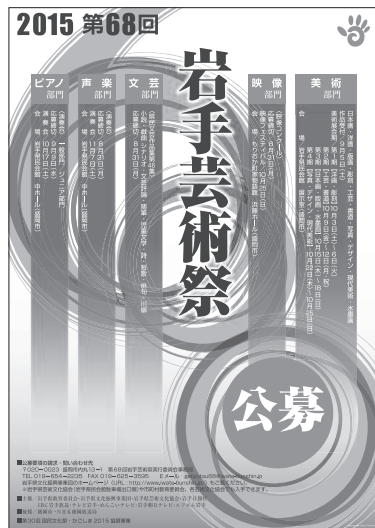
〃 表彰式・祝賀会

二十三日 巡回小・中学校美術展開催

（四市村。〓二月二十一日）



▲総合ポスターデザイン
吉田 康男



▲公募ポスターデザイン
吉田 康男



▲美術展ポスターデザイン
村野 充弘

- 〔一月〕
- 二十九日 アートフェスタいわて2015第2回企画・運営委員会
- 〔二月〕
- 十六日 美術部門第3回実行委員会
- 十七日 文芸部門第2回実行委員会
- 二十三日 舞台等部门第2回実行委員会
- 二十五日 第3回実行委員会
- 〔議題〕第六十八回岩手芸術祭の実施結果について、収支予算の補正について
- 〔三月〕
- 二十七日 アートフェスタいわて2015開幕
(三月二十七日)
- 二十二日 会計監査
- 〔四月〕
- 三十日 記録集刊行

小・中美術作品応募について

1 募集する作品

- (1) 種目 絵画、版画、デザイン（平面）とする。
- (2) 主題 自由
- (3) 画材 クレヨン、パス、水彩などいずれでもよい。
- (4) 用紙 原則として4つ切（36cm×54cm）とする。**台紙に貼り付けないこと。**

2 出品方法

- (1) **出品票・出品目録・出品者名簿**を指定の様式に従い出品校で作成し、必ず添付すること。（各様式は岩手県教育研究会図工・美術部会ホームページからダウンロードのこと）
- (2) 出品票は作品裏面右下に天地を正しくして糊付けすること。
- (3) 作品は丸めたり折ったりしないで応募すること。
- (4) 県内小中学校を通しての出品となるので、児童・生徒及び保護者から応募の申し出があった場合は、各学校にて対応すること。
- (5) 例年三千点を超える応募があり、スムーズな受付事務のためにも出品票・出品目録・出品者名簿の正確な記入・締切を厳守すること。
- (6) 入賞作品は、県教育長室への展示などのため、返却が翌年度になる場合がある。

小・中書写作品応募について

1 募集する作品

- (1) 種目
小学校1・2年は硬筆、3年以上は毛筆半紙（国産半紙判）とする。
中学校は毛筆半紙か条幅のいずれか一人一点とする。
- (2) 用紙
硬筆用紙は、岩手県書写書道研究会の書写コンクール硬筆用紙（B5判4ます×8ます：1ます2.5cm）とする。
毛筆半紙は国産半紙判、条幅は縦書きとする。
- (3) 課題

硬筆

小1年 わたしは、およぐことが好きです。つめたくてきもちがいいからです。

小2年 みどり色のみが、だんだん黄色くなって、さいごに赤くなりました。

毛筆

	半紙課題	条幅課題
小3	木	
小4	土 地	
小5	飛 行	
小6	友 情	
中7	栄 光	新たな決意
中2	雲 海	力強い前進
中3	目標の達成	遠大な理想

- (4) 小学校の書体はかい書、中学校の書体はかい書または行書とする。
- (5) 毛筆作品の氏名は墨書すること。（表装しない）
硬筆・毛筆とも、氏名をひらがなで書いた場合は欄外に漢字氏名を鉛筆で書くこと。学年は書かなくてもよい。
- (6) 作品の左上部に校名（〇〇立〇〇学校）を記すこと。（ゴム印可）
- (7) 規格に合わない作品は審査しない。

2 出品方法

- (1) **出品目録**（下記の通り）、**出品者名簿**（今年度より迅速な受付・結果処理のため、書写作品についても出品者名簿を添付すること。様式は美術作品のものと同じ）を様式に従い出品校で作成し、必ず添付すること。（各様式は岩手県教育研究会図工・美術部会ホームページからダウンロードのこと）
- (2) 県内小中学校を通しての出品となるので、児童・生徒及び保護者から応募の申し出があった場合は、各学校にて対応すること。
- (3) 例年四千点を超える応募があり、スムーズな受付事務のためにも出品目録・出品者名簿の正確な記入・締切を厳守すること。

※出品目録 省略

2 主 催

岩手県教育委員会 岩手県文化振興事業団 岩手県芸術文化協会 岩手日報社 IBC岩手放送 テレビ岩手 めんこいテレビ 岩手朝日テレビ エフエム岩手

3 後 援

盛岡市 NHK盛岡放送局 岩手県小学校長会 岩手県中学校長会 岩手県小学校教育研究会国語部会 岩手県書写書道教育研究協議会 岩手県小学校教育研究会図工部会 岩手県中学校教育研究会美術部会

4 運 営

第67回岩手芸術祭実行委員会、岩手県小・中学校美術展協会

5 応募資格と出品点数

岩手県内の小学校・中学校に在籍している児童、生徒の作品で個人制作、各部門1人1点とする。

6 応募作品

- 平成27年度に制作した作品で、各部門の定める規定に合致するものとする。
- 出品料は無料とする。
- 書写の応募作品は返却しない。美術作品について返却を希望する学校は、出品目録に記入すること。

7 出品方法

作品は学校を経由して所定の**出品票（書写は不要）、出品目録及び出品者名簿を必ず添付して出品すること。**

各様式は、岩手県教育研究会図工・美術部会ホームページ（http://www.7b.biglobe.ne.jp/~iwate_zubiken/）からダウンロードのこと。必ずホームページを開いて名簿の様式を確認の上、応募してください。

8 受付期間

平成27年9月24日（木）から10月5日（月）まで。10月5日（月）必着のこと。

9 送 り 先

〈小学校美術作品送付先〉

〒020-0841 盛岡市羽場17-55-2
盛岡市羽場小学校内 加 藤 均 宛
TEL019-638-1049

〈中学校美術作品送付先〉

〒020-0833 盛岡市西見前16-37

盛岡市立見前南中学校内 大 坂 忍 宛
TEL019-637-3722

〈小・中学校書写作品送付先〉

〒020-0201 盛岡市玉山区戸字市の坪53
盛岡市立玉山小学校内 吉 田 淳 子 宛
TEL019-685-2250

★小・中学校美術展にかかわるお問合せは羽場小学校副校長加藤均へ
お願いします。 TEL019-638-1049

10 審 査

岩手県小・中学校美術展協会会長が委嘱した審査員により審査する。

11 入選入賞者の発表

入選・入賞者は審査終了後、出品学校宛通知するほか、入賞者については岩手日報を通じて発表する。

12 褒 賞

すぐれた作品に対し、各部門ごとに芸術祭賞、優秀賞、奨励賞、その他の賞を贈る。

13 展 示

展示は入選・入賞作品のみとし、展示方法は岩手県小・中学校美術展協会へ一任する。

14 展示期間

平成27年12月11日（金）から12月13日（日）までの3日間とする。
（12月11日～12日は9時から17時まで、13日は9時から16時まで）

15 展示会場

盛岡市内丸 岩手県民会館

16 巡 回 展

第68回岩手芸術祭巡回小・中学校美術展開催要項にもとづき、県内各地で巡回展示する。（作品は学年別、書写、絵画作品300点程度）巡回コースおよび日程については後日決定する。（巡回展の事務局は岩手県文化振興事業団総務部）

17 協 賛

第30回国民文化祭・かごしま2015協賛事業

第68回岩手芸術祭音楽部門ピアノ演奏会 出演者公募要項

1 趣 旨

県内に居住するピアノ学習者及び演奏家に、日頃の活動成果を発表する機会を提供し、広く県民に披露することにより、地域の音楽文化の振興に寄与することを目的とする。

また、ピアノ音楽の活性化を願い、ジュニア部門は従来通り演奏会を行い、一般部門はピアノコンクールと演奏会に分かれていたが、今年度から審査制を導入した演奏部門のみを行う。

2 主 催

岩手県教育委員会 岩手県文化振興事業団 岩手県芸術文化協会 岩手日報社 IBC岩手放送 テレビ岩手 めんこいテレビ 岩手朝日テレビ エフエム岩手

3 後 援

盛岡市 NHK盛岡放送局

4 運 営

第68回岩手芸術祭実行委員会 (一社) 岩手県ピアノ音楽協会

5 開催日時

平成27年10月17日 (土) (開場14:30) ジュニア部門 15:00～
一 般 部 門 17:00～

6 会 場

岩手県民会館中ホール

7 応募資格

一 般 部 門 県内在住もしくは、県内に本籍がある18歳以上(年齢制限なし)の方。

ジュニア部門 一般部門と同じ条件で高校生以下の方。

8 審査員

第68回岩手芸術祭実行委員会が委嘱した下記の審査員により、審査を行う。(ジュニア部門及び一般部門の演奏者に対して審査員のコメントを貰える。)

審査員 林 苑子(ピアニスト)

村岡 淳(昭和音楽大学講師、ピアニスト)

赤松林太郎(ピアニスト)

9 表 彰

審査制を取り入れた演奏部門として、最も優れた演奏に対して芸術祭賞を贈る。

副賞として一般社団法人岩手県ピアノ音楽協会より芸術祭賞には賞金30,000円。その他に、1年間一般社団法人岩手県ピアノ音楽協会が主催するコンサート及び第69回岩手芸術祭に招待演奏する資格が与えられる。

その他、部門賞として各審査員から審査員特別賞を贈る。

10 演奏内容

ジュニア部門 10分以内の任意の曲(ソロ、連弾)

一 般 部 門 20分以内の任意の曲(ソロ、連弾)

エントリー後の曲目の変更は認められません。

11 参加料

ジュニア部門 出演料 12,000円
チケット負担金 3,000円(3枚分)
計 15,000円

一 般 部 門 出演料 15,000円
チケット負担金 3,000円(3枚分)
計 18,000円

12 応募方法

所定の申込書に記入の上、それぞれの参加料を添えて9月9日(水)までに、下記申込先に現金書留にて郵送すること。(当日消印有効)

〒020-0117 盛岡市緑が丘2-2-11

一般社団法人岩手県ピアノ音楽協会 事務局

電話・FAX019-661-2927

13 その他

(1) 連弾の出演料は、ワンステージとする。但し、チケットは、出演者人数分の負担とする。

(2) 問合わせ先は、申込先に同じ。

U R L <http://tototyran.wix.com/piano>

E-mail iwatepref_piano@iaa.itkeeper.ne.jp

※申込書 省略

第68回岩手芸術祭 小・中学校美術展作品募集要項

1 趣 旨

第68回岩手芸術祭の一環として、県内小・中学校児童、生徒の書写・美術を展示し、広く県民に児童、生徒の作品について鑑賞の機会を提供するとともに、本県小・中学校の書写・美術教育の振興をはかる。

- クとします。
6. 出品料 1 作品につき1,000円。
7. 締切り 平成27年8月31日（月） 当日消印有効
8. 応募方法 本要項末尾の「応募票」（又はコピー）に必要事項を記入し、ケースに貼り、ディスク等にも題名、氏名を明記し、出品料を添えて応募してください。
9. 応募先 〒020-0878 盛岡市肴町4-20 永卯ビル3階
いわてアートサポートセンター内 岩手県演劇協会
※問合せも同じ（TEL 019-604-9020）
10. 入賞発表 9月下旬、岩手日報紙上に掲載の予定。入賞者には直接通知します。
11. 作品上映 《岩手芸術祭・映像フェスティバル》
日時：平成27年10月25日（日）午後1時～
会場：もりおか町家物語館ホール〈入場無料〉
入賞作品の上映発表と講評を行います。
県内各地で開催する「岩手芸術祭巡回美術展」の展示会場でも映像部門の受賞作品を上映します。（ただし、メディアや会場の都合により上映できない場合もあります）
12. 表彰 入賞者の表彰は平成27年11月21日（土）盛岡市内「サンセール盛岡」で行います。
13. 審査員
・中村好子（IBC岩手放送）
・道又 力（脚本家）
・こむろこうじ（岩手県演劇協会副会長）
14. 賞
(1) 【芸術祭賞】 1点（賞状・賞金）
(2) 【優秀賞】 1点（賞状・賞金）
(3) 【奨励賞】 2点（賞状・賞金）
(4) 【部門賞】 若干（賞状）
15. 応募細則
・入賞作品の著作権は応募者に帰属しますが、上映及びテレビ放送等について、1年間主催者が使用できるものとします。
・作品は上映発表会終了後、約1ヵ月以内にお返しいたします。
・不測の事故などによる作品の損傷等については当方で責任は負いかねますので念のためコピーでの保存を

お勧めいたします。

- ・音楽、映像、写真等で著作権のあるものを利用するときは、各自で著作権使用許可の手続きを済ませてください。
- ・撮影にあたり、人物の肖像権、プライバシーの権利等に十分配慮してください。

※ 応募票 省略

第68回岩手芸術祭声楽部門演奏会 出演者公募要項

1 趣 旨

県内に在住する声楽研究者に、日頃の活動成果を発表する機会を提供し、広く県民に披露することにより、地域の音楽文化の振興に寄与することを目的とする。

2 主 催

岩手県教育委員会、岩手県文化振興事業団、岩手県芸術文化協会 岩手日報社、IBC岩手放送、テレビ岩手、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手

3 後 援

盛岡市 NHK盛岡放送局

4 運 営

第68回岩手芸術祭実行委員会、岩手声楽研究会

5 募集内容

演奏日時	平成27年11月7日（土）午後1時30分より
会 場	岩手県民会館中ホール
応募資格	年齢18歳以上の岩手県在住者、又は岩手県に本籍がある者
演奏内容	歌曲・オペラのアリア等、ひとり8分以内
伴奏者	各自、準備すること。事務局でも斡旋可能。
申込締切	平成27年8月31日（月）
出演経費	12,000円（チケット負担金含む）
応募方法	所定の申込用紙に記入の上、下記申込先に郵送すること。
そ の 他	・著作権料のかかる曲目は演奏者の負担とする。 ・公募出演は連続2年までとする。
申込み・問い合わせ先	（〒020-0133）盛岡市青山一丁目20-26 丸岡 千奈美 宛（電話019-647-1850）

※出演申込書 省略

選者 赤澤 篤司 伊藤 幸子 鈴木八重子
鷹齋真智子 八重嶋 勲

表彰 優秀作品には、文芸祭賞、優秀賞、奨励賞の賞状に、
それぞれ副賞を添えて贈るほか、各選者賞、互選高点
歌賞を贈る。

応募締切 平成27年8月31日(月)必着

事務局 山本 豊
(応募先) [〒028-4125 盛岡市玉山区好魔字夏間木70-446
電話・FAX019(682)0103]

運営委員 赤澤 篤司 外館 克裕 山本 豊

(8) 俳句
日時 平成27年10月17日(土) 午前10時～
会場 岩手県公会堂(盛岡市内丸11-2)
会費 2,000円(「県民文芸作品集」入選作品集代を含む)
作品 当季雑詠3句(投句締切 午前11時30分)
選者 小畑 柚流 小菅 白藤 白濱 一羊
伊藤 紫水 名久井清流 橋本 韶子
小野寺東子

表彰 優秀作品には、文芸祭賞、優秀賞、奨励賞の賞状に、
それぞれ副賞を添えて贈るほか、各選者賞を贈る。

事務局 古川 公子
(〒020-0051 盛岡市下太田下川原168-2
電話019(658)0254)

運営委員 北田 祥子 古川 公子 長谷川かよ子
舞田 公子 山火 律子 佐々木昌子

(9) 川柳
日時 平成27年10月26日(月) 午前9時30分～
会場 アイーナ501号室
(盛岡市盛岡駅西通1-7-1)
会費 2,000円(昼食、発表誌)懇親会3,000円(希望者)
宿題と選者 (各題2句吟)
「空」 紫波町 富岡 敦子 選
「欠片」 一関市 佐藤 康 選
「底」 大船渡市 佐々木七草 選
「夢」 洋野町 柳清水広作 選

「雑詠」 奥州市 佐藤 岳俊 選
席題と選者 (題は当日10時発表)
「 」 紫波町 熊谷 岳朗 選
「 」 北上市 照井鈍太郎 選

投句 用紙自由・住所、氏名、電話番号明記、投句料1,000円
締切 平成27年10月10日(土)消印有効
投句先 〒028-3309 紫波町北日詰大月堂18-2
019(676)3751

賞 文芸祭賞、優秀賞、奨励賞ほか
事務局 熊谷 岳朗
(〒028-3309 紫波町北日詰大日堂18-2
電話019(676)3751)

運営 岩手県川柳連盟

第68回岩手芸術祭【映像部門】岩手県映像コンクール

主催 岩手県教育委員会 岩手県文化振興事業団 岩手県芸術文化協会 岩手
日報社 IBC岩手放送 テレビ岩手 めんこいテレビ 岩手朝日テレビ
エフエム岩手

後援 盛岡市 NHK盛岡放送局

運営 第68回岩手芸術祭実行委員会 岩手県演劇協会
運営協力 特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター

《作品募集要項》

1. 題材 自由です。ただし、全国規模のコンクールで入賞した作品は応募できません。
2. 規格 基本的にDVDビデオまたはブルーレイとします。
注：その他のメディアでの応募の際は事前にご相談ください。
3. 時間 3分以上30分未満
4. 応募資格 岩手県在住または岩手県出身の方ならどなたでも応募できます。
5. 応募点数 応募点数の制限はありません。ただし、1作品1ディスク

会 場 岩手大学農学部一号会議室
(盛岡市上田3-18-8)

内 容 小講演と研究発表
講演 牛崎 敏哉
「最近の賢治研究をめぐって」
望月 善次
「啄木研究情報～国際啄木学会・シドニー大会
を中心にして～」
宮澤明裕「リニューアル後の宮沢賢治記念館の近況」
研究発表(4～6人)
★発表資格: 次の1. 又は2. のいずれかを満たす方
1. 『県民文芸作品集(評論の部)』応募者。
2. 9月5日(土)までに事務局へ発表趣旨(A4
判、1枚程度)と共に申し出た方。
なお、希望者多数の場合は、運営委員によって選考
する。

参加費 無料

事務局 宮沢賢治記念館内 牛崎 敏哉
〔〒025-0011 花巻市矢沢1-1-36
電話0198(31)2319 FAX0198(31)2320〕

運営委員 牛崎 敏哉 望月 善次

その他 懇親会(参加費 1,000円)

(4) 随 筆
日 時 平成27年10月31日(土) 午後1時～
会 場 日本現代詩歌文学館
(北上市石本町2-5-60)

内 容 県民文芸作品集応募作品の講評
講師 須藤 宏明 野中 康行

運営委員 第68回岩手芸術祭実行委員会事務局
(岩手県文化振興事業団総務部内)
〔〒020-0023 盛岡市内丸13-1
電話019(654)2235 FAX019(625)3595〕

(5) 児童文学
日 時 平成27年11月8日(日) 午前10時～午後2時半
会 場 プラザおでって大会議室

(盛岡市中ノ橋通1-1-10)

内 容 ①県民文芸作品集応募作品の選評と合評
②講演「子育てと児童文学」講師 本堂裕美子
③物語「奇跡の一本松」の朗読と講演
講師 やえがしこうぞう

事務局 千葉留里子
〔〒020-0114 盛岡市高松2-25-30
電話019(661)6672〕

運営委員 高橋 昭 加藤 典夫 千葉留里子

(6) 詩
日 時 平成27年10月18日(日) 午前10時～午後3時頃
会 場 なはんプラザ
〔花巻市定住交流センター〕第1会議室
(花巻市大通り1-2-21)

会 費 1,000円(当日受付。資料代ほか。)

応募作品 未発表作品3篇以内、A4判原稿用紙使用、1編につ
き3枚以内で右とじのこと。ワープロ原稿はA4判に
印字のこと。選者の講評をご希望の方は82円切手を
貼った返信用定形封筒に本人宛先を記入の上、同封の
こと。

投 稿 料 無料

選 者 松崎みき子 上斗米隆夫 山下 正彦

表 彰 文芸祭賞、優秀賞、奨励賞、佳作ほか。

応募期間 平成27年7月1日(水)より9月1日(火)《必着のこと》

事務局 岩手県詩人クラブ文芸祭「詩の大会」事務局
(応募先) 〔〒020-0108 盛岡市東黒石野2-8-3 かしわばらくみこ
電話019(661)5796〕

運営委員 東野 正 かしわばらくみこ 伊藤 諒子

(7) 短 歌
日 時 平成27年10月10日(土) 午前10時～午後3時頃
会 場 盛岡市勤労福祉会館(盛岡市紺屋町2-9)

会 費 出詠料1,000円、当日会費1,000円(弁当代含む)
(後日、互選のための詠草集に同封いたします払込取
扱票にて払い込むこと)

詠 草 1首(未発表作品、はがきを使用のこと)

別表

種目	内 容	応 募 書 式	枚 数	選 者
小説	1人1篇	原稿用紙を使用し、右とじにすること。規格はB4判で20字×20行400字詰のものに縦書きとする。	30枚以内 点字は40枚以内	柏葉 幸子 斎藤 純
戯曲・ シナリオ	①演劇一幕もの ②ラジオドラマ ③テレビドラマ	ワープロ等を使用する場合もこの規格に割付けたものとする。(ワープロ等使用の場合は、A4判も可) 文芸評論については、ワープロ等を使用する場合、字数制限内であれば原稿用紙使用にこだわらない。	50枚程度 点字は66枚程度 (①～③を明示)	昆 明男 中村 好子
文芸 評論	研究的内容のものも可とする。	随筆については、上記書式の外、題名、氏名、性別、年齢、住所、電話番号、受賞歴等を記入した別紙をつけること。(右の枚数に別紙は含まない。)	30枚以内 点字は40枚以内	望月 善次 牛崎 敏哉
随筆		随筆については、上記書式の外、題名、氏名、性別、年齢、住所、電話番号、受賞歴等を記入した別紙をつけること。(右の枚数に別紙は含まない。)	4枚 点字は6枚	須藤 宏明 野中 康行
児童 文学	フィクション、ノンフィクションを問わない。少年少女詩、童謡の場合は3篇以内とする。	(点字の場合)32マスの点字器を使用した場合、点字用紙片面打ち16行を1枚とする。他の点字器を使用する場合はこれに準ずること。 (1) 会話の部分は行を改め、「」を使用すること。 (2) 段落は3マス目から書きはじめ、点字用紙にページを打つこと。 (3) 繰返符号は用いないこと。 (4) 句点を入れること。 (5) 墨字訳に当たって使用を希望する漢字がある場合には、別紙に箇条書きにすること。	30枚以内 点字は40枚以内	高橋 昭 藤原 成子 齋藤 英明
詩	3篇以内とする。	A4判規格原稿用紙、又はA4用紙に20字×20行で縦書きとする。行空け明記。右とじ。(ワープロ等を使用する場合についてもこの規格によること) 欄外に住所、氏名、年齢、電話番号、1篇毎の原稿枚数、通し番号(1-1、1-2…)を明記すること。	1篇につき 3枚以内	松崎みき子 上斗米隆夫 山下 正彦
短歌	未発表作品10首	原稿用紙B4判400字詰1枚に10首、欄外に題名を記入し、裏面に住所、氏名、性別、年齢、電話番号を記入のこと。	1人1枚に限る。	柏崎 驍二 酒井 久男 外館 克裕 藤井 永子 三田地信一
俳句	雑詠5句	はがきを使用すること。(句数が不足しないよう注意すること。)	1人1枚に限る。	小畑 柚流 小菅 白藤 白濱 一羊 伊藤 紫水 名久井清流 橋本 韶子 小野寺東子
川柳	雑詠7句		1人1枚に限る。	宇部 功 塩釜アツシ 佐藤 岳俊

第68回(平成27年度)岩手芸術祭『文芸祭』開催要項

- 趣 旨
第68回岩手芸術祭の一環として、『文芸祭』を開催し、文芸活動の振興を図る。
- 主 催
岩手県教育委員会 岩手県文化振興事業団 岩手県芸術文化協会 岩手日報社 IBC岩手放送 テレビ岩手 めんこいテレビ 岩手朝日テレビ エフエム岩手
- 後 援
開催地市町村教育委員会 NHK盛岡放送局
- 運 営
第68回岩手芸術祭実行委員会
- 応募及び大会参加資格
岩手県在住者、岩手県出身者及び本籍が岩手県にある方
- 種目毎の大会の内容
 - 小 説
日 時 平成27年11月1日(日) 午後1時半～
会 場 岩手県民会館第4会議室(盛岡市内丸13-1)
内 容 「応募作品選評」講師 柏葉 幸子 斎藤 純
運営委員 第68回岩手芸術祭実行委員会事務局
(岩手県文化振興事業団総務部内)
〔〒020-0023 盛岡市内丸13-1
電話019(654)2235 FAX019(625)3595〕
 - 戯 曲
日 時 平成28年1月16日(土) 午後1時半～
会 場 盛岡劇場タウンホール(盛岡市松尾町3-1)
参加費 1,000円
内 容 「戯曲と俳優のためのワークショップ」
事務局 高村 明彦
〔〒020-0051 盛岡市下太田沢田68-18
電話019(658)1108〕
運営委員 昆 明男 倉持 裕幸 高村 明彦
 - 文芸評論
日 時 平成27年10月11日(日)
午後1時～5時(12時30分受付)

第68回（平成27年度）岩手芸術祭『県民文芸作品集』第46集公募要項

- 1 趣 旨
第68回岩手芸術祭の一環として、『県民文芸作品集』を刊行し、文芸活動の振興を図る。
- 2 主 催
岩手県教育委員会 岩手県文化振興事業団 岩手県芸術文化協会 岩手日報社 IBC岩手放送 テレビ岩手 めんこいテレビ 岩手朝日テレビ エフエム岩手
- 3 後 援
盛岡市 NHK盛岡放送局
- 4 運 営
第68回岩手芸術祭実行委員会
- 5 応募資格
岩手県在住者（経験者も含む）、岩手県出身者及び本籍が岩手県にある方。
県外の応募者にあつては岩手県との関わりを記入すること（かつて居住した岩手県の市町村名など）。
- 6 公募種目
別表のとおり
- 7 応募上の注意
 - (1) 未発表の創作作品であること。
 - (2) ペン、又は、ボールペンを使用し、鉛筆は使用しないこと。（ワープロも可）
 - (3) 投稿後の訂正は認めないので、推敲のうえ、かい書で清書して、完全原稿で応募すること。
 - (4) 応募作品は返却しないので、必要とする場合はコピーをとっておくこと。
 - (5) 応募作品の末尾（別紙可、短歌にあつては裏面）に①住所、②氏名（筆名を使用する場合でも、本名を必ず記入すること。）、③年齢、④性別、⑤電話番号及び（お持ちの方は）電子メールアドレスを記入すること。
- 8 応募締切
平成27年8月31日（月）当日消印有効（受付開始は7月1日（水）とする。）

- 9 応募先
〒020-0023 盛岡市内丸13番1号 岩手県民会館内
岩手県芸術文化協会『県民文芸作品集』係
封筒、はがきの表に「県民文芸作品集（作品種別を記入）応募作品」と朱書きすること。
電子メール：geijyutsu68@iwate-bunshin.jp
（標題に「県民文芸作品集応募作品」と明記）
- 10 審査結果
芸術祭賞、優秀賞、奨励賞については、平成27年10月9日（金）に岩手県文化振興事業団のホームページ上で発表するほか、入賞、入選者には本人宛通知する。
- 11 表 彰
種目ごとに審査のうえ、芸術祭賞（1点・賞金3万円）、優秀賞（1点・賞金2万円）、奨励賞（2点・賞金各1万円）を贈る。
○表彰式 平成27年12月12日（土）（会場：サンセール盛岡）
- 12 作品の発表
芸術祭賞、優秀賞及び奨励賞に入賞した作品は、『県民文芸作品集』に掲載する。なお、詩、短歌、俳句及び川柳の4種目については、入賞作品のほか、佳作、選者賞などの入選作品についても掲載する。掲載する作品は選者が添削することがある。
- 13 『県民文芸作品集』刊行予定日
平成27年12月12日（土）
- 14 個人情報の取り扱い
応募者の個人情報は審査結果の公表を含む作品集刊行業務の範囲内に限り利用する。ただし、入賞、入選者については、報道機関等に氏名及び居住市町村名の情報提供を行う場合がある。

210cmまでとする。

(3)木製パネルに限る。

(4)いずれもそのまま展示できるよう、裏面に紐をつける。特に紐写真は1枚のパネルに、また、連写真は連結して搬入すること。

(注) 連結しない写真、蝶番の使用など他の作品に傷をつけるようなもの、及びガラス入り額等破損の恐れのあるものは受け付けない。

審査員 清水公代（日本写真家協会会員）

審査 9月6日（日）午前10時 公開審査とする（搬入場所）

出品点数・出品料 1人2点まで。42cm×51cm以上長辺100cmまで3,000円。左の寸法を越える～最大120cm×210cmまで4,000円。学生（高校生以上）2,000円。

その他 展示は原則として入選作以上で1人1点とする。

事務局 山田博彦 〒020-0116 盛岡市箱清水1-17-10
TEL019-661-7277

●デザイン

応募資格 一般・大学生・専門学校生・高校生

出品作品 平面デザインに限ります。（立体及び半立体は不可）社会的規範に反する作品は展示しない場合があります。

・作品はすぐに展示できるよう、パネル裏面に必ず吊り金具、ひも等をつけること。

A部門. ポスター及びイラストレーション

B部門. 課題作品＝（盛岡ロータリークラブ協賛）21世紀の地球環境を考える。（地球をとりまく環境全般をテーマとします。）

「盛岡ロータリークラブ」は明記すること。マークは位置指定のみでも可。

作品の体裁・規格

(1) A部門. 自由作品はB全判パネル（103cm×72.8cm）
B2判パネル（72.8cm×51.5cm）

(2) B部門. 課題作品はB全判パネル（103cm×72.8cm）
タテ位置に限る。

・出品目録の種別欄には、出品部門（A部門またはB部門）を記入のこと。

出品料 1点3,000円（高校生は1,000円）、1点増すごとに1,000円加算（高校生は500円加算）

審査員 長谷川羊介（クリエイティブディレクター）

村上由美子（岩手デザイナー協会会長）

審査 9月6日（日）午前10時～11時30分 公開審査

事務局 竹村育貴 〒020-0874 盛岡市大沢川原3-1-18-2F

MCL専門学校グループ内 TEL 019-629-1000

●現代美術

出品作品 「現代美術」とは、1945年以降に現れたさまざまな傾向の前衛的な美術を指します。ここでは、平面、立体、映像、インスタレーション、音響を含むものなど、様式や技法にとらわれない表現を扱います。「現代美術」は、「ものを見ること（視覚認識）」や「社会をどう見つめるか」ということを常に問題にしてきました。みなさんの新鮮な作品をお待ちしています。

大きさ 大きさは、
$$\left\{ \begin{array}{l} \text{立体、インスタレーション} = \\ \text{床面積15m}^2\text{以内} \times \text{高さ8m以内} \\ \text{平面} = 10\text{m}^2\text{以内} \end{array} \right\}$$

出品点数・出品料 1人2点まで、1点3,500円、2点5,000円

審査員 梅津 元（埼玉県立近代美術館主任学芸員）

事務局 浅倉 伸 〒020-0862 盛岡市東仙北2-2-29

TEL090-7337-7232（直通）

●水墨画

作品の規格 (1)作品寸法F8（38×45.5）以上～和紙全紙をメド

(2)表装 額装（アクリル使用のこと。ガラス使用不可。）
・軸装

出品点数・出品料 1人1点 3,000円

出品申込 8月24日（月）までに事務局に申込みこと。

審査員 鈴木 孝男（岩手県水墨画協会会長）

昆野スミ子（ 〃 副会長）

瀬川 博（ 〃 副会長）

土村 安（ 〃 理事）

事務局 北村義美 〒020-0106 盛岡市東松園2-12-4

TEL・FAX019-661-8923

大きさ・重さ [立体] 縦、横、高さ、各1.7m以内 重量50kg以内
[平面] 縦、横、額（ガラスなし、アクリル可）含み2m以内
（規格木枠の場合はS130号以内）突出50cm以内
作品の保護のための額縁等（画面より厚みを持ったもの）で
額装のこと。

出品点数・出品料 1人1点 4,000円

招待 本年度の洋画部門芸術祭受賞者は、次年度に限り招待する。
出品は本人の意思にゆだねる。

審査員 洋画部門理事

合評会 10月4日（日）午後1時～ 審査員と出品者による合評会を
開催する。（6日（火）13：00～講評希望の方へ対応）

事務局 日下信介 〒020-0887 盛岡市上の橋町7-57
県立盛岡第二高等学校内 TEL019-622-5101

●版画

出品作品 版種は自由。公募展未発表の自作の版表現されたもので、複
数表現できるもの。

（手彩色手法の作品は認めない）作品には題名とサインを必
ず記入してください。

大きさ 額装を含めて縦・横、180cm以内の陳列に支障のないもの。

出品点数・出品料 2点まで3,000円、3点まで5,000円

審査員 阿部陽子（版画家、国画会会員）、田村春樹（画家）

合評会 10月18日（日）午後2時から審査員を囲んで。

事務局 鈴木和雄 〒028-3601 矢巾町高田9-40-15
TEL019-611-0575

●彫刻

作品の規格 出品作品は、大きさ2m×2m×2m以内のオリジナル作品
とし、会場汚損並びに観客に危害を及ぼすおそれのある作品
及び仏像彫刻を除く。ただし、50kgを超過する作品については、
展示・運搬は出品者が行うものとする。

出品点数・出品料 1点3,000円（高校生は1,000円）、1点増すごとに1,000
円加算

審査員 佐藤淳一（東北生活文化大学教授）

事務局 曾根達也 〒028-3615 紫波郡矢巾町大字南矢幅9-1-1
県立不來方高等学校内 TEL019-697-8247

●工芸

出品作品 美術工芸並びに産業工芸等、いずれの性格のものでもかまわ
ないが、**創作性の高い未発表**のものであること。

大きさ・重さ [壁面] 180cm×150cm以内

[立体] 50cm×50cm×50cm以内

立方体でない場合は、おおよその換算による大きさ
とする。重量50kg以内

出品点数・出品料 1点4,000円、1点増すごとに1,000円加算

審査員 高橋貞夫（日展会員） 菊池房江（岩手工芸美術協会会長）
工芸セミナー（審査講評を兼ねながら）

9月6日（日）午後2時～3時

北ホテル2階会議室

事務局 佐々木秀次 〒025-0066 花巻市松園町371-3
TEL0198-23-2580

●書道

作品の種別・規格

(1)種別 漢字、かな、篆刻・刻字、漢字かな交じり書
（近代詩文書等）、前衛書

(2)仕上がり寸法 横1辺182cm（6尺）以内 縦1辺242cm（8
尺）以内 面積 1.48㎡（16平方尺）以内
重量15kg以内

(3)仕立 額、裱装（帖、軸装は認めない） ガラス入
りは認めない（アクリルは可）

出品点数・出品料 1人1点4,000円

審査員 佐藤平泉（奥州市） 斎藤溪石（滝沢市） 堀内青巒（二戸市）
野田杏苑（滝沢市） 吉田晨風（盛岡市） 澤藤華星（二戸市）
玉澤岑峇（盛岡市） 鳴海起鳳（矢巾町） 山火薬舟（盛岡市）

鑑賞会 10月12日（月・祝）午後2時～3時 会場にて実施する。

事務局 佐々木飛鴻 〒020-0107 盛岡市松園2-11-3
TEL019-663-2595

●写真

出品作品 (1)テーマ 自由。種類 モノクロ、カラー、デジタル いず
れも可。

(2)サイズ 単写真・組写真・連写真を問わずいずれも全体の
仕上がりは、外寸42cm×51cm以上外寸120cm×

〈第3期〉10月14日（水）9時～21時

〈第4期〉10月21日（木）9時～21時

11 展 示

展示は、入賞・入選作品並びに招待作品とし、展示方法は実行委員会に一任のこと。

ただし、彫刻、現代美術は裏面記載のとおりとする。

12 搬 出

(1) 直接搬出

部 門	搬出日時	搬出場所	注 意
洋画・彫刻	10月6日（火） 16時～17時	岩手県民会館 第1・2展示室	搬出指定日時に搬出しない場合は、実行委員会の指定する業者により荷造り、送料とも着払いで返送する。
工芸・書道	10月12日（月・祝） 16時～17時		
日本画・版画・ 水墨画	10月18日（日） 16時～17時		
写真・デザイン・ 現代美術	10月25日（日） 16時～17時		

(2) 輸送搬出

部 門	搬出日時	注 意
洋 画／彫 刻	10月6日（火）16時～17時	*輸送による搬出を希望する場合は事前に部門事務局へ申し出の上、指示に従うこと。
工 芸	10月12日（月・祝）16時～17時	
水墨画	10月18日（日）16時～17時	
写 真	10月25日（日）16時～17時	

※上記に記載された部門以外の輸送搬出は認めない。

13 表彰式

入賞者については、平成27年11月21日（土）に行う表彰式において表彰する。（会場：サンセール盛岡）

14 巡回美術展

岩手県民会館での本展終了後、各部門の芸術祭賞1点、優秀賞1点、奨励賞2点及び部門賞のうち部門推薦作品（最大4点）を県内市町において巡回展示する。

○巡回期間：平成27年11月14日～12月13日

○開催場所：久慈市文化会館、一戸町コミュニティセンター、岩泉町民

会館、奥州市文化会館、宮古市民文化会館、山田町中央公民館

※巡回美術展終了後の作品は県民会館（アートフェスタいわて出品作品は県立美術館）で保管する。搬出費用については出品者の負担とするが、具体的な日程等は別途通知する。

15 その他

- (1) 出品作品の不慮の災害による損害については、主催者はその責を負わない。
- (2) 搬入・搬出及び荷造りの費用は、出品者の負担とする。
- (3) 出品作品が本芸術祭の記録集、主催団体等が運営するインターネットのホームページ、報道及び広報などに掲載される場合があることを出品者があらかじめ容認の上、出品するものとして取り扱う。
- (4) 報道機関の取材等に対しては、出品者の氏名、居住地町村名の情報提供及び作品の写真撮影を許可することがある。
- (5) 別紙、出品目録及び出品票に記入された個人情報、審査結果の通知、展示目録等印刷物の作成、表彰式の開催案内など、岩手芸術祭美術展の運営業務の範囲内に限り利用するものであり、それ以外の目的には一切利用しない。

●日本画

- 作品の規格** (1)作品は、すべて枠付として表装すること（ガラス抜き）を原則とし、軸装も許可する。
(2)100号以内とする。
(3)寸法は、枠付ではかること。
(4)作品はすぐ展示できるよう、金具、吊具は必ずつけること。

出品点数・出品料 1点3,000円、2点5,000円

審査員 西川善有（盛岡市） 片山道子（盛岡市） 豊間根久子（山田町）
事務局 菊地正義 〒020-0042 盛岡新田町3-19
TEL019-652-1860

●洋画

出品作品 出品者の創作によるオリジナル作品で平面（油彩、水彩等）及び立体作品。ただし、音響、電気による作品及び動物、悪臭を発する作品、腐敗する可能性のある作品を除く。作品は額装し、すぐ展示できるよう、金具、吊具、ひも、針金等を必ずつけること。

第68回岩手芸術祭美術展公募要項

1 趣 旨

県民の優れた芸術文化活動の成果を発表し、広く県民に鑑賞の機会を提供することにより、本県芸術文化の創造と発展に寄与するとともに、豊かな県民性の高揚に資する。

2 主 催

岩手県教育委員会・岩手県文化振興事業団・岩手県芸術文化協会・岩手日報社・IBC岩手放送・テレビ岩手・めんこいテレビ・岩手朝日テレビ・エフエム岩手

3 後 援

盛岡市 NHK盛岡放送局

4 展示会場及び日時

岩手県民会館展示室

〈第1期〉洋画・彫刻

10月3日（土）～10月6日（火）

10時～17時（最終日は16時まで）

〈第2期〉工芸・書道

10月9日（金）～10月12日（月・祝）

10時～17時（最終日は16時まで）

〈第3期〉日本画・版画・水墨画

10月15日（木）～10月18日（日）

10時～17時（最終日は16時まで）

〈第4期〉写真・デザイン・現代美術

10月22日（木）～10月25日（日）

10時～17時（最終日は16時まで）

5 応募資格

岩手県内在住者、本籍が岩手県にある者、岩手県出身者または岩手県内学校に在籍したことがある人。（書道、洋画部門は高校生以下を除く。）

6 公募作品

公募作品は日本画・洋画・版画・彫刻・工芸・書道・写真・デザイン・現代美術・水墨画の10部門とし、各部門の公募要項（裏面）による。**作品は未発表作品**とする。

7 作品の受付、返還

作品は所定の出品目録とともに下記のとおり所定の期日に搬入し、作品の裏面には所要の事項を記入した出品票をはりつけ、各部門の受付所

に提出すること。

なお、出品物を受け付けたときは、受付証を交付するので、搬出のときの引換証とすること。

8 搬 入

(1) 直接搬入

部 門	搬入場所	搬入日時
日本画	岩手県公会堂11号室	9月5日（土） 10時～16時
写真	岩手県公会堂26号室	
版画／デザイン／水墨画	岩手県民会館第1展示室	
洋画	岩手県民会館大ホールステージ	
工芸	岩手県民会館4階第2会議室	
書道	岩手県民会館大ホールステージ	
現代美術	岩手県民会館大ホールホワイエ	
彫刻	岩手県民会館地下収蔵庫	

(2) 輸送搬入

部 門	あて先	搬入日
日本画／写真	〒020-0023 盛岡市内丸11-2 岩手県公会堂内 芸術祭美術展〇〇部門受付	9月5日（土）に限る。 ※輸送業者に配達日を指定 すること。 （梱包表面に「美術展〇〇 部門出品物」と大きく朱書 きのこと。）
版画／彫刻／ デザイン／水墨画	〒020-0023 盛岡市内丸13-1 岩手県民会館第1展示室内 芸術祭美術展〇〇部門受付	
洋画	〒020-0023 盛岡市内丸13-1 岩手県民会館中ホール搬入口 芸術祭美術展洋画部門受付	
工芸	〒020-0023 盛岡市内丸13-1 岩手県民会館4階第2会議室 芸術祭美術展工芸部門受付	

※書道、現代美術作品の輸送搬入は認めない。

※輸送搬入の場合の出品受付証、出品目録、出品料は9月1日（火）までに各部門事務局あて送ること。

9 審査及び発表

審査は、第68回岩手芸術祭実行委員会会長が委嘱した審査員により、9月6日（日）に搬入会場で行い、部門ごとに、芸術祭賞（1点）、優秀賞（1点）、奨励賞（2点）及び部門賞を贈る。審査の結果は、本人あて通知する。

10 展示作業日

岩手県民会館 〈第1期〉10月2日（金）9時～21時
〈第2期〉10月8日（木）9時～21時

(様式1)

年 月 日

第 回岩手芸術祭実行委員会
会長 様

[申請者]

団体名

代表者

住所

氏名

電話番号

第 回岩手芸術祭協賛事業の名義の使用承認について
下記事業について、第 回岩手芸術祭協賛事業の名義の使用承認を受けたいので、関係書類を添えて申請します。

記

- 1 事業の名称
- 2 事業の目的
- 3 事業の主催者
- 4 事業の実施期間及び会場

(添付書類)

- 1 事業概要(内容、入場料、後援団体等)が明らかになる書類
- 2 事業の収支予算書
- 3 主催者が民間団体の場合は、会則、役員名簿、会員名簿、活動状況等団体の性格・内容が明らかになる書類
- 4 その他必要と認める書類

(様式2)

年 月 日

第 回岩手芸術祭実行委員会
会長 様

団体名

代表者

住所

氏名

電話番号

第 回岩手芸術祭協賛事業の名義の使用承認に係る事業報告について
年 月 日付け岩手芸術祭第 号で承認された事業が終了したので、関係書類を添えて報告します。

記

- 1 事業の名称
- 2 事業の主催者
- 3 事業の実施期間
- 4 会場
- 5 出演者・出品者数
- 6 入場者数

(添付書類)

事業の収支決算書、後援者、プログラム・パンフレット、事業の内容を撮影した写真等を添付すること。

- (1) 岩手芸術祭の運営に携わり、概ね10年以上にわたって、岩手芸術祭の発展に貢献した者
- (2) 岩手芸術祭公募部門の審査員又は選者として、概ね10年以上にわたって部門の発展に尽力した者
- (3) 岩手芸術祭各部門の指導者として、概ね20年以上にわたって後進の育成に尽力した者で、概ね60歳を超えている者
- (4) その他岩手芸術祭の運営等に携わり多大な功績を示し、特に表彰に値すると認められる者

岩手芸術祭協賛事業の名義の使用承認事務手続要領

1 申請手続

主催者は、当該事業が実施される期日（ポスターその他の印刷物等に「岩手芸術祭協賛事業」の名義を印刷する場合は、その印刷日）の遅くとも1か月前までに、岩手芸術祭実行委員会会長（以下「会長」という。）あての申請書（様式1）を提出するものとする。

この申請書には、次の書類を添付しなければならない。

- (1) 事業の概要（事業の目的、実施日時、会場、事業内容、事故防止対策、公衆衛生対策、入場料、共催・後援団体名等）
- (2) 事業の収支予算書
- (3) 主催者が民間団体である場合は、定款、寄附行為、会則、役員名簿、会員数、活動状況等当該団体の性格及び内容を明らかにする書類

2 承認の基準

岩手芸術祭協賛事業の名義の使用を承認する基準は、次のとおりとする。

- (1) 主催者が、次のいずれかに該当するものであること。
 - ア 国又は地方公共団体（公社、公団を含む。）
 - イ 公益法人（宗教法人を除く。）
 - ウ 新聞、ラジオ、テレビ等の報道機関
 - エ 岩手芸術祭の趣旨に沿う事業を実施しようとする企業等
 - オ 芸術文化団体、実行委員会その他の公益的団体（芸術文化活動そのものを目的としたものに限る。）
 - カ その他上記に準ずると認められるもの。
- (2) 事業の内容が、次の各号に適合するものであること。
 - ア 事業の内容が岩手芸術祭の趣旨に沿うものであること。
 - イ 事業が、特定の範囲ではなく、一般の人に公開されるものであること。

- ウ 事業の資金計画が十分なものであること。
- エ 営利を目的としないものであること。
- オ 事業の実施に当たっては、事故防止対策、公衆衛生対策等に十分な措置が講ぜられているものであること。

3 承認の手続

会長は、主催者からの申請書を受理した場合は、2の基準に基づいて審査し、結果を申請者に文書により通知するものとする。

4 主催者の責務

- (1) 事業の主催者及び関係者は、岩手芸術祭の趣旨に反する行為を行ってはならない。
- (2) 事業の主催者及び関係者は、2に掲げる基準の趣旨に反する行為を行ってはならない。
- (3) 事業の主催者は、所属する職員や関係者等が、前2号に該当する行為を行っている疑いがある場合は、会長に報告するとともに、必要な調査を行い、その事実が判明した場合は速やかに是正するとともに、その結果を会長に報告しなければならない。
- (4) 事業の主催者は、前号に係わり、会長から是正等についての指示があった場合は、これに従わなければならない。

5 承認の取消

事業の主催者が4の(4)の指示に従わないときは、会長は、承認を取り消すこととする。

6 事業実施報告

事業の主催者は、事業の終了後、1か月以内に事業報告書（様式2）を会長に提出しなければならない。

第68回岩手芸術祭美術部門実行委員会運営規程

(趣 旨)

第1条 この規程は、第68回岩手芸術祭実行委員会会則第8条第4項の規定に基づき、美術部門実行委員会（以下「委員会」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(委 員)

第2条 委員会は、一般社団法人岩手県芸術文化協会の推薦に基づき、第67回岩手芸術祭実行委員会会長が委嘱する20人以内の委員をもって構成する。

2 委員の任期は、委嘱を受けた日の属する年度の末日までとする。

(役 員)

第3条 委員会に委員長を置く。

2 委員長の選任は、委員の互選とする。

3 委員長は、委員会の業務を統括する。

(会 議)

第4条 委員会の会議は、必要に応じて、委員長が招集する。

2 会議の議長は、委員長がこれに当たる。

(事務局)

第5条 委員会の事務を処理するため、必要に応じて、一般社団法人岩手県芸術文化協会に事務局を置く。

2 事務局に次の職員を置く。

(1) 事務局長 1人

(2) 事務局次長 2人

(3) 事務局員 若干名

3 事務局の職員は、委員の中から委員長が指名する。

4 事務局長は、委員会の事務を掌理する。

5 事務局次長は、事務局長を補佐する。

6 事務局員は、事務局長の命を受けて、委員会の事務を処理する。

(補 則)

第6条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

岩手芸術祭実行委員会感謝状贈呈に関する規程

(目 的)

第1条 この規程は、岩手芸術祭に関する功労について顕彰し、岩手芸術

祭の発展に資することを目的とする。

(感謝状を贈呈されるもの)

第2条 感謝状を贈呈されるものは、個人又は団体であって、次の各号の一に該当するものについて行う。

(1) 岩手芸術祭の運営に携わり、多年にわたり芸術祭の発展に貢献した
もの

(2) 岩手芸術祭公募作品の審査員又は選者として、多年にわたり部門の
発展に尽力したもの

(3) 岩手芸術祭の各部門の指導者として、永年にわたり後進の育成に尽
力したもの

(4) その他特に表彰に値する功績があると認められたもの

(方 法)

第3条 顕彰は感謝状を贈呈して行い、その氏名及び団体名並びに事績を
顕彰録等によって公表する。

2 感謝状には、記念品を併せて贈ることができる。

3 故人の場合は、感謝状その他を遺族に贈り追彰する。

(実 施)

第4条 感謝状を贈呈されるものは、岩手芸術祭実行委員会において承認
されなければならない。

2 感謝状及び記念品は、岩手芸術祭実行委員会会長の名によって授与す
る。

3 その他この規程に関し必要な事項は、別に会長が定める。

附 則

この規程は、昭和55年5月21日から施行する。

附 則

この規程は、平成元年9月5日から施行する。

岩手芸術祭実行委員会感謝状贈呈に関する選考基準

1 趣旨

この基準は、岩手芸術祭実行委員会が感謝状を贈呈することについて、
必要な事項を定めるものとする。

2 感謝状を贈呈される者

感謝状を贈呈される者は、次の各号に該当する者とする。

ただし、刑罰（道路交通法関係を含む。）を受けて2年を経過しない
者は対象としない。

イ 文芸祭

小説大会、戯曲大会、文芸評論大会、随筆大会、児童文学大会、詩の大会、短歌大会、俳句大会、川柳大会

9 参加作品

- (1) 美術、映像及び文芸の作品並びに声楽及びピアノの演奏発表は、本県関係者の中から公募する。公募要項は、各部門の種目ごとに定める。
- (2) 公募以外の部門の発表、展示等については、各部門が企画し、実行委員会の決定を経て実施する。
- (3) 参加作品は、実施種目ごとに一般公開する。公募作品については、実施種目ごとに公開する範囲を定めるものとする。
- (4) 小中学校美術展の作品の公募は、岩手県小中学校美術展協会が県内の小・中学校を通じて行うものとする。

10 表彰等

- (1) 特に優れた美術、小・中学校美術、映像及び文芸の作品並びに演奏発表に対しては、審査のうえ、芸術祭賞（文芸祭賞）、優秀賞及び奨励賞を贈る。また、実施種目ごとに部門賞及び入選等を設けることができる。
- (2) 展示、発表作品の審査を行うため、公募部門ごとに審査会又は選者をおく。

審査員及び選者は、第67回岩手芸術祭実行委員会会長が委嘱する。

11 開催経費

経費は、主催する機関、団体の負担金及びその他の収入をもって充てる。

12 協賛参加

芸術祭に自主的に参加を希望する公演、展示等は、実行委員会会長の協賛参加承認を得て行うものとする。

13 国民文化祭への協賛参加

会期を考慮し、第30回国民文化祭（鹿児島大会）へ協賛参加するものとする。

第68回岩手芸術祭実行委員会会則

（名称）

第1条 この会は、第68回岩手芸術祭実行委員会という。

（目的）

第2条 この会は、岩手芸術祭を円滑かつ総合的、効果的に運営することを目的とする。

（実行委員）

第3条 この会は、次に掲げる実行委員22人以内をもって組織する。

- (1) 岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課総括課長の職にある者
- (2) 公益財団法人岩手県文化振興事業団理事長の職にある者
- (3) 一般社団法人岩手県芸術文化協会の会長及び副会長の職にある者
- (4) 一般社団法人岩手県芸術文化協会会長の推薦に基づき岩手芸術祭実行委員会会長が委嘱した者
- (5) 岩手県小・中学校美術展協会の事務局長の職にある者

（役員）

第4条 この会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1人
- (2) 副会長 2人
- (3) 監事 2人

2 会長は、一般社団法人岩手県芸術文化協会の会長又は会長の職務代理の職にある者をもって充てる。

3 副会長及び監事は、実行委員の中から会長が委嘱する。

4 役員は、相互にこれを兼ねることができない。

（役員の仕事）

第5条 会長は、この会を代表し、会務を総括する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、会長があらかじめ定める順序により職務を代理する。

3 監事は、この会の財務を監査する。

（実行委員の任期）

第6条 実行委員の任期は、委嘱を受けた日から1年間とする。

（実行委員会議）

第7条 この会の会議は、実行委員をもって構成し、岩手芸術祭の開催に係る次に掲げる事項について議決する。

- (1) 総合的な企画及び運営に関すること。
- (2) 事業計画及び予算に関すること。
- (3) 事業報告及び決算に関すること。
- (4) その他この会の運営に関する重要な事項

2 会議は、会長が召集する。

3 会議の議長は、会長がこれにあたる。

4 会議は、実行委員会の過半数の出席をもって開会し、出席者の過半数をもって決する。

第68回岩手芸術祭開催要綱

- 1 趣 旨
県民の優れた芸術文化活動の成果を発表し、広く県民に鑑賞の機会を提供することにより、本県芸術文化の創造と発展に寄与するとともに、豊かな県民性の高揚に資する。
- 2 名 称 第68回岩手芸術祭
- 3 主 催 岩手県教育委員会 岩手県文化振興事業団 岩手県芸術文化協会 岩手日報社 IBC岩手放送 テレビ岩手めんこいテレビ 岩手朝日テレビ エフエム岩手
- 4 後 援 盛岡市 NHK盛岡放送局
- 5 運 営 第67回岩手芸術祭実行委員会
- 6 期 間 平成27年10月3日～平成28年2月
- 7 会 場 岩手県民会館ほか
- 8 開催行事
 - (1) 開幕式典
 - (2) 美術展（巡回美術展）
日本画、洋画、版画、彫刻、工芸、書道、写真、デザイン、現代美術、水墨画
 - (3) 小・中学校美術展（巡回小・中学校美術展）
小学校絵画、小学校書写、中学校美術、中学校書写
 - (4) 演 劇
 - (5) 映 像
 - (6) 伝統芸能
能楽、邦楽、茶道、華道、吟剣詩舞道
 - (7) 音 楽
合唱、声楽、弦楽、三曲、吹奏楽、ピアノ、ギター
 - (8) 舞 踊
洋舞、日舞
 - (9) 演 芸
民謡、新舞踊
 - (10) 移動公演
 - (11) 文 芸
ア 県民文芸作品集
小説、戯曲・シナリオ、文芸評論、随筆、児童文学、詩、短歌、俳句、川柳

〔編集後記〕

◆芸術の秋を彩る祭典として県内最大のイベントである「岩手芸術祭」は、十月三日、岩手県民会館大ホールで開幕しました。その後、美術、舞台等、文芸各部門の発表が順次行われ、翌年の二月までの開催期間に、多くの皆様にご参加、御鑑賞いただくことができました。

◆さて、岩手芸術祭は秋の祭典ですが、その運営は四月からすでに始まっています。総合テーマの募集に始まり、部門毎の実行委員会を開催、その後は公募要項の作成、広報活動が落ち着く頃はもう初秋です。

◆公募の種類は美術十種、映像、ピアノ、声楽、文芸九種にもなります。部門の種類が多いのも岩手芸術祭の誇るべき特色のひとつですが、公募に関する一連の作業を滞り無く行うためには、部門毎に委嘱する専門性を持った実行委員の働きが不可欠です。また、小中学生からの絵画・美術・書写作品の応募も七千点近くにもなりますが、こちらも小中学校の教員で組織する小中学校美術展協会が運営にあたっています。

◆各方面の方々に支えられながら、今年もこの芸術祭を開催できましたことを、事務局としてたいへん嬉しく思います。

◆従来より冊子で刊行しておりました本記録集ですが、昨

年度よりデジタルブックとして、インターネットを通してどなたでも閲覧いただけるようになりました。まだ冊子の方が馴染み深いという方もいらっしゃるかもしれませんが、今後活用の幅が広がることを期待しております。

◆内容は今まで通り、第六十八回岩手芸術祭の実施報告書として作成し、今後の資料としても御活用いただけるよう、各種目のプログラム、公募要項、入賞者名簿、講評・選評等をまとめています。関係機関、関係団体など多くの方々にご覧いただき、今後の県民の芸術文化活動に係る参考資料として御活用ください。

◆第六十八回岩手芸術祭も記録集の完成をもって一切の事業が終了します。関係各位の御協力に、改めて感謝申し上げます。

「第68回岩手芸術祭」

発行 日 平成二十八年四月三十日

編集・発行 第六十八回岩手芸術祭実行委員会
(〒011-0101 盛岡市丸十三-1)

第六十八回岩手芸術祭実行委員会

(岩手県文化振興事業団総務部内)
電話 (019) 654-2335

印刷・製本 川口印刷工業株式会社
盛岡市羽場1-1-12

電話 (019) 632-2311

第68回岩手芸術祭市町村別応募状況一覧

市町村名	部門	美術展応募点数										県民文芸作品集応募点数											
		日本画	洋画	版画	彫刻	工芸	書道	写真	デザイン	現代美術	水墨画	計	小説	戯曲・シナリオ	文芸評論	随筆	児童文学	詩	短歌	俳句	川柳	計	
盛岡市	盛岡市	12	44	21	5	8	97	72	40	20	57	376	2	3	3	20	4	24	27	62	19	164	
	八幡平市		1			1		1			1	4				1		3		2		6	
	岩手町		1					1				2	1				1	1	3	5		1	12
	雫石町		6				1					7								1	1		2
	葛巻町		2					5				7					1				2	1	4
	滝沢市	1	12	2	1	1	9	6	3	1	10	46										1	1
	紫波町	2	5	1		4	7				2	21	1		1	1	1	3	3	6	5	21	
矢巾町	3	5	2	1	1	7	1	2		2	24									2		2	
小計	18	76	26	7	15	121	86	45	21	72	487	4	3	4	24	6	33	35	76	27	212		
中部	花巻市	2	8	3		6	10	7	2	1	5	44	1		1	6		3	4	16	10	41	
	遠野市		4			5	2	2			2	15								1	2	3	
	北上市		11	1	1	4	7	5		1	7	37	2			5	1	6	6	28	2	50	
	西和賀町											0									2	2	
	小計	2	23	4	1	15	19	14	2	2	14	96	3		1	11	1	9	10	47	14	96	
南	奥州市	1	10	2	4	2	6	4	2		2	33	1			6	1		6	18	4	36	
	金ヶ崎町		1								1	2	1			2	1			2		6	
	一関市	1	15	1	1	1	5	2			22	48	1			5		4	4	13	2	29	
	平泉町	1	1				1	1			1	5				1				2		3	
小計	3	27	3	5	3	12	7	2	0	26	88	3			14	2	4	10	35	6	74		
沿岸南部	大船渡市		5				2	2			2	11				2		6		1		9	
	陸前高田市		1			2	2				1	6						3	4	4		11	
	住田町					1					1							1				1	
	釜石市		13	2		2	5	6	4		2	34	1		1	1		2	1	3		9	
	大槌町						2	2				4											
小計	0	19	2	0	5	9	10	6	0	5	56	1		1	3	0	7	5	6	7		30	

市町村名	部門	美術展応募点数										県民文芸作品集応募点数											
		日本画	洋画	版画	彫刻	工芸	書道	写真	デザイン	現代美術	水墨画	計	小説	戯曲・シナリオ	文芸評論	随筆	児童文学	詩	短歌	俳句	川柳	計	
宮古市	宮古市		20			1	4	15	7			2	49	1	1	1	2	5	4	3	4	9	30
	山田町	7	1									8							1	1		2	
	岩泉町		2				3					5				1			2	1	1	5	
	田野畑村		1					1				2											
	小計	7	24	0	1	7	16	7	0	0	2	64	1	1	1	3	5	4	6	6	10	37	
久慈市	久慈市		6					1	8		1	2	18	2			2			1	5	2	12
	洋野町							1				1									4	4	
	野田村											0											
	普代村											0								1	1	2	
	二戸市		3					4	4			11							1	1	1	3	
	一戸町		2					1			1	4								2	1	3	
北	軽米町		2					2			4												
	九戸村		1								1												
	小計	0	14	0	0	2	7	12	0	2	2	39	2			2		0	2	9	9	24	
	県外	2	2	1	1	2					2	10	1					13	2	2	5	23	
合計	32	185	36	15	49	184	136	55	25	123	840	15	4	7	57	14	70	70	181	78	496		

《第68回岩手芸術祭開催状況》

事業名		期 日	会 場	入場料金	入場者数
開幕式典・開幕フェスティバル		10月3日(土)	岩手県民会館／大ホール	無料	800人
美術展	1期 洋彫 画刻	10月3日(土)～6日(火)	岩手県民会館／展示室	300円 高校生以下 無料	4,027人
	2期 工書 芸道	10月9日(金)～12日(月)・(祝)			
	3期 日本画 水墨画	10月15日(木)～18日(日)			
	4期 写デ ザ イ ン 現 代 美 術	10月22日(木)～25日(日)			
巡回美術展	美術展及び映像コンクール入賞作品(82点)	11月14日(土)～15日(日)	アンバーホール(久慈市)	無料	1,728人
		11月17日(火)～19日(木)	一戸町コミュニティセンター		
		11月21日(土)～23日(月)・(祝)	岩泉町民会館		
		11月28日(土)～12月2日(水)	Zホール(奥州市)		
		12月5日(土)～6日(日)	宮古市民文化会館		
12月11日(金)～13日(日)	山田町中央公民館				
小・中学校美術展	小・中学校書写、絵画	12月11日(金)～13日(日)	岩手県民会館／展示室	無料	2,206人
巡回小・中学校美術展	小・中学校美術展入賞作品(300点)	12月23日(水)・(祝)～12月25日(金)	宮古市民文化会館など4会場	無料	210人
演劇	「北芸の会」公演	10月18日(日)	日本現代詩歌文学館(北上市)	700円	110人
	「劇団青い海」公演	11月1日(日)	シープラザ遊(釜石市)	無料	150人
	「劇団我夢」公演	11月8日(日)	Zホール(奥州市)	無料	348人
	「劇団赤い風」公演	11月21日(土)～22日(日)	もりおか町屋物語館・浜藤ホール	1,800円(1,500円) 学生・シニア1,200円	197人
	「劇団ふるさと発信株式会社」公演	11月22日(日)	八幡平市荒屋コミュニティセンター体育館	700円(500円)	63人
映像	映像フェスティバル	10月25日(日)	もりおか町屋物語館	無料	40人
伝統芸能	茶 会	10月4日(日)	盛岡市中央公民館	2,300円(2,000円)	767人
	吟詠剣詩舞道祭	10月4日(日)	岩手県民会館／大ホール	無料	916人
	謡と仕舞の会	11月23日(月)・(祝)	岩手県民会館／中ホール	無料	320人

事業名		期 日	会 場	入場料金	入場者数
伝統芸能	華道展	11月6日(金)～9日(月)	岩手県民会館／展示室	300円	1,800人
	邦楽のつどい	11月8日(日)	岩手県民会館／中ホール	1,000円	576人
音楽	ソロと室内楽の調べ	10月4日(日)	岩手県民会館／中ホール	1,000円	235人
	ピアノ演奏会	10月17日(土)	岩手県民会館／中ホール	1,000円	250人
	三曲演奏会	10月18日(日)	岩手県民会館／大ホール	1,000円	450人
	声楽演奏会	11月7日(土)	岩手県民会館／中ホール	900円 高校生以下無料	298人
	ギター音楽の夕べ	11月21日(土)	岩手県民会館／中ホール	700円(500円)	195人
	吹奏楽演奏会	11月22日(日)	盛岡市民文化ホール／大ホール	1,000円(700円) 小学生以下無料	856人
舞踊	合唱祭	12月13日(日)	花巻市文化会館	1,000円(800円) 高校生以下700円(500円)	850人
	洋舞発表会	10月11日(日)	岩手県民会館／大ホール	3,800円	1,185人
演芸	日本舞踊公演	11月15日(日)	岩手県民会館／大ホール	3,000円	1,800人
	新舞踊発表会	H28年2月21日(日)	さくらホール(北上市)	2,500円(2,000円)	1,200人
	民謡まつり	11月8日(日)	岩手県民会館／大ホール	2,000円(1,500円) 高校生以下無料	708人
文芸祭	小説大会	11月1日(日)	岩手県民会館(盛岡市)	無料	10人
	戯曲大会	H28年1月16日(土)	盛岡劇場タウンホール	1,000円	15人
	文芸評論大会	10月11日(日)	岩手大学農学部一号会議室	無料 懇親会1,000円	19人
	随筆大会	10月31日(土)	日本現代詩歌文学館(北上市)	無料	23人
	児童文学大会	11月8日(日)	プラザおでつて(盛岡市)	無料	28人
	詩の大会	10月18日(日)	なはんプラザ(花巻市)	1,000円	12人
	短歌大会	10月10日(土)	盛岡市勤労福祉会館	1,000円	101人
俳句大会	10月17日(土)	岩手県公会堂	2,000円	79人	
川柳大会	10月26日(月)	アイーナ501号室(盛岡市)	2,000円 懇親会3,000円	66人	
県民文芸作品集第46集刊行		小説／戯曲・シナリオ／文芸評論／随筆／児童文学／詩／短歌／俳句／川柳	12月12日刊行		496人
移動公演	新舞踊公演	11月29日(日)	サンホテル衣川荘(奥州市)	無料	118人
	新舞踊公演	12月5日(土)	一戸町コミュニティセンター	無料	225人

※料金の()内は、前売り料金